

第一百九條 町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第二十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セシトスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第二十一條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯塞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之ヲ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第二十二條 町村又ハ其組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十三條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第二十四條 内務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第二十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村條例ヲ設ケ並改正スル事

二 學藝、美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口一萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ

第二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス

二 町村特別稅並使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事



- 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
  - 三 町村有不動産ノ賣却讓與並質入書入ヲ爲ス事
  - 四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
  - 五 各種ノ保證ヲ與フル事
  - 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非シテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事
  - 七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)
  - 八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事
  - 九 第一百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事
- 第二百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ隨責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス
- 追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ
- 一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
  - 二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
  - 三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得

第二百二十九條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第八章 附則

第二百三十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第二百三十一條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職務並町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第二百三十二條 此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第二百三十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シ

第二百三十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ



第三百二十五條

第三百二十六條

告示ス

第三百二十七條

此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第三百二十八條

明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公債共有物取扱土木起功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、

明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其

他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ止ス

第三百二十九條

内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

市制町村制理由

本制ノ旨趣ハ自治及分權ノ原則ヲ實施セントスルニ在リテ現今ノ情勢ニ照シ程度ノ宜キニ從ヒ以テ立法上其端緒ヲ開キタルモノナリ此法制ヲ施行セントスルニハ必先ツ地方自治ノ區ヲ造成セサル可カラス地方ノ自治區ハ特立ノ組織ヲ爲シ公法民法ノ二者ニ於テ共ニ一人民ト權利ヲ同シクシ之ガ理事者タルノ機關ヲ有スルモノナリ其機關ハ法制ノ定ムル所ニ依テ組織シ自治體ハ即チ之ニ依テ其意ヲ表發シ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス故ニ自治區ハ法人トシテ財產ヲ所有シ之ヲ授受賣買シ他人ト契約ヲ結ビ權利ヲ得義務ヲ負ヒ又其區域内ハ自ラ獨立シテ之ヲ統治スルモノナリ然リト雖モ其區域ハ素ト國ノ一部分ニシテ國ノ統轄ノ下ニ於テ義務ヲ盡サシルヲ得ス故ニ國ハ法律ヲ以テ其組織ヲ定メ其負擔ノ範圍ヲ設ケ常ニ之ヲ監督ス可キモノトス

國內ノ人民各其自治ノ團結ヲ爲シ政府之ヲ統一シテ其機關ヲ執ルハ國家ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以ナリ國家ノ基礎ヲ固クセントセハ地方ノ區畫ヲ以テ自治ノ機體ト爲シ以テ其部内ノ利害ヲ負擔セシメサル可カラス

現今ノ制ハ府縣ノ下郡區町村アリ區町村ハ稍自治ノ體ヲ存スト雖モ未タ完全ナル自治ノ制アルヲ見ス郡ノ加キハ全ク行政ノ區畫タルニ過キス府縣ハ素ト行政ノ區畫ニシテ幾分自治ノ制ヲ兼テ有セルカ如シト雖モ是亦全ク自治ノ制アリト謂フ可カラス今前述ノ理由ニ依リ此區畫ヲ以テ悉ク完全ナル自治體ト爲スニ必要ナリトス即府縣郡市町村ヲ以テ三階級ノ自治體ト爲サントス此階級ヲ設ケルハ分權ノ制ヲ施スニ於テモ亦重要ナリトス蓋自治區ニハ其自治體共同ノ事務ヲ任ス可キノミナラス一般ノ行政ニ屬スル事ト雖トモ全國ノ統治ニ必要ニシテ官府自ラ處理スヘキモノヲ除クノ外之ヲ地方ニ分任スルヲ得策ナリトス故ニ其町村ノ力ニ堪フル者ハ之ヲ其負擔トシ其力ニ堪ヘサル者ハ之ヲ其郡ニ任シ郡ノ力ニ及ハサル者ハ之ヲ府縣ノ負擔トス可シ是階級ノ重複スルヲ厭ハスシテ却テ利益アリト爲ス所以ナリ

維新ノ後政務ヲ集攬シテ一ニ之ヲ中央ノ政府ニ統ヘ地方官ハ各其職權アリト雖モ政府ノ委任ニ依テ代テ事ヲ處スルニ過キス今地方ノ制度ヲ改ムルハ即チ政府ノ事務ヲ地方ニ分任シ又人民ヲシテ之ニ參與セシメ以テ政府ノ繁雜ヲ省キ併ヒテ人民ノ本務ヲ盡サシメントスルニ在リ而シテ政府ハ政治ハ大綱ヲ握リ方針ヲ授ケ國家統御ノ實ヲ舉ケルヲ得可ク人民ハ自治ノ責任ヲ分チ以テ専ラ地方ノ公益ヲ計ルノ心ヲ起スニ至ル可シ蓋人民參政ノ思想發達スルニ從ヒ之ヲ利用シテ地方ノ公事ニ練習セシメ施政ノ難易ヲ知ラシメ漸ク國事ニ任スルノ實力ヲ養成セントス是將來立憲ノ制ニ於テ國家百世ノ基礎ヲ立ツルノ根源ナリ

故ニ分權ノ主義ニ依リ行政事務ヲ地方ニ分任シ國民ヲシテ公同ノ事務ヲ負擔セシメ以テ自治ノ實ヲ全カラシメントスルニハ技術專門

市制町村制理由



ノ職若クハ常職トシテ任ス可キ職務ヲ除ク外概テ地方ノ人民ヲシテ名譽ノ爲メ無給ニシテ其職ヲ執ラシムルヲ要ス而シテ之ヲ擔任スルハ其地方人民ノ義務ト爲ス是國民タル者則ニ盡スル本務ニシテ丁壯ノ兵役ニ服スルト原則同クシテ更ニ一歩ヲ進ムルモノナリ然レトモ人民ヲシテ若クハ此義務ヲ帯ハシムルトキハ其任又輕シト爲サズ故ニ一初ニシテ此制ヲ實行セントスルハ頗ル難事ニ屬スト雖モ其目的タル國家永遠ノ計ニ在リテ故果テ達成ニ期セズ漸次參政ノ道ヲ擴張シテ公務ニ親然セシメントスルニ在リ是ヲ以テ力メテ多ク地方ノ名譽アル者ヲ舉ゲテ此任ニ當ラシメ其地位ヲ高クシ待遇ヲ厚クシ無用ノ勞費ヲ省ハシメス僥倖ノ念ヲ生セサラシムルトキハ漸ク其實任ノ重キヲ知リ參政ノ者雖モ其任ヲ辭スルニ至ラントス且本邦舊來ノ制ヲ考フルニ無給職ニシテ町村ノ事務ニ任スルノ例アリ各地方ノ習慣固ヨリ一定ナルニ非ス且維新後數次ノ變革ニ依テ頗ル此習慣ヲ破リタリト雖モ今日ニ及テ之ヲ廢用スルコト論議カフサレ可シ是此制ヲ實施スルニ方テ多少ノ困難アルニ拘ラズ漸次其目的ヲ達セシムルコトヲ期シテ變ハサル所ナリ

然レトモ他ノ一方ヨリ之ヲ見ルトキハ又地方ノ情況ニ依リ多少ノ酌量ヲ加ヘサルヲ得サルモノアリ是ヲ以テ町村長ハ公選ト爲スト雖モ其選舉立キテ得サルトキハ臨時官選ヲ許シ或ハ官吏ヲ派遣シテ其事務ヲ執ラシムルノ例アリ又島嶼ノ地其他特別ノ事情アリテ此制ヲ實施シ難キ地方ニハ之ヲ行ハサルヲ許スノ例アリ(町村制第六十一條第六十二條第六十三條)其他充分ニ實地活用ノ力ヲ與ヘハレハ各地ノ實況ニ照シテ之ニ應ズルノ例アルヲ信ス固ヨリ此等ノ法令ハ人民ノ情態ニ依リ智識ノ度ニ應ジテ立キテ取ラサルヲ得ス他ニ自治ノ理論ニ據テ俄ニ其完備ヲ求ムルカ如キハ立法者ノ慎重ヲ加フ可キ所ナリトス是本制多少ノ斟酌ナキヲ得サル所以ナリ

本制ヲ施行スルニ付テハ漸ク以テ郡府縣ノ制度ノ改正ニ及ハサルヲ得サルモノアリ今其概略ヲ舉クハ郡ニ郡長ヲ置キ府縣ニ府縣知事ヲ置キ其選任細則等固ヨリ詳シクシテ之ヲ改メスト雖モ府縣會ノ外新ニ郡會ヲ開キ府縣郡ニ各參事會ヲ設ケサルヲ得ス然レトモ是等ノ事ハ府縣郡制ノ制定アルヲ待テ始メテ定マル可キ事ニシテ今只之ヲ以テ本制ノ參考ニ供スルニ

本制ニ制定スル町村ノ共ニ最下級ノ自治體ニシテ市ト云フ町村ト云フ郡縣ノ別ニ依テ其名ヲ異ニスルニ過キス其制度ヲ立ツルノ原實ニ至テハ彼此相異ナル所ナシ元來町村トハ人民生計ノ情態ニ於テ其趣ヲ同クセサルモノアリテ細カニ之ヲ論ズルハ均一ノ標準ニ依リ難キモノナキニ非スト雖モ本邦現今ノ狀況ヲ察シ舊來ノ慣習ニ依テ之ヲ考フルニ都會縣縣ノ地ヲ除クノ外宿縣ト稱シ町ト稱スルモノ施政ノ大體ニ於テ村落ト異動アルコトナシ故ニ今之ヲ同一制度ノ下ニ立タシメントス其施政ノ細目ニ至テハ或ハ多少ノ差異ヲ見ルコトアルヘシト雖モ此等ハ制度ノ範圍内ニ於テ執行者ノ處分酌量立キ得ルト否トニ在ル可キモノトス然レトモ都會ノ地ニ至テハ大人情風俗ヲ異ニシ經濟上自ラ差別アリ故ニ之ヲ分離シテ別ニ市制ヲ立テ機關ノ組織及行政監督ノ例ヲ異ニセリ是固ヨリ町村制ト

此性質ヲ異ニスルニ非ス其市民ノ便益ト實際ノ必要トニ出テ然ラサルヲ得サルナリ即現行ノ區制ニ繼續スル所ノ者ナリト雖モ從來ノ區ハ郡ノ區域ヲ離レシテ行政上別ニ吏員ヲ置キ事務ヲ處理スルニ過キサリシモ今改メテ獨立分縣セシメ從來區ノ下ニ町アリシモノヲ改メテ市ト最下級ノ自治體ト爲サントス而シテ三府市街ノ如キハ其情況又他ノ都會ノ地ト同シカラサルモノアルヲ以テ市制中機關ノ組織等ニ於テ二三ノ特別ヲ設ケルモノアリ今此市制ヲ施行セントスル者ハ三府其他人口凡二萬五千以上ノ市街地ニ在リトス先郡制制定ノ時ニ至テ其要件ヲ確定スルコトアル可シト雖モ今內務大臣ノ定ムル所ニ從テ之ヲ施行セントス區ノ名稱ヲ改メテ市ト爲スハ三府ノ如キ一府内ノ區ト混同スルヲ避ケルナリ町村ハ通シテ其組織相同ス可キハ前述ノ如シト雖モ其大小廣狹ニ依リ又ハ發達繁閑ニ依リテ自治事情ヲ異ニスル者ナキニ非ス故ニ或ハ一定ノ例規ヲ適用シ難キモノアリ是亦酌量ヲ加ヘ法律ノ範圍ヲ廣クシテ地方ノ便宜ヲ與ヘントスルナリ(町村制第十一條第十四條第十五條第三十二條第五十二條第五十六條第六十三條第六十四條第六百三十三條)

市制町村制第一章 總則

凡市町村ハ他ノ自治區ト同ク二箇ノ元素ヲ存セサル可カラズ即チ疆土ト人民ト是ナリ此二者其一ヲ缺クテハ市町村ノ自治體ヲ爲スコト足ラザルナリ而シテ市町村ノ制度ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト雖モ或ハ界限内ニ在テ市町村ニ自主ノ權ヲ付與スルモノトス是テ市町村ノ基礎トス

第一款 市制町村制施行スルノ地ヲ定メ(市制町村制第一條)法律上市町村ノ性質ヲ明ニシ(市制町村制第二條)次テ第一元素タル疆土ニ關スル條件ヲ定メ(市制町村制自第三條至第五條)

第二款 第二元素ニ關スル條件、住民權公民權ノ得喪及住民權公民權ヨリ生スル權利義務ヲ規定ス(市制町村制自第六條至第九條)

第三款 市町村ニ付與スル自主權ノ範圍ヲ示ス(市制町村制第十條)

第一款 市町村及其區域

市町村ノ區域ハ一方ニ在テハ國土分縣ノ最下級ニシテ即國ノ行政區畫タリ一方ニ在テハ獨立シタル自治體ノ疆土タリ其疆土ハ自治體カ公法上ノ權利ヲ執行シ義務ヲ履行スルノ區域ナリ

故ニ市町村ノ區域ハ從來ノ成立ヲ存シテ之ヲ變更セサルヲ以テ原則トス然レトモ町村ノ力衰弱ニシテ其負擔ニ堪ヘズ自ラ獨立シテ其水分テ處スコト能ハサルモノアリ是市町村自己ノ不利タルモノナラス國ノ公益ニ非サルナリ是ヲ以テ有方ノ町村ヲ造成シ維持スルハ

市制町村制理由



國ノ利害ニ關スル所ニシテ町村ノ應置分合若クハ區域ノ變更等ニ付キ國ノ干涉ヲ要スルコト明ナリ固ヨリ關係アル土地ノ所有主及自治區ヲシテ利害ノ關スル所ニ依テ各其意見ヲ述スルノ機會ヲ得セシメ其意見一般ノ公益ヲ害セサル限リハ之ヲ採用セサル可カラズ尤他ノ一方ヨリ論スルトキハ其關係者タルモノハ動モスレハ自己ノ利害ニ偏シ永遠ノ得失ヲ顧サルカ如キコトアルヲ免レヌ故ニ一ニ其承諾ニ依テ決スルコトヲ得ス假令其承諾ナキモ之ヲ斷行スルノ權力アルヲ要ス然レトモ此等ノ處置タルヤ地方ノ情況ニ通曉スルヲ要シ且公平ヲ示シシカ爲メニ高等自治區審事會ノ議決ニ任スルヲ至當トス(市制町村制第四條)

本制ハ町村ノ分合ニ就テ詳細ナル規則ヲ設ケ各各地ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地ヲ存スルナリ唯充分ノ資格ヲ有セサル町村ハ比隣相合併ス可キノ例ヲ設ケ此ノ如キ町村ハ獨立ヲ有セシムルコトヲ得サルヲ以テ假令其承諾ナキモ他ノ町村ニ合併シ又ハ數箇相合シテ新町村ヲ造成セサル可カラズ固ヨリ本制ニ定ムルカ如ク各市町村從前ノ區域ヲ變更セサルハ其原則ナリト雖モ現今各町村ノ大半ハ狹小ニ過キ本制ニ據テ獨立町村タル資格ヲ有スルヲ得サルモノ益少カラズ故ニ合併ノ處分ヲ爲スモ亦已ムヲ得サル所ナリ然レトモ分合ノ例規ハ詳ニ之ヲ法律ニ制定セシ其緩急ヲ行政廳ノ見ル所ニ任スルモノハ各地ノ地形人情及古來ノ沿革ヲ參酌スルノ自由ヲ得セシメントスルニ在リ若シ其實行ニ方テ執行者ノ標準ヲ定ムルカ如キハ時ニ臨テ命令ヲ發スルコトアル可シ之ヲ要スルニ町村ハ舊來ノ區域ヲ存シテ改メサルヲ原則トシ實力ヲキモノハ之ヲ合併シテ以テ法律ノ變更スル有力ノ町村ヲ造成セシムルコトヲ期スルニ在リ又合併ノ爲メニ其區域廣闊ニ過キ地形人情ノ自然ヲ失ヒ共有物ノ區域ヲ混シ其使用ノ便ヲ害スル等ノ事ナキヲ要ス然レモ今日ニ在テハ事情已ムヲ得サルモノアリテ十全ノ合併ヲ爲スコトヲ得ヌ又合併ヲ以テ不便ト爲スカ如キコトアルヘシ故ニ町村制第六十六條ニ於テ町村組合ヲ設ケルノ便法ヲ存セリ其組合町村ハ各獨立ヲ保テテ共同シテ一定ノ事務ヲ處理スルモノナリ其共同事務ノ範圍等ハ實地ノ需要ニ依テ便宜之ヲ議定スルニ任ス

凡區域ヲ變更スルニ方テハ必關係者ノ協議ヲ以テ財產處分又ハ費用ノ分擔ヲ定ムルヲ要ス是亦一定ノ例規ヲ示サス蓋此等ノ處分ハ強ク法律ニ泥ニス故ニ法律ニ依ルヲ以テ審判トス但其專斷偏私ノ弊ナカラシメンカ爲メ其處分ヲ審事會ニ任セリ而シテ其審事會ノ議決ニ對シテハ司法ノ裁判ヲ仰クヲ許サズ

市町村境界ノ爭論ハ公法上ノ權利ノ廣狹ニ關スルヲ以テ公法ニ屬セリ故ニ此類ノ爭論ハ司法裁判ヲ求ムルヲ許サスシテ審事會ノ議決ニ付シテ審判ニ於テハ行政裁判所ノ判決ニ任セリ(市制町村制第五條)若シ之ニ反シテ民法上ノ所有權者クハ使用權ニ關スル爭論ハ固ヨリ司法裁判ニ屬スヘキヲ以テ其爭論者ハ一方若クハ雙方トモ市町村ニ係ルト雖モ審事會ノ議決ニ付セズ行政裁判ニ屬セサルハ勿論ナリ

第二款 市町村住民及公民權

町村ト人民トノ關係ハ現行ノ法ニ於テ本籍寄留ノ別アリ現實ノ居住地ハ必シモ本籍地ナラス本籍ハ殆ント虛名ヲ存スルニ過キサルモノアリ而シテ府縣會議員ノ選舉ノ如キ公法上ノ權利ハ本籍ニ屬シテ寄留地ニ屬セサル者アリ甚タ事實ト相違セシ蓋シ公法上ノ權利ヲ行フハ現實ノ利害ニ基ク可シテ虛名ニ依ル可カラズ故ニ本制ニ於テハ現行本籍寄留ノ法ニ依ラズ凡市町村內ニ住居ヲ定ムル者ハ即市町村住民ニシテ本籍寄留ノ別アルコトナシ市町村住民即屬籍ノ例規ハ別ニ法令ヲ以テ之ヲ制定セシムルコトヲ期ス故ニ茲ニ之ヲ詳述セスト雖モ要スルニ本制ノ行ハルハ日ヨリ人民ト市町村トノ關係即町村ノ屬籍ニ付テハ從來本籍寄留ノ例ヲ一變スルモノナリ但月籍上ノ事即月籍來歴ノ關係ニ於テハ之ト相關スルコトナク從前ノ月籍法ヲ存シテ之ヲ變更セサルナリ

市町村住民ノ權利ハ市町村ノ發造物ヲ共用シ其財產所得ノ使用ニ參與スルニ在リ但法律及市町村ノ條例規則ニ據ル可キハ固ヨリ實チ俟タズ其義務ハ市町村ノ負擔ヲ分擔スルニ在リ其義務ノ生スルハ即市町村ニ住居ヲ定メ住民ト爲リシ時ニ起ル但市町村內ニ住居ヲ定メヌ一時滞在スル者即市町村住民ニ非サル者ト雖モ其滞在ノ久キニ至テハ市町村ノ負擔ニ任セシムルヲ當然トス(市制町村制第九十二條)

或ニ身稱族ニ在ル者ト一時ノ滞在者トヲ除クノ外凡町村內ニ住居ヲ定ムル者ハ即市町村住民タリ軍人官吏ノ如キモ亦皆然リ然レト雖モ軍人官吏ハ公民權ヲ行ヒ及市町村ノ負擔ヲ分任スル上ニ於テ例外ニ假クテ必要ト爲スノ條件アリ即市制第八條、第九條、第十二條、第十五條、第五十五條、第九十六條、町村制第八條、第九條、第十二條、第十五條、第五十三條、第九十六條ニ定ムル所ノ如シ又皇族ハ市町村ノ風俗外タルコト勿論ナレハ致テ本制ニ掲載セズ

市町村住民中公務ニ參與スルノ權アリ又義務アル者ハ別ニ要件ヲ定メテ其實格ニ適フ者ニ限ル之ヲ公民トス(市制町村制第七條)

公民ハ住民中ニ在テ特別ノ權利ヲ有シ重大ノ負擔ヲ帶ヒタル者トス其實格ノ要件ハ自ラ民度風俗ニ從ヒ各地方ノ情況ヲ酌シ以テ其宜チ制スルヲ便ナリトス故ニ市町村ノ自主ノ權ニ任セ適宜之ヲ制定セシムル可キカ如シト雖モ又一方ヨリ若クハ各地方區々ニ出テ權利上公平ヲ失スルノ恐ナキ能ハヌ各國ノ例ヲ參照スルニ是亦異同アリテ一定セシムル本邦ノ民度情狀ヲ察シ併セテ各國ノ制ヲ參酌シ之ヲ制定セリ

各國ノ例ヲ參照スルニ大略二類アリ一ハ即市町村住民ニシテ法律上ノ要件ニ適スルトキハ直ニ公民トナルノ法トシ一ハ則特別ノ手續ニ



依テ公民權ヲ得ルノ法トシテ第一ノ例ヲ以テ適當ト爲ス故ニ本制ハ市町村住民中市町村制第七條ニ規定シタル要件ニ適スルトキハ直ニ公民タルヲ得ルモノトス

外國人及公權ヲ有セザル者ニハ公民權ヲ與フ可カラサルコト疑テ容レヌ本制ニ於テハ婦人及獨立セザル者モ亦皆公民外ニ置クテ通例トス但市町村制第十二條、第二十四條ニ於テハ之ニ選舉權ヲ與フルノ特例アリ官府其他總テ法人タル者モ亦之ニ準シ其他ハ一般ニ二年以來市町村制第七條ニ列記シタル要件ヲ有スルヲ要ス然レニ二年以上ノ制限アルハ或ハ不公平ヲ生スルノ恐アリト雖モ市町村會ニ於テ之ヲ特免スルノ權利ヲ有スルヲ以テ其甚シキニ至ラサル可シ其他多額ノ納稅者ニ就テモ亦之ニ類スル特例ヲ設ク(市町村制第十二條) 甲市町村ノ住民ニシテ乙市町村内ニ土地ヲ所有シ若クハ營業ヲ爲スカ爲メニ市町村制第九十三條ニ從ヒ市町村稅ヲ負擔スル者アリ此ノ如キ者ニハ固ヨリ完全ノ公民權ヲ與ヘスト雖モ市町村制第十二條ニ從テ特ニ選舉權ヲ行ハシムルモノトス蓋本制ニ定ムル要件中納稅額ノ制限ヲ設ケル所制ハ市町村ヲ以テ其盛衰ニ利害ノ關係ヲ有セザル無智無慮ノ小民ニ放任スルコトヲ欲セザルカ爲メナリ然レトモ本制ニハ二級若クハ三級選舉法ヲ行フニ依テ幸ニ小民ノ多數ヲ以テ資產者ヲ抑壓スルノ患ヲ免ル可キカ故ニ其制限ハ之ヲ低度ニ定ムルモ妨ケナシ元來選舉權ヲ擴充シ以テ細民不滿ノ念ヲ絕タシトナシ此選舉法ノ他ニ隣レトスル所稅ヲ標準ト爲シ市町村制第十二條、第十三條ノ場合ノ如ク市町村稅ヲ標準トセザル所以ノモハ現今町村設ノ賦課法タル各地方異同アリ米々完全ノ城ニ違セザルヲ以テ町村稅ニ依リ其標準ヲ立ツルハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テナリ

公民權ヲ得ルノ要件アル以上ハ其要件ヲ失フ者ハ又其權利喪フ可シ(市町村制第九條) 即公民權ハ左ノ事件ト共ニ消滅スルモノトス

- 一 國民籍ヲ失フ事
- 二 公權ヲ失フ事
- 三 市町村内ニ住居セザル事即住民權ヲ失フ事
- 四 公費ヲ以テ救助ヲ受クル事
- 五 獨立トシテ事即一月ヲ滿テフルコトヲ止メ又ハ治産ノ禁ヲ受クル事
- 六 市町村負擔ノ分任ヲ止ムル事
- 七 市町村内ノ所有地ヲ他人ニ讓リ又ハ直接間接二回以上ヲ納メザル事

租稅納納分申ノ者ハ公民權ヲ喪失スルニアラスシテ停止セザルモノナリ其他市町村制第九條第二項ニ記載セル場合ハ總テ之ニ同シ喪失ト停止トノ區別ハ停止ノ時ハ其權利ヲ存シテ只法律ニ定ムル事由ノ存スル間之ヲ執行ヲ止ムルニ在リ

公民權ヲ有スル者ハ一方ニ在テハ選舉權選舉ノ權利ヲ有シ一方ニ在テハ市町村ノ代議及行政上ノ名譽職ヲ擔任ス可キ義務ヲ負フモノトス此義務ハ法律上ノ義務ニ於ケレカ如ク強制シテ之ヲ履行セシメサル可カラズ固ヨリ直接ニ之ヲ強制スルヲ得スト雖モ故ナク名譽職ヲ拒絶シ退職シ又ハ實際職務セザル者ヲ懲罰スルニ公務ニ參與スルノ權利ヲ停止シ並市町村稅ヲ增課スルノ例アルハ即間接ノ懲罰ヲ存スル所以ナリ(市町村制第八條)

其懲罰ヲ行フノ權ハ之ヲ市町村會ニ付與シ、住民權公民權ノ有無等ニ關スル爭論モ亦之ヲ市町村會ノ議決ニ任シ(市制第三十五條) 市制第三十七條) 之ニ關スル既願ハ選舉會ノ議決ニ付シ行政裁判所ニ出訴スルヲ許シテ以テ其權利ヲ保護スルハ皆本制大體ノ精神ヨリ出ツル所ナリ

第三款 自主ノ權

自主ノ權トハ市町村等ノ自治體ニ於テ其内部ノ事務ヲ整理スルカ爲メニ法規ヲ立ツルノ權利ヲ謂フ所謂自治ノ義ト混同ス可カラズ自治トハ國ノ法律ニ遵依シ名譽職ヲ以テ事務ヲ處理スルヲ謂フ元來法規ヲ立ツルハ國權ニ屬スルモノナリト雖モ或ル範圍内ニ於テ之ヲ自治區ニ付與スル所以ノモスハ一國ノ立法權ヲ以テ周ク地方ノ情況ヲ酌量シ其特殊ノ需要ニ應スルコト能ハサルニ因ル固ヨリ市町村ノ法規ハ其市町村ノ區域内ニ限リ且國ノ法律ヲ以テ其自主權ニ任シタル事件ニ限リ効力アルモノトス其委任ノ範圍ノ如キハ古來ノ沿革及人民政治上ノ教育ノ度ニ伴隨ス可キモノニシテ其範圍ノ廣狹ニ依テ利害ノ分ル、所立法官タル者最慎マサル可カラズ今本邦各地方ノ情況ヲ觀ルニ自主ノ權ヲ適當ニ施行ス可キノ望ナキモノハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ或ハ法律ヲ以テ模範ヲ示シ獨地方ノ情況ニ依リ自主ノ權ヲ以テ之ヲ増減對シタルヲ許サントス

市町村ノ自主ノ權ヲ以テ設ケル所ノ法規ニ條例及規則ノ別アリ規則トハ市町村ノ營造物(瓦斯局、水道、病院ノ類)ノ組織及其使用法ヲ規定スルモノナリ條例トハ市町村ノ組織又ハ市町村ト其住民トノ關係即市町村ノ組織中ニ在テ權利義務ヲ規定スルモノナリ其法律命令ニ抵觸スルヲ得ザルハ二者共ニ相同シ但條例ニ在テハ此外獨制限アリ即法律ニ明文ヲ掲ケテ特例ヲ設ケルコトヲ許シ或ハ法律ノ明條ナクシテ自主ノ權ヲ許シタル場合ニ限ルモノトス明文ヲ以テ條例ヲ設ケルコトヲ許シタル場合ヲ列舉スルハ市制ニ在テハ第十一條、第十四條、第四十九條、第六十一條、第六十九條、第七十三條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第一百一十一條、第十四條、第四十九條、第六十一條、第六十九條、第七十三條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第一百一十一條

市制町村制理由



三條、町村制ニ在テハ第十一條、第十四條、第三十一條、第五十二條、第五十六條、第六十五條、第七十四條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第九十九條、第一百零二條、第一百零四條トス其他本制ニ於テ條例ト明ハスシテ條例ニ均シキ規定ヲ許シタル場合モ亦少カラス其條例規則ヲ新設改正スルハ市町村會之ヲ議決シ(市制第四十條、第四十八條、第六十條、町村制第四十二條、第五十條、第六十四條)

一、町村制第二百二十五條第一及第二百二十七條第一ニ依リ許可ヲ受ク可キモノトス但町村制第三十一條及第二百四條ニ於テハ特別トシテ之ヲ郡縣市會ノ議決ニ委任セリ是町村會ニ於テ此議決ヲ爲スヲ得ヌ又其議決ノ偏頗ニ失ヌルノ恐アルヲ以テナリ又本制施行ノ當初未ダ市町村會ヲ召集セサル間ニ於テ條例ヲ以テ規定ス可キ事項ノ處分法ハ市制第二百二十八條及町村制第三十一條ニ依ル其他條例規則ヲ論ヘン公布ヲ缺テ初メ他人ニ對シテ効力ヲ有スルハ一般ノ法理ニ照シテ疑ナキ所ナリ

市制町村制第二章 市會町村會

市町村ハ法人タル者ナラハ之ニ代テ思想ヲ發露シ之ニ代テ業務ヲ行フ所ノ機關ナカレカラス其機關ニ代臨ノ機關ト行政ノ機關トノ二者ナリ

代臨ノ機關トハ即市會町村會ニシテ其沿革ノ詳ナルハ今結テ附キ往時町村ノ聯合ト稱セシモノニ起リ維新後ニ至テ府縣會同各地方ニ町村會ヲ開キタリ然レトモ其法律ヲ以テ制定シタルハ即明治十三年ノ區町村會法ヲ創始トシ其後明治十七年ノ改正ヲ經テ今日ニ及ヘリ然レトモ其法律ハ會議ノ大則ヲ定メタルニ過キヌシテ餘ハ之ヲ各地方ノ適宜定ムル所ニ任セヨリ又全國ノ町村盛ク之ヲ開設スルニ非ス小町村ノ如キ會議ヲ設ケサルモ亦少シトセメ今之ヲ改メテ會議ノ規則ヲ制定スト雖モ猶多小ノ酌量ヲ地方ニ任セ且小町村ノ如キハ代臨會ヲ設ケサルヲ許シテ代リテ選任人ノ總會ヲ以テセリ

第一款 組織及選任

代臨機關ハ完全ナル權利ヲ有セル市町村民ノ選任ニ出ツルモノトス其組織ノ方法ニ至テハ外國ノ例ヲ參考スルニ各多少ノ異同アリ其國ノ情況ニ適合スル完備ノ法ヲ立ツルハ易カラサル所ナリト雖モ今古來ノ沿革時勢人情ヲ參照シ傍ラ外國ノ例ヲ參照シテ以テ其宜ヲ制定ス其要點左ノ如シ

一 選舉權

選舉權ハ衆ロリ完全ナル權利ヲ有セル公民ニ限リテ之ヲ有ス可シ然レニ此權利ヲ擴張シ特別トシテ之ヲ公民ナラサル者ニ與フルコト

マハ市制町村制第十二條是其人ノ利害ニ關スル所最厚ク且市町村稅負擔ノ最重キカ故ナリ此點ハ上ニ之ヲ詳述セリ

二 被選舉權

被選舉權ハ選舉權ヲ有スル者ニ限リテ之ヲ有ス可シト雖モ其市町村ノ公民ニ非サル者ニ至テハ假令選舉權ヲ有スルモ被選舉權ヲ有セヌ其他被選舉權ノ要件ヲ選舉權ノ要件ニ同クシテ別ニ之ヲ制限セザルハ適任ノ人物ヲ選擇スルノ區域ヲ徒ニ縮小セザランカ爲メナリ被選舉權ヲ與ヘサル制限ハ或ハ外國ノ例ヲ參照シテ之ヲ取ルモノアリ或ハ地方ノ情況ニ照シテ已ムヲ得サルモノアリ又本制ニ於テハ無給ノ市町村吏員ニ被選舉權ヲ與ヘヨリ市町村ノ行政事務ヲ掌ル名譽職ヲ擔任シ公共事務ニ從事スル者ヲ代議會ニ加フルヲ許スハ適當ナラサルカ如シト雖モ地方ニ依リテハ多ク適任ノ人ヲ得可カラサルヲ以テナリ行政ト代臨ト最利害ノ接觸ヲ易キ場合ニ關シテハ市制第三十八條第四十三條第六十六條第七十二條町村制第四十條第四十五條第七十三條等ニ於テ豫メ之ニ處スルノ法ヲ設ケタリ

三 選舉等級

本制ニ於テハ納稅額ニ依テ選舉人ノ等級ヲ立テ選舉權ヲ以テ市町村稅負擔ノ輕重ニ伴フシテ益名譽職ニ任スルハ町村公民ノ輕カラサル義務ナレハ實應アル者ニ非サレハ之ニ任スルコト能ハス又其稅額ノ多寡ハ姑ク之ヲ論ゼサルモ其專ラ自治ノ義務ヲ負擔スル者ニ相當ノ權力ヲ有セシムルハ固ヨリ當然ノ理ナリ今等級選舉法ヲ以テ常例トセルハ即此要旨ニ外ナラス等級選舉ノ例ハ本邦ニ於テハ創始ニ屬スト雖モ之ヲ外國ノ實例ニ照スニ明ニ其真結果アルヲ微スルニ足ル本制被選舉權ノ資格ヲ廣クシテ而シテ其流弊ナキヲ信スル所以ノモノハ即此選舉法ニ依テ以テ細民ノ多數ニ制セラルノ弊ヲ防クニ足ルヘキヲ以テナリ

各地方ノ狀況ヲ見ルニ都鄙ニ依テ貧富ヲ異ニシ地形ニ依テ產物ニ別アリ故ニ各地ニ通スル一定ノ稅額ヲ設ケテ等級ヲ分ツコトヲ得ヌ又單ニ土地ノ所有ヲ以テ選舉權ノ標準ト爲スコトヲ得ヌ是ヲ以テ等級法ヲ立テテ欲スルニハ市町村內ニ於テ徵收スル市町村稅ノ總額ヲ標準トシ各自納稅額ノ多寡ニ依テ其順序ヲ定メ等級ヲ立ツルノ外他ニ其法アルヲ知ラス然レニ市ハ通シテ三級トシ町村ハ單ニ二級トセルハ市民ハ口多ク貧富ノ階級アルコト町村民ノ等差少キカ如キニ非サルヲ以テナリ(市制町村制第十三條)但町村ニシテ特別ノ事情アルモノアリ例ヘハ選舉人少シニシテ其稅額ノ等差亦少ク或ハ二ノ納稅者アリテ非常ニ多額ノ稅ヲ納ムルカ或ハ大町村ニ於テ其納稅者ノ等差種々甚キノ類ニシテ二級選舉法ヲ適用トセザル場合モアル可シ此場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ三級選舉法ヲ設ケルコトアル可ク或ハ等差種々甚キ或ハ更ニ他ノ方法ヲ立ツルコトヲ得セシメントス尤ニ二級若クハ三級選舉法ヲ以テ常例ト爲スカ故ニ不得已ノ事情アリテ許可ヲ受クルニ非サレハ此特別ヲ設ケルコトヲ得サル可シ



被選舉人ハ其區内級内ノ者ニ限ラズト爲スハ(市制第十三條)町村制第十三條(市町村會ノ議員ハ全市町村ノ代表者タルノ原則ヨリ出ツルモノニシテ是亦實際ノ便宜トスル所ナリ)

四 選舉ノ手續

選舉ノ事務タル其關スル所輕カラザルヲ以テ其細則ニ五ノ法律ヲ以テ之ヲ規定スルヲ要ス其單ニ手續ニ關スル事項ト雖モ力メテ法律ニ之ヲ制定スル所以ノモノハ選舉ノ公平確實ナルコトヲ保シ行政廳ノ干渉ヲ防キ或ハ干渉ノ疑ヲ避ケンカ爲メナリ其順序大畧左ノ如シ

選舉ノ通例三年毎ニ之ヲ行フ之ヲ定期選舉トシ議員ノ半數ヲ改選ス其半數ヲ改選スルハ事務ニ精練セル議員ヲ存續セシメンカ爲メナリ但解散ノ場合ハ此ノ如クスルヲ得ヌ又此法律施行ノ當初ニ於テ選舉セラレタル議員ハ初回ノ改選ニ力リ抽籤ヲ以テ半數ヲ退任セシムルニ依リ其半數ハ三年間在職スルモノトス此二箇ノ場合ヲ除キ議員ハ總テ六年間在職スルモノトス若シ議員任期中ニ死亡シ若クハ退職スルトキハ直ニ補選員ヲ選舉シ前任者ノ任期ヲ繼承カシメサル可カラス之ヲ補選員トス然レトモ應選員ヲ行フトキハ其煩ニ堪ハルカ故ニ補選員ハ定期選舉ヲ待テ之ト同時ニ行フヲ通例トス假令一二ノ議員アルモ事務ニ支障ナカルヘキヲ以テナリ然レトモ若シ多數ノ議員退任スル等已ムテ得ヌ補選員ヲ選舉スルノ必要アルトキハ市制町村制第十七條ニ於テ之レカ便法ヲ設ケ

選舉ヲ爲スノ準備ニ關スル事ハ之ヲ行政機關町村長若クハ市長及市議會ニ委任セリ而シテ其事務ハ選舉ノ基礎タル選舉名簿ヲ調製スルヲ以テ第一トス本制ハ所謂水續名簿ノ法ニ依ラズ選舉ヲ行フ毎ニ名簿ヲ新ニスルノ法ヲ取レリ(市制町村制第十八條)其調製シタル名簿ハ選舉前數日間關係者ノ提議ニ供シ異議アル者ハ市町村長ニ申立テ又ハ訴願者クハ行政訴訟ノ手續(市制第三十五條)町村制第三十七條)ヲ以テ駁テ正ス可キ便利ヲ與ヘタリ此名簿ノ調製ハ選舉ノ期日前ニ終結ス可キカ故ニ其終了ノ時ニ行ヒタル裁決ハ之ヲ執行ス可シト雖モ各區區ノ確定終局ニ至ル迄在任日數クスルヲ得ヌ選舉ノ期日ニ至レハ其訴願ニ拘ラス之ヲ執行ス若シ名簿ニ錯誤アルカ爲メ選舉ノ無効ニ歸スルコトアルニ更ニ之ヲ申立ツルコトヲ得可シ又被選人當選ヲ辭シ或ハ選舉ヲ無効ナリト斷定セラレタル時ト雖モ更ニ名簿ヲ調製スルヲ要セヌ判決ニ根據シテ署名簿ヲ訂正シタル上之ヲ用フルモノトシ之カ爲メニ更ニ關係人ノ提議ニ供シテ正誤申立ノ時間ヲ與フルニアラス唯名簿全體ノ不正ナルカ爲メ全選舉ヲ無効ナリトシタル時ニ至テハ新簿ヲ調製スルコト已ムテ得サルナリ

選舉ノ期日ハ町村長市議會之ヲ定ム本制ニ依レハ選舉人ヲ召集スルニハ公告ヲ以テ足レリトスト雖モ實際市町村ノ便宜ニ依リ各選

區人ニ對シ特ニ招集狀ヲ送付スルコトアルコトヲ妨ケン其他投票時間ヲ定ムルハ市長町村長ニ任シタルヲ以テ市長町村長ハ選舉人ノ多寡及地形等ヲ參酌シテ之ヲ定ム可シ

選舉事務ノ統轄ハ之ヲ自治ノ吏員ニ委任シ(市制町村制第二十二條)監督官廳ハ特ニ之カ監督ヲ爲ス可キノミ(市制第二十八條)町村制第二十九條)而シテ選舉掛ハ集議體ニ編制セリ選舉掛ハ選舉人代表者ノ許投票ノ効力等直ニ之ヲ裁決セサルヲ得ヌシテ此ノ如キハ一個ノ吏員ニ委任スルコトヲ得ザルヲ以テナリ固ヨリ選舉掛ニ於テ右等ノ事件ヲ裁決スト雖モ後ニ至リ選舉ノ無効ヲ申立ル者アルトキハ之ヲ裁決スル官廳ニ於テ右諸決ニ拘ラス至當ノ裁決ヲ爲ス可キモノトス

選舉會ハ選舉人ニ取リテハ公會ナリト雖モ(市制町村制第二十一條)其選舉ハ全ク秘密投票ノ法ヲ以テス即選舉掛ハ勿論其他何人ニテモ投票者ニ於テ何人ヲ選舉セントスルカヲ知ラシメザルモノトス故ニ選舉ノ際ハ投票ヲ用ヒ票中ニ投票者ノ氏名ヲ記載セヌ又之ニ調印セシメス封緘シテ之ヲ蓋出サシム(市制町村制第二十二條)第二十三條)元來公選舉ト秘選舉トノ別アリ其利害得失ニ就テハ互ニ論アリト雖モ今特ニ地方自治區ノ選舉ニ就テ之ヲ考フルニ町村ノ事情タル居民常ニ相接近スルモノナレハ選舉ノ自由ヲ妨ケサランカ爲メニ寧ロ秘密選舉ヲ以テ其法ト爲ス而シテ選舉權ヲ有セサル者ノ投票又ハ重複ノ投票ヲ防カンカ爲メニハ選舉人自ラ出頭スルノ例アリ(市制町村制第二十四條)又名簿ニ照シテ之ヲ受ケルノ法(市制町村制第二十二條)アリ選舉人自ラ出頭シテ選舉ヲ行フノ例ヲ設ケルハ密モ選舉ノ利害ニ關セザル雖モ勸告ニ依テ之ニ投票ヲ託セントスルカ如キ者ヲ排除シ選舉ノ自由ヲ保護スル所以ナリ但市制町村制第二十四條第二項ニ掲ケルモノハ已ムテ得ザルノ特例ナリトス選舉ヲ行フニ下級ヲ先キニシ上級ヲ後ニスルハ(市制町村制第十九條)下級ノ選舉人ニシテ人ヲ擧フニ充分ノ區域ヲ得セシメンカ爲メナリ而シテ先ツ下級ノ選舉ナリルノ後ニ上級ノ選舉ニ着手セシム可シ是一人ニシテ數級ノ選ニ當ルコトヲ助キ且上級ノ者ヲシテ下級ノ選舉ニ當ラサル候補者ヲ選擇スルコトヲ得セシムルモノナリ選舉ノ結果ヲ證スルカ爲メニ選舉錄ヲ製スルノ例(市制第二十六條)町村制第二十七條)アルハ選舉ノ効力ヲ裁決スル證據ヲ備ヘンカ爲メナリ

當選ノ認定ハ議員ノ選舉ニハ比較多數ノ法ヲ取リ(市制第二十五條)町村制第二十六條)市町村吏員ノ選舉ニハ過半數ノ法ヲ用フ(市制第四十四條)町村制第四十六條)元來總テ過半數ヲ以テスルヲ正則トスレトモ事宜ナリテ便法ヲ設ケタルナリ

選舉ノ効力ニ關シ異議ヲ申立ツルノ權利ハ選舉人及市長町村長ノ外公益上ヨリシテ其効力ヲ監査スルカ爲メニ郡長及府縣知事モ亦此權利ヲ有ス選舉人及市長町村長ノ異議アルモノハ市町村會ノ裁決ニ任シ郡長府縣知事ノ異議アルモノハ選舉會ノ裁決ニ任シ其郡長事



會ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモ  
ノトス是實ニ利害上ノ争ニアラスシテ權利ノ消長ニ關スレハナリ(市制第二十八條、第三十五條、町村制第二十九條、第三十七條)  
一旦選舉ヲ有效ト定メ或ハ其效力ニ異議ナクシテ經過シタル後ト雖モ當選者被選舉權ノ要件ヲ選舉ノ當時ニ有セザリシコトヲ發見シ  
或ハ其當時有シタル要件ヲ失フコトアル可シ新ル場合ニ於テハ固ヨリ市制第二十九條、町村制第三十條ノ結果ヲ生ス可シ其裁決ノ手  
續ハ市制第三十五條、町村制第三十七條ニ據ル

五 名譽職

市制町村制第十六條、第二十條、第七十五條ニ依リ名譽職ヲ置クハ本制大體ノ原則ニ出ツルナリ  
第二款 職務權限及處務規程  
市會町村會ハ市町村ノ代表者ナリ其權限ハ市町村ノ事務ニ止マリ其他ノ事務ハ從來ノ委任ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任ス  
ル事項ニ限リテ參與スルモノトス若シ大政ニ論及スル等凡ソ此界限ヲ踰ユルモノハ則テ法律ニ悞戾スルモノナレハ法律上ノ權力ヲ以テ  
(市制第六十四條第二項第一、第二百三條、町村制第六十八條第二項第一、第二百二十四條)之ヲ制セサル可カラズ其他市制百十八條、第  
百十九條、町村制百二十二條、第二百三條ハ皆市會町村會ノ怠慢ヲ防制スルノ權力ナリトス

市會町村會ハ代表機關ト爲スト雖モ(市制第三十條、町村制第三十二條)外部ニ對シテ市町村ヲ代表スルハ行政機關ノ任トス(市制第六  
十四條第二項第七、町村制第六十八條第二項第七)即市會町村會ハ專ラ行政機關ニ對シテ市町村ヲ代表スルモノナリ市制第三十一條以  
下及町村制第三十三條以下ニ列載シタル職務ハ皆此地位ニ依テ生スルモノトス  
一  
市會町村會ハ條例規則、歲計豫算、決算報告、市町村稅賦課法及財産管理上ノ重要事件等ヲ議決ス市制百十八條、百十九條、町村制  
百二十二條、百二十三條ノ場合ヲ除クノ外行政機關ハ議會ノ議決ニ依テ方針ヲ取ラサルヲ得ス但其議決上司ノ許可ヲ得可キモノ  
ハ市制百二十一條ヨリ百二十三條ニ至リ及町村制百二十五條ヨリ百二十七條ニ至ルノ各條ニ依ル  
二  
市會町村會ノ執行ス可キ選舉ハ載セテ市制第三十七條、第五十一條、第五十八條、第六十條、第六十一條及町村制第五十三條、第六十二  
條、第六十三條、第六十四條、第六十五條ニ在リ

三 市會町村會ハ市町村ノ行政ヲ監督スルノ權利ヲ有ス其監督ノ方法ハ書類及計算書ヲ檢閲シ町村長若クハ市參事會ニ對シテ事務報告ヲ  
要求スルノ類是ナリ此權利ニ對シテ町村長若クハ市參事會ハ之ニ應スルノ義務アリ若シ市會町村會ニ於テ意見アルトキハ之ヲ官廳ニ  
具狀スルコトヲ得可シ

四

市會町村會ニ於テ官廳ノ諮問ヲ受クルトキハ之ニ對シテ意見ヲ陳述スルハ其義務ナリトス

五

其他市會町村會ハ或場合ニ於テ公法上ノ爭論ニ付始審ノ裁決ヲ爲スノ權アリ(市制第三十五條、町村制第三十七條)

市會町村會ノ議員ハ其職務ヲ執行スルニ當テハ法令ヲ遵奉シ其範圍内ニ於テ不羈ノ精神ヲ以テ事ヲ評議ス可シ決シテ選舉人ノ指示若  
クハ委囑ヲ受ク可キモノニアラス(市制第三十六條、町村制第三十八條)是固ヨリ法理ニ於テ明ナル所ナリト雖モ議員ノ職務ヲ以テ選  
舉人ノ委任ニ出ツルモノ、如ク親做シ議員ハ選舉人ノ示シタル條件ヲ恪遵ス可キモノト爲スノ誤ヲ來サシランカ爲メニ特ニ其明文ヲ  
掲グルナリ

處務規程ハ市制第三十七條ヨリ第四十七條ニ至リ町村制第三十九條ヨリ第四十九條ニ至ルノ各條ニ於テ之ヲ設ク此條規ハ概テ說明ヲ  
要セサルヘシ只茲ニ一言ス可キハ町村會ハ通例町村長若クハ其代理者タル助役ヲ以テ議長トシ(町村制第三十九條)市會ハ別ニ互選シ  
テ議長ヲ置ク(市制第三十七條)此區別ヲ爲シタル所以ハ町村ニ在テハ町村長及助役ノ外事務ニ熟練スル者多カラスシテ議長ノ任ニ  
堪フル者ハ概テ少ク且一人一個ノ責任ヲ以テ行政ノ全體ニ任スル場合ニ於テハ成ル可ク議員ト密接ノ關係ヲ有セシムルコト必要ナレ  
ハナリ町村制第四十四條ノ場合ヲ除クノ外町村長及助役ニシテ議決權ヲ有スルハ其議員ヲ兼スル時ニ限ル可シ

市制町村制第三章 市町村行政

代議ト行政トハ各別箇ノ機關ヲ設ケサル可カラサルハ已ニ之ヲ記述シタルカ如シ而シテ町村ノ行政ハ之ヲ町村長一人ニ任シ補助員即  
助役一名若クハ數名ヲ置キ以テ之ヲ補助セシム市ニ於テハ之ヲ市參事會ニ任セリ市長ハ其會員ノ一人ニシテ其會ノ事務ヲ統理シ外部  
ニ對シテ參事會ヲ代表スルノ權ヲ有ス即町村ハ特任制ヲ取り市ハ集議制ニ依ルモノナリ抑地方ノ自治行政ニハ集議制ヲ以テスルニ若  
クモノアラス然ルニ獨リ市ニ施シテ之ヲ町村ニ適用セサル所以ノモノハ集議制ハ特任制ニ比シ頗ル錯綜ニ涉ルノ弊アリ而シテ小町村



ノ行政ハカメテ簡易ノ編制ニ依ルヲ要スルヲ以テナリ且集積制ヲ行ハント欲スレハ名譽職ヲ以テ行政ニ參與ス可キ選任者ヲ多ク求メサルヲ得ス而シテ此等メル今日ノ情況ニテハ都會ノ地ニ非ザレハ望ム可カラザレハナリ大町村ニ於テモ亦此集積制ヲ施行ス可キ必要アリト否又之ヲ施行シ得ヘキト否ハ姑ク將來ノ變遷ヲ俟テ知ル可キナリ

本制市町村行政ノ條規ハカメテ活用ノ區域ヲ廣クシテ以テ各地方ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地アラシメンコトヲ務メタリ

町村長、助役、市議會及市長ハ皆是市町村ノ機關ニシテ固ニ直轄スル機關ニアラズ是ヲ以テ此機關ニ屬スル吏員ハ總テ市町村自ラ之ヲ選任スルヲ當然トス凡各團ノ通則ニシテ其效益亦實際ノ經驗ニ著ハルノ所ナレハ本制モ亦之ニ倣ヘリ(市制第五十一條、第五十八條、第五十九條、第六十條、第六十一條、町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條)然レトモ市町村ハ又國ノ一部分ニシテ市町村ノ行政ハ一般ノ施政ニ關係シ及ホシ從テ國家ノ利害ニ關セザレトナシ且市町村及其吏員ニ委任スルニ國政ニ屬スル事務ヲ以テスルコトアリ市制第七十四條、町村制第六十九條ノ如キ是ナリ市長ノ選任ハ市會ヨリ候補者ヲ推薦シ或可テ求ムルノ例アルカ如キモ亦此理由アルニ依ル(市制第五十條)但選任ノ例ヲ異ニスルモ市長ハ均ク市ノ機關ニシテ一ノ市吏員ナリ法律上ヨリ其地位ヲ論スルトキハ一面ハ市ニ屬シ一面ハ國ニ屬ス猶町村長ノ町村ト國トニ屬スルカコトシ此資格ハ選任ノ例ヲ異ニスルカ爲メニ變更スルコトナシ其他條要市町村吏員即町村長、市町村助役、收入役ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケシメ其認可ヲ得ザルトキハ其選舉ヲ無効ニ屬スルカ故ニ(市制第五十二條、第五十八條、町村制第五十九條至第六十一條)國ノ治安ヲ保持スル上ニ就テハ十分ノ權力ヲ有スルヲ得可シ又之ヲ認可スルニ方テ徒ニ其活動ヲ牽制セザラシコトヲ欲シ認可ヲ拒ムニ一定ノ理由ヲ示サス其地ノ事情ト人物トヲ參酌シテ其認可不可決スルヲ得セシメントス其職決ノ權ハ專ラ地方分權ノ原則ニ準シ之ヲ郡長又ハ府縣知事ニ委任セリ然レトモ其公平ヲ失スルノ弊ヲ防カシカ爲メ若クハ偏私ノ非ヲ免レンカ爲メニ其認可ヲ拒マントスルトキハ郡縣知事會又ハ府縣知事會ノ同意ヲ得ルヲ必要ト爲セリ又已ニ官廳ノ認可ヲ受ケシムルノ法ヲ設ケルトキハ其結局ノ處分法ナカレ可カラズ即其選舉途ニ適任ノ人ヲ得スシテ已ムヲ得ザルトキハ官廳ヨリ其代理者ヲ特選シ若クハ官吏ヲ派遣シテ市町村ノ事務ヲ執ラシムルコトヲ得可シ以上ノ例規ニ依リ市町村吏員ノ選舉ヲ以テ之ヲ市町村ニ委任スルモ國ノ治安統一ヲ保ツコトニ於テ適フ可キノ弊ナキナリ

町村ニ於テ吏員ヲ選任スルノ權ハ之ヲ市町村會若クハ總會ニ委任シ唯使丁ニ限り之ヲ町村長ニ委任シ(町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條)市ニ於テハ之ヲ市議會ニ委任シ選舉委員會、委員及收入役ノ選任ニ限り之ヲ市會ニ委任セリ(市制第五十一條、第五十八條、第五十九條、第六十條、第六十一條)

市町村ノ吏員ヲ選任スルニ付テハ固ヨリ法律上ノ要件ヲ恪守セザル可カラズ其要件ハ市制第五十五條、第五十八條、第六十條、第六十一條、町村制第五十三條、第五十六條、第六十四條、第六十五條ニ在リ其他ノ制限ハ刑法等他ノ法律ニ存ス

其他市町村吏員組織ノ大要ハ法律中ニ定ムルモノアリト雖モ各地方情況ヲ異ニスルヲ以テ市町村ノ自主權ニ放濶ナル餘地ヲ與フルコトヲ得可シ又之ヲ與フルヲ要スルナリ

本制ニ定ムル市町村吏員ハ左ノ如シ

一 町村長

町村長ハ町村ノ統轄者ナリ即町村ノ名ヲ以テ委任ノ強制權ヲ執行スル者トス其強制權ノ幾部分ハ既ニ町村制中ニ制定セリト雖モ(例ハ町村制第五十二條ノ題)多クハ別法ヲ以テ之ヲ設ケザル可カラズ其他町村長ハ町村ノ事務ヲ管理スルノ任アリ故ニ一方ニ在テハ町村ニ對シテ其執行ノ責任ヲ帶ビ一方ニ在テハ法律ノ範圍内並官廳ヨリ其權限内ニテ發シタル命令ノ範圍内ニ於テ百般ノ事項ニ涉リ町村ノ幸福ヲ增進シ安寧ヲ保障スルヲ務メトス而シテ町村長ニ於テ町村會ノ職決ニ選任ス可キ程度ハ町村制第三十三條以下ニ詳ナリ同條記載ノ事件ニ就テハ町村長ハ職會ノ職決ニ依ラズシテ之ヲ施行スルコト能ハサル而巳ナラス猶其職務ヲ準備シ職決ヲ執行スルノ義務アリ故ニ町村會ニ於テ法律ニ背反スルコトナク其權限内ニテ職決シタル事項ハ假令町村ノ爲メニ不便アリト認ムルモ町村長ハ之ヲ執行セザルヲ得ス唯町村長其職決ニ對シテ大ニ意見ヲ異ニシ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村制第六十八條第二項第一ニ從テ職決ノ執行ヲ停止スルノ權ヲ有ス即之ヲ停止シテ郡縣知事會ノ職決ヲ請フコトヲ得可シ其法律命令ニ背キ又ハ權限ヲ越セルモノモ亦之ニ同シ尤值ニ利害ノ見込ヲ異ニシタルノミニテハ未タ以テ之ヲ停止スルノ理由ト爲スニ足ラス必公益ヲ損害スト認ムル時ニ限ル可シ益公益ノ爲メニ町村長ヲシテ此停止權ヲ有セシムルハ或ハ之ヲ濫用スルノ恐ナキニ非スト雖モ今日町村治ノ未タ整備セザルヨリ若クハトキハ姑ク此例ヲ存スルノ已ムヲ得ザルモノアリ又監督官廳ヨリ町村長ニ停止命令スルハ國ノ利害ニ關シ已ムヲ得ザルモノニシテ監督官廳モ亦常ニ町村會職決ノ報告ヲ徹シテ其注意ヲ怠ラサル可シ其停止權ヲ濫用スルノ弊ハ市議會ノ參與アルヲ以テ自ラ之ヲ防制スルコトヲ得可シ其行政裁判所ハ出訴スルノ權ヲ法律助令ニ背反シ及權限ヲ超越スルノ場合ニ限リタルハ行政裁判所ハ亦法律上ノ爭論ヲ判決ス可キモノニシテ公益ニ關スル事ハ一ニ利害ノ爭ニ過キザレハナリ郡縣知事會ノ職決ニ不服アル者ハ府縣知事會ニ訴願シ其府縣知事會ノ職決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴シ若クハ內務大臣ニ訴願スルヲ得可キコト町村制第十九條及第二百十條ノ規定ニ依テ明ナリ



ノ行政ハカメテ簡易ノ編制ニ依ルヲ要スルヲ以テナリ且集議制ヲ行ハント欲スレバ名譽職ヲ以テ行政ニ參與ス可キ適任者ヲ多ク求メ  
 サルヲ得ズ而シテ此等タル今日ノ情況ニテハ都會ノ地ニ非サルハ望ム可カラザレハナリ大町村ニ於テモ亦此集議制ヲ施行ス可キ必要  
 アリト否又之ヲ施行シ得ヘキヤ否ハ姑ク將來ノ變遷ヲ俟テ知ル可キナリ  
 本制市町村行政ノ條規ハカメテ活用ノ區域ヲ廣クシテ以テ各地方ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地アラシメシコトヲ務メタリ  
 町村長助役市參事會及市長ハ皆是市町村ノ機關ニシテ國ニ直轄スル機關ニアラス是ヲ以テ此機關ニ屬スル吏員ハ總テ市町村自ラ之  
 ヲ選任スルヲ當然トス凡各國ノ通則ニシテ其效益亦實際ノ經驗ニ著ハルハ所ナレハ本制モ亦之ニ倣ヘリ(市制第五十一條、第五十八  
 條、第五十九條、第六十條、第六十一條、町制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條)然レトモ市町村ハ又國ノ  
 一部分ニシテ市町村ノ行政ハ一般ノ施政ニ關係シ及ホシ從テ國家ノ利害ニ關セサルコトナシ且市町村及其吏員ニ委任スルニ國政ニ屬  
 スル事務ヲ以テスルコトアリ市制第七十四條、町制第六十九條ノ如キ是ナリ市長ノ選任ハ市會ヨリ候補者ヲ推薦シ議決可キ求ムルノ  
 例アルカ如キモ亦此理由アルニ依リ(市制第五十條)但共選任ノ例ヲ異ニスト雖モ市長ハ均ク市ノ機關ニシテ一ノ市吏員ナリ法律上  
 ヲ其地位ヲ論スルトキハ一面ハ市ニ屬シ一面ハ國ニ屬ス猶町村長ハ町村ト國トニ屬スルカコトシ此資格ハ選任ノ例ヲ異ニスルカ爲  
 メニ變更スルコトナシ其他權限ノ市町村吏員即町村長、市町村助役、收入役ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケシメ其認可ヲ得サルトキハ其選舉  
 ハ無効ニ屬スルカ故ニ(市制第五十二條、第五十八條、町制第五十九條至第六十一條)國ノ治安ヲ保持スル上ニ就テハ十分ノ權力  
 ヲ有スルヲ得可シ又之ヲ認可スルニ方テ其活動ヲ率制セザランコトヲ欲シ認可ヲ拒ムニ一定ノ理由ヲ示サス其地ノ事情ト人物ト  
 ヲ斟酌シテ其認可不可決スルヲ得セシメントス其議決ノ權ハ專ラ地方分權ノ原則ニ準ジテ之ヲ郡長又ハ府縣知事ニ委任セリ然レト  
 モ其公平ヲ失スルノ弊ヲ防カシカガ爲メ若クハ偏私ノ弊ヲ免レンカガ爲メニ其認可ヲ拒マントスルトキハ郡縣知事會又ハ府縣知事會ノ同意  
 ヲ得ルヲ必要ト爲セリ又已ニ官廳ノ認可ヲ受ケシムルノ法ヲ設ケルトキハ其當局ノ處分法ナカレ可カラズ即其選舉途ニ適任ノ人ヲ得  
 メシテ已ムヲ得ザルトキハ官廳ヨリ其代理者ヲ特選シ若クハ官吏ヲ派遣シテ市町村ノ事務ヲ執ラシムルコトヲ得可シ以上ノ例規ニ依  
 リ市町村吏員ノ選任ヲ以テ之ヲ市町村ニ委任スルコト國ノ治安統一ヲ保障スルコトニ於テ選任可キノ弊ナキナリ  
 町村ニ於テ吏員ヲ選任スルノ權ハ之ヲ市町村會若クハ總會ニ委任シ唯使丁ノ限リ之ヲ町村長ニ委任シ(町制第五十三條、第六十二條、  
 第六十三條、第六十四條、第六十五條)市ニ於テ之ヲ市參事會ニ委任シ總務會員、委員及收入役ノ選任ニ限リ之ヲ市會ニ委任セリ(市  
 制第五十一條、第五十八條、第五十九條、第六十條、第六十一條)

市町村ノ吏員ヲ選任スルニ付テハ固ヨリ法律上ノ要件ヲ恪守セザル可カラズ其要件ハ市制第五十五條、第五十八條、第六十條、第六十  
 一條、町制第五十三條、第五十六條、第六十四條、第六十五條ニ在リ其他ノ制限ハ別法等他ノ法律ニ存ス  
 其他市町村吏員組織ノ大要ハ法律中ニ定ムルモノアリト雖モ各地方情況ヲ異ニスルヲ以テ市町村ノ自主權ニ廣潤ナル餘地ヲ與フルコ  
 トヲ得可シ又之ヲ與フルヲ要スルナリ  
 本制ニ定ムル市町村吏員ハ左ノ如シ

一 町村長

町村長ハ町村ノ總務者ナリ即町村ノ名ヲ以テ委任ノ強制權ヲ執行スル者トス其強制權ノ幾部分ハ既ニ町村制中ニ制定セリト雖モ(例ハ  
 町制第五十二條ノ類)多クハ別法ヲ以テ之ヲ設ケサル可カラズ其他町村長ハ町村ノ事務ヲ管理スルノ任アリ故ニ一方ニ在テハ町村  
 ニ對シテ其執行ノ責任ヲ擔ヒ一方ニ在テハ法律ノ範圍内並官廳ヨリ其權限内ニテ發シタル命令ノ範圍内ニ於テ百般ノ事項ニ涉リ町  
 村ノ幸福ヲ増進シ安寧ヲ保護スルヲ務メトス而シテ町村長ニ於テ町村會ノ議決ニ遵依ス可キ程度ハ町村制第三十三條以下ニ詳ナリ同  
 條記載ノ事件ニ就テハ町村長ハ議會ノ議決ニ依ラズシテ之ヲ執行スルコト能ハサル而シテナラズ猶其職務ヲ準備シ議決ヲ執行スルノ義  
 務アリ故ニ町村會ニ於テ法律ニ背反スルコトナク其權限内ニテ議決シタル事項ハ假令町村ノ爲メニ不便アリト認ムルモ町村長ハ之ヲ  
 執行セザルヲ得ズ唯町村長其議決ニ對シテ大ニ意見ヲ異ニスル公衆ノ利益ヲ害スルコト認ムルトキハ町村制第六十八條第二項第一ニ從テ議  
 決ノ執行ヲ停止スルノ權ヲ有ス即之ヲ停止シテ郡縣知事會ノ議決ヲ請フコトヲ得可シ其法律命令ニ背キ又ハ權限ヲ越スルモノモ亦之ニ  
 同シ尤僅ニ利害ノ見込ヲ異ニスルモノモ以テ之ヲ停止スルノ理由ト爲スニ足ラズ必公益ヲ損害スル時ニ限リ可シ蓋  
 公益ノ爲メニ町村長ヲシテ此停止權ヲ有セシムルハ或ハ之ヲ濫用スルノ恐ナキニ非スト雖モ今日町村治ノ未ダ整備セザルヨリ考フル  
 トキハ姑ク此例ヲ存スルノ已ムヲ得ザルモノアリ又監督官廳ヨリ町村長ニ停止命令スルハ國ノ利害ニ關シ已ムヲ得ザルモノニシテ監  
 督官廳モ亦常ニ町村會議決ノ報告ヲ徵シテ其注意ヲ怠ラサル可シ其停止權ヲ濫用スルノ弊ハ參事會ノ參與アルヲ以テ自ラ之ヲ防制ス  
 ルコトヲ得可シ其行政裁判所ハ出訴スルノ權ヲ法律勅令ニ背反シ及權限ヲ超越スルノ場合ニ限リタルハ行政裁判所ハ亦法律上ノ申  
 訟ヲ判決ス可キモノニシテ公益ニ關スル事ハ一ニ利害ノ申ニ通キザレハナリ郡縣知事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣知事會ニ訴願シ其府  
 縣知事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴シ若クハ內務大臣ニ訴願スルヲ得可キコト町村制第九十九條及第一百二十條ノ規定ニ  
 依リ明ナリ



其他町村長ノ町村事務ハ町村制第六十八條第二項第二コ第九ニ列載シタル條件ニ依テ明ナリ其各條件ニ關シテハ茲ニ說明ヲ要セザル可シ町村會ノ定額選舉ニ關スル職權ニ依テ町村長ノ權利ニ制限ヲ加フル所以ハ第四章ニ於テ之ヲ說明ス可シ又町村會ノ議決町村制第六十五條以下ニ從ヒ官ノ許可ヲ受ケ可キモノハ之ヲ受ケルノ前ニ施行スルヲ得サルコト固ヨリ言フ俟タズ且時宜ニ依リテハ監督官廳ノ懲戒權ヲ以テ之ヲ強制スルヲ得可シ

町村制第六十九條ニ列載シタル事務ニ關シテハ全ク前述ノ場合ト異ナリタル地位ヲ有スルモノトス已ニ前章ニ記述シタル知リ國ノ町村ヲシテ國政ニ關スル事務ニ參與セシムルコトアル可シ之ヲ參與セシムルノ法ニアリ國政ニ關スル事務ヲ以テ町村ニ委任シ其自治權ヲ以テ之ヲ處辨セシムルモノアリ又其事務ヲ町村ニ委任セシムルノ法ニ依リテ町村長其他町村ノ吏員ヲ指定シテ之ヲ委任スルモノアリ此區別ノ重要ナル點ハ第一ノ例ニ據リテハ新ル事件ノ議決モ亦町村會ノ職權ニ歸シ町村長若クハ常駐吏員ハ此事件ニ關シ町村會ニ對シテ責任ヲ帶ヒ且常ニ其監視ヲ受ケルモノトシ第二ノ例ニ據リテハ町村長ハ直接ニ官命ニ依テ事務ニ從事シ町村會ト相關セズ此事務ニ關スル指揮命令ハ直ニ所屬官廳ヨリ之ヲ受ケ特ニ其官廳ニ對シテ責任ヲ帶フルモノトス元來甲乙二例ヲ比較スルトキハ互ニ得失アリト雖モ今日ノ情況ニ照シ事務ノ舉行時期ニ付テハ乙法ヲ行フニ如カス故ニ本制ハ乙法ヲ採リテ之ヲ第六十九條ニ明言セリ但細則ニ涉ルモノハ別法ニ讓ラントス且此乙法ヲ行フニ至テハ其委任ノ職權ニ付キ生スル所ノ費用ハ何レノ負擔ナルカヲ明言セサルヲ得ズ依テ同條末項ニ之ヲ揭ク其他町村固有ノ事務ニ要スル費用ハ町村ノ自ラ負擔ス可キコト官廳ニ明ナリ

二 町村助役

助役ハ各町村ニ一名ヲ置クヲ通例トス然レトモ各地方ノ需要ニ應ジテ或ハ之ヲ増加ス可キコトアリ之ヲ町村條例ノ定ムル所ニ任セリ(町村制第五十二條)助役ノ町村長ニ屬スルハ共ニ集議體ヲ爲ニアラス町村役場ノ事務ハ皆町村長ノ專決ニ在リ其責任モ亦町村長一人ニ屬ス故ニ助役ハ其補助員ニシテ第一ニ町村長ノ指揮ニ從ヒ之ヲ補助スルモノトス唯町村長故障アリテ之ヲ代理スル場合及委任ヲ受ケテ事務ヲ遂行スル場合ニ限リ自ラ其責任ヲ負フモノトス但事務ヲ委任スルニハ町村會ノ同意ヲ得ルヲ要シ(町村制第七十條)其町村長ニ委任ノ事務ニ係ルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受ケルヲ要ス(町村制第六十九條)

三 市參事會

市ニ於テハ市長及助役ヲ區クコト町村ノ制ニ同クシテ別ニ名譽職參事會員若干名ヲ置キ合ヒテ集議體ヲ組織シ之ヲ市參事會トス是町村ノ制ト異ナル所ナリ助役及名譽職參事會員ノ定員ハ市制第四十九條ニ之ヲ定ムト雖モ市ノ情況ニ依リ増減ヲ要スルトキハ市條例ヲ

以テ之ヲ増減スルコトヲ得可シ(市制第四十九條)市長ハ一箇ノ決職權ヲ有シ員數相半ナル時ハ專決スルコトヲ得此集議會ノ職務ハ全ク町村長ノ職務ト其例ヲ同クス(市制第六十四條)其詳細ノ說明ハ茲ニ要セザル可シ其職務規程ハ本制ニ於テ多ク設クルヲ要セス(市制第六十五條至第六十八條)其細目ニ至テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ムルコトアル可シ  
市長ハ市ノ固有ノ事務ヲ處理スルト委任ノ事務ヲ處理スルト各別段ノ地位ヲ占ムルモノトス即チ市ノ固有ノ事務ニ就テハ參事會ノ職事ヲ統理シ之ヲ準備シ議決ヲ執行シ時ニ臨テハ議決ヲ執行ヲ停止シ(市制第六十五條)外部ニ對シテ市ヲ代表スルモノニシテ唯應シテ要スル場合ニ限リ議決ヲ依テ之ヲ遂行スルコトヲ得可シ(市制第六十八條)然レモ市制第七十四條ニ列載スル委任ノ事務ニ就テハ參事會ノ參與ヲ受ケスシテ遂行スルモノトス此區別アルハ即前述ノ乙法ヲ取リ之ヲ市ニ委任セシメテ特ニ市長ニ委任シタルニ依ル市助役及其他ノ參事會員ハ會中ニ在テハ市長ト同一ノ職權ヲ有スト雖モ議事外ニ在テハ町村助役ノ町村長ニ於ケルト同ク市長ニ對シテ補助員ノ地位ニ在ルモノトス(市制第六十九條)第七十四條第二項)殊ニ都府ノ地ニ在テハ分業ノ必要ナルハキチ以テ事務ヲ分テ參事會員ニ委任セシムルコト最要ナリトス此需要ニ應ヒシカ爲メ本制ハ之ヲ市條例ノ適宜定ムル所ニ讓リ(市制第六十九條第三項)以テ各地方ノ便ニ從ハントス

四 委員

委員ヲ設ケルハ市町村人民ヲシテ自治ノ制ニ習熟セシメンカ爲メニ最效益アリ委任アルトキハ多數ノ公民ヲシテ市町村ノ公益ノ爲メニ力ヲ竭スコトヲ得セシメ自治ノ效用ヲ顯ケルコトヲ得可シ何トナレハ市町村公民ハ特リ會議又ハ參事會ニ加ハルノミナラズ委員ノ列ニ入りテ市町村ノ行政ニ參與シ之ニ依テ自ラ實務ノ經驗ヲ積ミ能ク施政ノ難易ヲ了知スルコトヲ得可シ又地方ノ事情ヲ表白スルノ機會ヲ得テ大ニ事務吏員ノ短處ヲ補フコトヲ得可シ蓋シ委任ハ自治ノ制ニ於テ重要ナル地位ヲ占ムルモノニシテ本制施行ノ際委員ノ數ヲ促進シテ市町村公民ヲシテ之ニ參與セシメンコトヲ務ム可シ委員ノ應置ハ固ヨリ市會町村會ノ決議ニ在リ其組織及職務ハ市町村條例ノ定ムル所ニ在リト雖モ町村長及市參事會ハ正派ノ行政機關ニシテ委員ハ其一部分ニ參與スルニ過キサルハ委員ハ町村長若クハ市參事會ニ從屬シ概シ市長若クハ町村長ヲ以テ委員長ト爲シ參事會員ヲ以テ多ク之ニ加ヘ市會町村會議員モ亦成ル可ク此委員ニ列セシメンコトヲ要ス市會町村會ノ職員ニシテ行政ノ事務ニ加ハルトキハ能ク施政ノ緩急利害ヲ辨識シ行政吏員ト互ニ協同シテ事務ヲ擔任スルノ慣習ヲ生シ自ラ代議機關ト行政機關トノ軋轉ヲ防制スルコトヲ得可シ

五 區長



區域廣闊又ハ人口稠密ノ地ハ施政ノ便ヲ計ラシカ爲メ之ヲ數區ニ分ツノ必要アル可シ故ニ本制ハ市町村ニ區ヲ劃設スルコトヲ許シ之ニ區長及代理者ナル行政ノ機關ヲ設置セリ此機關ハ其市町村ノ行政廳ニ隸屬スルモノニシテ其指揮命令ヲ奉シテ事務ヲ區内ニ執行スルモノトス其委任事務ノ範圍ハ土地ノ情況ト市町村行政廳ノ酌量ニ在ルモノニシテ豫メ之ヲ定メスト雖モ區長ハ名譽職ニシテ別ニ區ノ附屬員ナル者アルニアラサレハ(三府ヲ除クノ外)實際此事務ヲ斟酌セザル可カラズ要スルニ區ハ市町村内別ニ特立シタル一ノ自治體タルニ非ス區長モ亦其固有ノ職權アルニ非スシテ單ニ町村長市參事會ノ事務ヲ補助執行スルノ便ニ供フルニ過キス故ニ區長ハ市町村ノ機關ニシテ區ノ機關ニ非ス區ハ法人ノ權利ヲ有セス、財産ヲ所有セス、會計豫算ヲ設ケス又議會若クハ其他ノ機關ヲ存スルコトナシ蓋區ヲ設ケルトキハ施政ノ周到ナルヲ得可ク、一市町村内ノ各部ニ於テ利害ノ軋轢スルヲ調和シ、市町村賦課ノ不平等ヲ矯メ又能ク行政ノ勞費ヲ節省スルヲ得可シ要スルニ區長ヲ設ケルハ更ニ自治ノ真元素ヲ市町村制中ニ加フルモノニシテ舊制ノ區長組長等ノ例ヲ廢用セルナリ但從前ノ區内ニ存スル戸長ノ類ト混ス可カラズ又區ニシテ從來固有ノ財産アル時ノ例ハ第五章ノ說明ニ詳述スヘシ

六 其他ノ市町村吏員  
以上市町村吏員ノ外收入役アリ(市制第五十八條、町村制第六十二條)其職掌ハ市町村有財産ト連帶シテ說明ス可シ又書記其他技術上ニ要スル吏員アリ又使丁ナル者アリ機械的ニ使用スル者トス此等ノ吏員ヲ置キ相當ノ給料ヲ與フルハ市町村ノ義務トス(市制第五十六條、町村制第六十三條)

町村ニ於テハ書記其他ノ吏員ヲ置キ俸給ヲ支出スルノ義務アリト雖モ本制ハ小町村ノ爲メ一ノ便法ヲ設ケ町村長ニ一定ノ書記料ヲ給シテ其便宜ニ從ヒ書記ノ事務ヲ保障スルヲ許サントス此便法ヲ設ケ及其書記料ノ額ヲ定ムルハ町村會ノ職權ニ在ル可キモノトス(町制第六十三條第一項)若シ町村長ニ於テ其金額不足アリト爲ストキハ町村制第七十八條ニ依リ之ヲ郡參事會ニ申立ツルコトヲ得可シ其他ノ細目ハ今之ヲ制定セス蓋書記料ヲ給與スルトキハ町村長ニ於テハ自ラ其事務費ヲ節約スルヲ得可シ蓋官廳モ亦能ク是ニ注意シ公務上支障ナキ限リハ町村ニ顯示シテ繁雜ヲ省キ冗費ヲ減セントシテ事務マサル可カラズ要スルニ本制ハ分權ノ主義ニ依リ名譽職ヲ設ケ從來ノ町村長ヲ節減セシメトテ期スト雖モ若シ市町村ニ於テ度外ノ節約ヲ行ヒ依テ公益ヲ害スルニ至ラントスルトキハ市ハ勿論其他大ナル町村ニ於テハ文化ノ進ムニ從ヒ高等ノ技術員(法律顧問、土木工師、建築技師、衛生技師等ノ類)ヲ使用ス可キ必要ヲ生スルニ至ル可シ之ヲ使用スルニハ或ハ通常雇入ノ契約ヲ以テテ或ハ市町村吏員ト爲スコトアルヘシ又時宜ニ依リ之ヲ有給ノ助役

トシテ任用スルノ便アリ本制ハ此件ニ關シテハ全ク市町村ノ自由ニ任セントス尤警察、學事等ノ爲メニ特別ノ人員ヲ置クニ付テハ別段ノ法規ヲ要ス可シト雖モ若シ別法ヲ以テ定ム可キモノナリ

市町村ノ公務ニ任スル者ハ名譽職ト專務職トノ二種ニ分ツト雖モ本制ニ於テ主トシテ名譽職ヲ擴張シタル理由ハ上ニ之ヲ論述シタルカ如シ又本制ニ於テ名譽職ト爲スコトヲ規定シタル場合ニ於テハ市町村ハ必ズ之ニ遵依ス可シ決シテ有給職ト爲スコトヲ得ス然レトモ小町村ニ於テ名譽職ニ屬スルモノト雖モ大市町村ニ在テハ專務吏員ヲ置クヲ要スルコトアリ專務職トハ特別ノ技術若クハ學問上ノ養成ヲ要スル職務並事務繁多ニシテ本業ノ餘暇ヲ以テ無給ニテ負擔セシムルコト能ハサル職務ナリ此ノ如キ職務ハ有給吏員ト爲スコト常例ト爲セリ此條理ノ範圍内ニ於テ市町村ハ自己ノ便宜ニ依リ有給吏員若クハ無給吏員ヲ置ク可キモノトス

今本制ニ於テハ市市長市助役市町村收入役及市町村附屬員使丁ハ皆專務吏員ト爲スコキ者トス町村長町村助役ハ名譽職ト爲スコト原則トスト雖モ町村ノ情況ニ依テ之ヲ有給ノ專務職ト爲スコト得セシム(町村制第五十五條第五十六條)市參事會員(市長助役ヲ除ク)委員區長ハ名譽職トス但三府ノ區長ハ有給吏員ト爲スコトアル可シ

專務吏員及名譽職吏員ハ共ニ市町村吏員ナリ本制ニ於テ其區別ヲ爲サトルモノハ總テ此兩種ニ適用スルモノトス又市町村吏員タル者ハ其何レノ種類ニ屬スルニ拘ラス法律ニ準據シテ所屬ノ官廳及市町村總ニ對シテ從順ナル可ク均シク懲戒法ニ服從ス可シ其懲戒ヲ行フハ町村長及市參事會(町村制第六十八條第二項第五、市制第六十四條第二項第五)及監督官廳(郡長、府縣知事)ノ任トス(町村制第二百二十八條、市制第二百二十四條)懲戒ノ罰トシテ本制ハ左ノ三種ヲ設ク

- 一 罰金
- 二 通告金
- 三 解職

罰金又ハ通告金ニ處スルハ當該吏員ノ專決ニ屬シ其處分ニ對スル訴願モ均ク當該吏員ノ裁決ニ任シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシム是等ラ懲戒權ノ執行ヲ嚴厲ナラシムル所以ナリ獨リ解職ノ處分ニ對シテハ大ニ保護ヲ加ヘサル可カラズ(但隨時解職シ得可キ吏員ハ懲戒裁判ノ法ニ依ラス解職スルヲ得セシム)故ニ本制ハ解職ノ理由ヲ指定セルノミナラス(但行狀ヲ紊亂シ限吐ヲ失フトハ公務上ニ止マラス私行ニ關スルコトモ含密スルモノナリ)郡參事會府縣參事會ナル集議體ノ裁決ニ任セリ(市制第二百二十四條、町村制第二百二十八條)

市制町村制理由



事務吏員及名譽職吏員トモ職務上大車子同一ノ權利義務ヲ有スト雖モ其性質ニ就テモアルトキハ五ニ相異ナル所アリ事務職ヲ辭スルハ吏員ノ同意ニ在リト雖モ名譽職ハ公民ノ義務トシテ之レニ離セサルヲ得ス其已ニ擔當シタル職務ヲ繼續スルノ義務アルトモトニ就テモ亦此意別アリ(市制第八條、第五十五條第三項、町制第八條、第五十七條)又市制第五十六條、第五十八條及町制第五十八條、第六十二條ノ制限ノ如キハ事務吏員ニ非サレハ負擔セシムルコトヲ得ズ市制第五十九條、町制第六十三條ニ記載セラル吏員ハ其任用ノ時此等ノ關係ヲ約定スルヲ可トス有給職ニ任用品市町村ノ公民タル者ニ限ラサルハ徒ニ擔當ノ區域ヲ越境セザランカ爲メナリト雖モ高等ノ有給吏員ニハ其職ニ就クト同時ニ其市町村ノ公民權ヲ付與スルコト當然ナリ(市制第五十三條、第五十八條、町制第五十六條第二項第六十二條)事務吏員ハ一身ノ全力ヲ奉ケテ市町村ノ爲メニ盡ス可キヲ以テ相當ノ給料ヲ受ケルハ元ヨリ至當ナリト雖モ名譽ノ爲メニ就職スル公民ニハ給料ヲ給セズ(市制第七十五條)尤モ市町村ノ公務ノ爲メニ要スル實費ハ之ヲ辨償セサルヲ得ス唯其名譽職ノ事務煩雜忙ニシテ本業ヲ妨ケラレトキハ多少ノ報酬ヲ與フルハ當然ナリ其額ハ固ヨリ勤勞ニ相當セサル可カラス此規則ハ町制長(町制第五十五條第二項)ハ勿論町村助役及名譽職市事委員ニシテ市町村事務ヲ分任スル者(市制第六十九條第二項、町制第五十五條第二項)ノ爲メニ之ヲ設ク其報酬額ハ市町村會之ヲ議定シ(市制第七十五條)其額ニ關スル爭論ハ市制町制第七十八條ニ依テ處分シ司法裁判ヲ求ムルヲ許サズ

有給市町村吏員ノ財産上ノ要求ハ上ニ記載シタル理由アルニ依リ其職責ケレハ從テ其給料ニ關シテ官廳ノ干渉ヲ要スルコト多シトス尤給料額ハ元來市町村ノ自ラ定ムル所ニ在リ條例ヲ設ケテ之ヲ一定シ又ハ委任ノ前ニ方テ議會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム可シ然レトモ監督官廳ハ新ク市町村ノ定ムル給料ヲ以テ多キニ過キ又ハ不足アリト爲ストキハ職責ヲ担ミ所屬ノ公益亦亦シテ之ヲ所定セシムルノ權利アリ

有給市町村吏員ニハ退職料ヲ給スルヲ當然トス然レモ市町村吏員ニ對シテ官吏ノ恩給令ヲ適用スルコトヲ得ス是其地位ノ異ナルノミナラス市町村吏員ハ定期ヲ以テ選任セラル任期限ノ後ハ再選若クハ再任ヲ受ケルニ非レハ其職ニ在ラサルヲ以テナリ若シ其吏員任期限後再選若クハ再任セラルトキハ連任ノ制トシテ之ヲ非ニ至ル可シ故ニ此結果ヲ助クニ非サレハ一方ニ在テハ有力ノ人進テ市町村ノ職ニ就クコトヲ得シトセサル可ク一方ニ在テハ再選ニ依テ生計ヲ求ムルカ如キ難シテ市町村會ノ恩惠ヲ以テ公益ヲ忘レシムルコトナシトセム加フルニ市町村ノ職務ハ昇格給與ノ途少キヲ以テ其退職料ヲ給スルハ官吏ヨリ厚クスルヲ至當トス然レトモ目下一定ノ法律ヲ以テ之ヲ定メシヨリハ總ロ市町村ノ條例ヲ以テ之ヲ設定セシムルノ便ナルニ若カサルナリ

有給ト無給トヲ論セス凡市町村吏員ノ職務上ノ收入ハ市町村ノ負擔ナルコト疑ハ容レズト雖モ之カ明文ヲ揭ケルモ亦無用ニアラサル可シ(市制町制第八十條)

市町村吏員トノ間ニ起ル給料及退職料ノ爭論ハ司法裁判ニ付セズ市制町制第七十八條ニ依テ處分ス可キナリ其保障ハ此方法ヲ以テ足レリトス

結局ニ至テ論注欲ス可キコトアリ抑退職料ノ規則ヲ設ケルトキハ市町村ノ負擔ヲ加重スルノ意アリト雖モ他國ノ實例ニ據レハ決シテ多額ノ負擔ヲ爲スモノニアラス市町村ニ於テハ多クハ責任ノ吏員ヲ再選シ吏員モ亦再選ヲ受ケサルトキハ必他ノ地位ヲ求メザル者アラザル可シ故ニ實際退職料ヲ支出スルノ場合ハ其少カシキナリ又一カヨリ給スルトキハ市町村ノ盛衰ハ有爲ノ人材ヲ得ルノ多少ニ關シ有爲ノ人材ヲ得ルト得ザルトハ其生計ヲ安全ナラシムルト否トニ關スルモノニシテ市町村自治ノ權ヲ得ルニ於テハ退職料負擔ノ如キハ之ヲ重シト謂フ可カラズ現ナ有給ノ町村助役及町村吏員ニ於テハ此負擔ヲ受ケルノ場合少キニ於テナリ又況テ名譽職ヲ設ケルニ於テハ行政ノ費用大ニ減少スヘキニ於テチヤ市町村ノ繁榮ハ斯ノ如キ法アリテ始メテ將來ニ期望ス可キナリ

市制町制第四章 市町村有財産ノ管理

市町村ニ於テ自ラ其事業ヲ執行スルニ付テハ必之ニ要スル所ノ資金ナカル可カラズ故ニ各市町村固有ノ經濟ヲ立テ以テ必要ノ費用ヲ支拂スルノ道ヲ設ケ可シ即市町村ハ財產權ヲ有スルコト概テ一人人ト同一ナリ然レトモ細ニ觀察スルトキハ其一人人又ハ私立組合ノ類ト相異ナルモノハ市町村ノ事業及支出ノ大ニハ法律規則ニ依テ定マリ市町村民ニ對シテ其義務トシテ負擔セシムルコトヲ得ルノ一點ニ在リ蓋市町村ノ經濟ハ之ヲ汎論スルトキハ一個人ト同一ノ權利ヲ有スルモノニシテ市町村ハ自ラ其經濟ヲ管理スルノ專權アリト謂フ可シ而シテ之ニ二種ノ制限アリ第一市町村ノ實力ハ大ニ國家ノ消長ニ關係アルヲ以テ政府ハ須ク此點ニ注意セサル可カラズ第二政府ハ市町村ノ經濟ヲ以テ國ノ財政ニ輕重セザラシメ之カ爲メニ國ノ財政ヲ潤滑セザラシムコトヲ務メサル可ラス故ニ市町村ノ財政ヲ以テ立注ノ範圍コソ立注法權ヲ以テ市町村ノ財政ニ關スル法規ヲ設ケテ之ヲ格道セシム可キ而シテナラス其經濟上ノ處分初メ國ノ利害ニ干渉スルモノハ皆政府ノ許可ヲ得セシメントス

以上ノ論點ニ關スル規定ハ市制第四章及第六條並町制第四章及第七條ニ載ス抑市町村ノ經濟ニ對シテ政府ノ干渉スル所ノ程度ハ自治制度ヲ論スル者ノ視ル所ニ依テ各異ナル所アル可シト雖モ要スルニ市町村ノ行政ニ對シテ官廳ノ監視ヲ重シテ之ヲ拘束スルニ過ケルトキハ其弊ヲ遂ニ市町村ノ便宜ヲ妨ケ其自ラ其經濟ヲ求ムルノ道ヲ阻礙スルヲ免ラントス然レトモ一方ヨリ見ルトキハ自ラ從來



ノ權行アリテ之ヲ變シテ之ヲ行フコトアリ故ニ漸ク以テ市町村ノ自主ヲ擴張スルチ是ナリトス此點ニ於テハ本制ハ最價重ク加ヘ今日ノ  
 情勢ニ照シテ適度ヲ得ヨリトスル所ヲ以テ制定セリ  
 市町村ノ法人タルハ已ニ法律ノ賜ムル所ナレバ市町村ノ財產ヲ所有スルノ權利ヲ有ス可キコト固ヨリ疑チ容レヌ而シテ市町村財產ニ  
 二種ノ別アリ(甲)市町村ノ費用ヲ支辨スルカ爲メニ消費スルモノアリ例ヘハ土地家屋等ノ賃渡料、營業ノ所得、市町村稅及手数料等ノ  
 如キ是ナリ又基本財產ト稱スルモノアリ基本財產ハ其入額ヲ使用スルニ止マリ其原物ヲ消耗セサルモノトス此區別ヲ立ツルハ市町  
 村ノ實力ヲ維持スルカ爲メニ極メテ重要ナルモノニシテ國家ハ特ニ市町村ノ基本財產ヲ保護シテ其濫費ヲ防カサル可カラズ且經常歲  
 入ノ外ニ臨時ノ收入例ヘハ寄附金等ノ如キハ成ル可ク經常歲入ニ充テシメサルチ要ス唯寄附者ニ於テ寄附金支出ノ目的ヲ定メタルカ  
 或ハ非常ノ水害若クハ凶荒等ノ爲メ經常ノ收入ヲ以テ其數額ニ充ツルニ足ラサルカ如キノ場合ハ固ヨリ別段ナリト雖モ是亦上ノ所  
 可ク受ケルチ要スト爲スハ其經濟上ノ處分ヲ重スル所以ナリ(市制第八十一條、第百二十三條第二、町制第八十一條、第百二十七條  
 第二)(乙)凡市町村ノ財產ハ市町村一般ノ爲メニ使用スルコト固ヨリ得テ後々之ニ特ニ之ヲ法律ニ揭載スルチ要スト雖モ若シ住  
 民中其財產ニ對シテ特別ノ權利ヲ有スル者アルトキハ自ラ其證明ヲ立ツルノ義務アリ即民法上其證明ヲ認ムルニ於テハ特別ノ權利ヲ有  
 スルモノトシ其證明ヲキモノハ即一般ノ使用權アルモノトス(市制町制第八十二條)  
 市町村ノ所有ニ屬スル不動產ノ使用ヲ直接ニ住民ニ許スハ從來ノ實例少シトセテ故ニ其習慣アルモノハ特ニ之ヲ存シ今日後ハ概シ  
 テ新ニ使用ヲ許スチ禁セリ(市制町制第八十三條、第八十四條)又一方ニ於テハ使用權ニ相當スル納稅義務ヲ定メ(市制町制第八十  
 五條)且條例ニ依リ使用者ヨリ金圓ヲ徵收スルコトヲ許セリ(市制町制第八十四條)然レトモ其使用ヲ許シタル物件ハ元來市町村ノ  
 所有物ニシテ使用ノ權利ハ市町村住民タル資格ニ隨テスルモノナレバ市町村ハ固ヨリ使用權ヲ制限シ若クハ取上ケルノ權利ナカル可  
 カラス(市制町制第八十六條)但其議決ハ上ノ所ノ許可ヲ受ケルチ要ス(市制第百二十三條第四、町制第百二十七條第四)細  
 民無產ノ徒ノ不利トナル可キモノヲ防カシメテ之ヲ要スルニ以上ノ規定ハ市町村住民タル資格ニ附隨スル使用權ニノキ用フル  
 モノニシテ民法上ノ使用權ニハ關係ナキモノトス蓋此使用權ハ民法ニ據テ決定ス可キモノニシテ其爭論モ又司法裁判所ノ判決ニ屬ス  
 可キモノトス而シテ前段ノ使用權ニ關スル爭論ハ市制町制第百五條ニ依テ處分ス可キナリ  
 市町村財產ノ管理ハ町村長及市議會ノ擔任トス(町制第六十八條、市制第六十四條)其管理上市町村會ノ議決ニ依ル可キハ町村制  
 第三十三條、市制第三十一條及市制町制第八十七條等ニ於テ又上ノ所ノ許可ヲ受ケ可キ條件ハ載セテ市制第百二十三條、町制第百  
 第三十三條ニ在リ

二十七條等ニ在リ

市町村ハ其住民ヲシテ市町村ノ爲メニ義務ヲ盡シシムルノ權利ナカル可カラズシテ此權利ナキトキハ共同ノ目的ヲ達スルコト能ハサ  
 ルハ上既ニ之ヲ論述セリ其義務ノ廣狹ハ市町村事業ノ範圍ニ從ハサル可カラズ其事業ハ全國ノ公益ノ爲メニスルモノアリ或ハ一市町  
 村局部ノ公益ヨリ生スルモノアリ其全國ノ公益ニ出ツルモノハ軍警、警察、教育等ノ類ニシテ是皆別ニ規定ス可キモノトス其局部ノ公  
 益ヨリ生スルモノ即共同事務ハ各地方ノ情況ニ從テ異同アレハ玆ニ枚舉スルニ暇アラズト雖モ農業經濟、交通事務、衛生事務等ノ如キ  
 ハ其最重要ナルモノトス之ヲ要スルニ一市町村ノ公益ニ於テ必要ナル事項ハ悉ク共同事務ニ屬ス可キナリ本制ニ於テ設ケタル委任  
 ノ國政事務ト固有ノ事務即共同事務トノ區別ハ專ラ市町村長ノ地位ノ兩岐ニ分ル、所ニシテ且市町村ノ必要事務ト隨意事務トノ區別  
 チ立ツルノ根據トナルモノナリ即此區別ハ官制ノ及テ可キ限外チ立ツルニ在リテ必要事務ハ監督官職ニ於テ強制豫算ノ權利(市制第  
 百十八條、町制第百二十二條)アルモノトス而シテ必要事務トハ委任ノ國政事務ハ勿論共同事務中市町村ノ需要ニ於テ固ク可カラザ  
 ルモノニ限リ必要事務ト謂フチ得可シ市制町制第八十八條ノ規定ハ實ニ此精神ニ出テタルモノニシテ市制第百十八條、町制第百  
 二十二條ニ云フ所ノモノ亦同シ此ノ如キ規定アルトキハ共同行政上ノ事件ニ至ルマテ市町村ノ意向ヲ順ミシテ負擔ヲ受ケシムル  
 コトヲ得從テ官ノ監督權ハ重キニ過ケルノ恐アリト雖モ一方ヨリ考フルトキハ全ク檢束ヲ解キテ市町村ノ自由ニ任スルハ却テ將來ノ  
 爲メ顧慮スル所アリ故ニ市町村ノ公益ニ已ムチ得サルモノハ姑ク市町村會ノ意見ニ拘ラズ監督官職ノ命令ヲ以テ之ヲ決行スルノ權利  
 チ存セサルチ得ス但其處分ニ對シテハ上訴ヲ許シタルチ以テ專制ノ弊チ免ル、チ得可シ其他必要ノ支出ハ本制市町村ノ組織ニ關スル  
 條件中ニ含有セリ隨意事務ニ就テハ市町村二十分ノ自由ヲ與フト雖モ若シ過度ノ負擔ヲ爲スニ至ラハ之ヲ制スルニハ市制第百二十三  
 條第六、町制第百二十七條第六ノ規定ヲ適用スルチ得可シ市町村ニ於テ其數額ヲ支辨スルカ爲メニ左ノ議入アリ

一 不動產、資金、營業(瓦斯局、水道等ノ類)ノ所得

二 市町村ノ倉庫ニ收入スル過當金、料(市制第四十八條、第六十四條第二項第五、第九十一條、第百二十四條、町制第五十條、第  
六十八條第二項第五、第九十一條、第百二十八條)

三 手数料、使用料

四 市稅、町村稅

手数料トハ市町村吏員ノ職務上ニ於テ一個人ノ爲メ特ニ手数料ヲ要スルカ爲メ市町村ニ收入スルモノヲ謂ヒ使用料トハ一個人ニ於テ市

市制町制理由



町村ノ營造物等ヲ使用スルガ爲メ其料金ヲ市町村ニ收入スルモノナリ例ヘハ手数料トハ額滿配入又ハ警察事務上ニ於テ特ニ調査チ  
爲ストキノ收入ヲ謂ヒ使用料トハ道路橋樑等ノ類ヲ謂フ  
手数料、使用料ノ額ハ法律勅令ニ定ムルモノ、外市町村會ノ議決ヲ以テ定ムルモノナリ(市制第三十一條第五、町制第三十三條第  
五)尤市町村條例ヲ以テ一般ノ規定ヲ設ケ(市制町制第九十一條)其地ノ慣行ニ依リ相當ノ手續ヲ以テ公告スルモノトス  
且若シ手数料使用料ヲ新設シ又ハ舊來ノ額ヲ增加シ又ハ其徵收ノ法ヲ變更スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス(市制第  
百二十二條第二、町制第二百二十六條第二)但徵收ノ法ヲ改ムルコトナクシテ唯其額ヲ減スルニ過キサルトキハ其許可ヲ受クルヲ要  
セズ  
手数料ヲ納ムルノ義務アルハ行政上ノ手数料要スル者ニシテ使用料ヲ納ムルノ營造物等ヲ使用スル者トス之ヲ免除スルハ  
市制町制第九十七條第九十八條ノ場合ニ限リ可シ第九十六條ノ場合ハ町村ノ課税ヲ免除スルニ止マリテ手数料、使用料等ノ事ニ及  
ハサルナリ  
町村税ニ關シテハ本制ハ成ルベク現行法ヲ存スルノ精神ナリ町村税十分ニ改正セントスレハ先ツ國稅徵收法ヲ改正セザル可カラズ  
故ニ本制ニ於テハ現行ノ原則ニ依リ多少ノ修補ヲ加ヘタルニ過キズ現今町村税ノ賦課目即地價別戸別營業別等ノ如キ皆國稅府稅  
ニ附加シテ徵收スル者ニ外ナラス又或ハ特別ノ町村税アリ故ニ本制ニ定ムル所ノ課目ハ現行ノ課目ヲ存スルニ於テ妨ケナキモノナリ  
附加税トハ定率ヲ以テ國稅府稅ニ附加スルモノニシテ納税ノ負擔額重ノ愚ナカラシメシメカ爲メニ其率均一ニスルヲ例則  
トセリ(市制町制第九十條)其賦課法ヲ定ムルハ市町村會ノ職權ニ屬ス故ニ市町村會ハ隨時ノ議決又ハ豫算議定ノ際ニ之ヲ議決スル  
キナリ若シ此例則ノ外ニ於テ課法ヲ設ケント欲スルトキハ警察會議(町制第二百二十七條第七)若シハ府縣警察會議(市制第二百二十三條  
第七)ノ許可ヲ受ケルヲ要ス  
稅率ノ定限ハ豫メ之ヲ設ケスト雖モ獨リ地租及直轄國稅ニ於テハ市制第二百二十二條第三、町制第二百二十六條第三ニ定ムル制限ヲ  
越セントスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受ケルヲ要ス是レ國庫ノ財源ニ關係スル所アリテナリ就中地租ノ如キハ從前此定  
限ヲ超過スルヲ得ルハ非常特別ノ場合ニ限レリ而シテ特別許可ノ道ヲ存セザルカ如キハ地方ニ依テハ却テ課税ノ平均ヲ得サルノ弊  
アリ是レ本制現行ノ例ヲ參シテ多少ノ便法ヲ開キタル所以ナリ間接稅ハ概シテ市町村ノ附加稅課スルニ便ナラス故ニ市制第二百二十  
二條第四及ハ町制第二百二十六條第四ニ從ヒ課稅官ノ許可ヲ要ストセリ各種國稅府稅ノ内何レヲ直稅トシ又何レヲ間稅トス可キカ  
ニ關シテハ

ハ往々疑點ヲ生スルコトナリ此區別ニ就テハ今内務大臣府省ノ告示ヲ以テ之ヲ定ムルコトトセリ(市制第二百三十一條、町制第二百三十  
六條)附加稅ノ特別稅ニ優ル所以ノモノハ附加稅ニ在テハ納稅者既ニ國稅又ハ府縣稅ノ賦課ヲ受クルヲ以テ別ニ其收益等ノ調査ヲ爲  
スル要セザルニ在リ唯其町村稅ノ免除セザルモノ國稅府縣稅ノ賦課ヲ受ケザル者(一個人又ハ法人)ニ限リ更ニ其調査ヲ要ス可キニ付此  
場合ニ於テハ町村長若シハ市議會ニ於テ其國稅府縣稅徵收ノ規則ニ據リ其調査ヲ爲サ、ル可カラズ  
特別稅ハ市制町制第九十一條ニ從ヒ條例ヲ以テ之ヲ規定セザル可カラズ此點ニ於テハ既ニ手数料ニ就テ說明シタル所ニ同シ但特別  
稅ハ市町村必要ノ費用ヲ支辨スルニ附加稅ヲ以テシテ猶足ラザルトキニ限リ始メテ之ヲ徵收スルモノトス(市制町制第九十條)  
市町村稅ヲ納ムルノ義務ヲ負擔スル者ニ就テハ一個人トシテ區別セザル可カラズ即チ左ノ如シ  
甲 一個人  
凡ソ納稅義務ハ市町村ノ住民ニ原クモノトス(市制町制第六條第二項)故ニ此義務ハ市町村内ニ住居ヲ定ムルト同時ニ起ルモノナ  
リ故ニ一旦住居ヲ定メタル者ハ時々他ノ市町村ニ滞在スルコトアリト雖モ納稅義務ヲ免ルヘキニ非ス若シ之ニ反シテ住居ヲ定メヌシ  
テ一時滞在スルニ止マルモノハ未タ此義務ヲ帶ヒス唯三箇月以上滞在スルトキハ住居ヲ占ムルト同ク納稅ノ義務ヲ生スルモノトス  
(市制町制第九十二條)又假令市町村内ニ住居若シハ滞在セスト雖モ其市町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲ス  
者ハ均ク其市町村ノ利益ヲ蒙ルニ依リ共ニ納稅ノ義務アリトス但此義務ハ一般ノ負擔ニ涉ラズシテ唯其土地家屋營業若クハ是ヨリ生  
スル所得ニ賦課ス可キ市町村稅ニ限リテ負擔ノ義務アルモノトス(市制町制第九十三條)住居ト滞在トハ常ニ必ス同一ニ歸セザルヲ以  
テ或ハ重價ノ課稅ヲ受クルノ愚ナシトセシ此弊害ヲ防クカ爲メニハ則チ市制町制第九十四條、第九十五條ノ規定アリ他國ニ於テハ  
往々住居ヲ定ムル市町村ニ特權ヲ與フルノ例アリト雖モ本制ハ特ニ此例ニ倣ハス要スルニ此ノ如キハ皆施行規則中ニ適宜ノ便法ヲ定  
ム可キコトトス  
市町村稅ノ免除ヲ受ケルハ市制町制第九十六條、及第九十八條ニ揭載シタル人員ニ限レリ

乙 法人  
法人ハ市制町制第九十三條ニ從ヒ隨其所有ノ土地家屋若クハ之ニ依テ生スル所得ニ賦課スル市町村稅ニ限リ納稅ス可キモノトス抑  
法人トハ政府、府縣(郡)亦郡制制定ノ上ハ法人ト爲スノ見込ナリ)市町村、公共組合(例ヘハ水利土功ノ組合、社寺宗教ノ組合ノ類)總  
持協會、其他民法及商法ニ從ヒ法人タル權利ヲ有ス可キ私法上ノ結社ヲ謂フ其私法上ノ結社ハ市制町制第九十七條ノ免稅ノ部ニ入  
ル

市制町制理由



レノ又官設ノ鐵道電信ノ如キハ官ノ營業ニ關スル雖モ是等ハ特ニ國家ノ公益ノ爲ニ免稅トス(市制町村制第九十三條)私設鐵道ニ至テハ各市町村ニ於テ其收益ヲ調査スル頗ル難キヲ以テ施行規則中ニ於テ詳ニ之ヲ規定スルヲ要ス

凡ソ納稅義務者ニ課稅スルハ總テ平等ナル可キナリ唯市制町村制第八十五條ハ此例外トシテ使用ノ土地物件ニ係ル費用ヲ其使用者ニ課セリ又一市町村ノ數區若クハ數區ニ分レタルトキ其一部一區ノ費用ニ關スル營造物ノ費用ハ其一部一區ノ負擔トセリ(市制町村制第九十九條第二項)尤其一部一區ニ特別ノ財產アルトキハ先ツ其收入ヲ以テ其費用ニ充テ猶足ラサル時特別ニ其一部一區ノ人民ニ課稅シ又ハ一般全市町村中ニ區別ヲ立テ其標準ヲ高クス可シ之ニ反シテ第九十九條第一項ノ場合ニ於テ數個人ノ費用ニ關スル營造物ノ費用ハ必其數個人ノ負擔トシ之ヲ他人ニ賦課スルコトヲ得サルモノトス但市町村稅ハ總テノ納稅義務者ト平等ニ賦課スルヲ以テ例則ト爲スカ故ニ若シ此例則ニ違ハントスルトキハ官ノ許可ヲ受クルヲ要ス(市制町村制第二十三條第八、町村制第二百二十七條第八)

各納稅者ノ稅額ヲ査定スルハ法律規則ニ依リ市制町村制第九條ノ規定ニ從ヒ町村長(町村制第六十八條第八)及市議會(市制第六十四條第八)ノ擔任トス大ナル町村及市ニ於テハ之カ爲メ事務ノ委員ヲ設ケルヲ便宜トス

社會經濟法ノ稍進歩シタル今日ニ在テハ舊時ノ夫役現品ニ代ヘテ金納法ヲ行フニ至レリ然レトモ町村費ノ課出ニ於テハ夫役現品ノ法ヲ存スルハ特ニ必要ナルノミナラス往々便利ナルモノアリ且古來ノ慣行今日ニ傳フル者其例少カラズ夫役賦課ハ坂ノ道路、河溝、堤防ノ修築、防火水又ハ學校、病院ノ修繕等ノ爲メニ行フモノナリ殊ニ村落ニ在テハ農隙ノ時以テ夫役ヲ課スルトキハ租稅ノ負擔ヲ輕減セシカ爲メニ大ニ便宜トスル所アリ農民ノ如キハ樂節ニ依リ夫役ニ應スルヲ得ルノ間隙アルコト市民ト其趣ヲ異ニス且地方道路ノ開通ヲ要スルモノ將來必少カラサル可キヲ以テ夫役賦課ノ法ヲ存スルトキハ幾許カ市町村ノ負擔ヲ輕減スルノ効アルコト必セリ依テ市制町村制第九條ニ於テ市町村ニ許スニ夫役賦課ノ法ヲ以テセリ但此點ニ於テハ今日ノ經濟ニ適應セシメンカ爲メ本制ハ本人自ラ其役ニ從事スルト適當ノ代理者ヲ出シ又ハ金額ヲ納ムルコトヲ以テ義務者ノ選擇ニ任セリ其金額ニ算出スルハ其地ノ日雇賃ニ準シ日數ヲ以テ等差ヲ立ツルヲ通例トス唯火災水害等ノ如キ急迫ノ場合ニ於テハ金額ヲ禁スルコトヲ得可シト雖モ代人ヲ出スハ本人ノ同意ニ在ルモノトス

夫役ハ總テ市町村稅ヲ納ム可キ者ニ賦課シ其多寡ハ直接市町村稅ノ納額ニ準スルモノトス若シ此標準ニ依ラサルトキハ郡縣議會(町村制第二百二十七條第九)及府縣議會(市制第二百二十三條第九)ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス此場合ノ外ハ總テ市町村限リ許可ヲ受ケスシテ之ヲ賦課スルコトヲ得ヘレ

一般ニ夫役ヲ賦課スルト賦課セザルト及夫役ノ種類並範圍ヲ定ムルハ市町村會ノ權權(市制第三十一條第五、町村制第三十三條第五)ニ屬シ之ヲ各個人ニ賦課スルコトハ町村長(町村制第六十八條第八)及市議會(市制第六十四條第八)ノ擔任トス

以上市町村ノ收入ハ皆公法上ノ收入ニ屬スルモノニシテ其徵收ハ市制町村制第九條ノ第五條ニ準據ス可キモノトス而シテ其賦課徵收上ノ不服ハ司法裁判所ニ提出スルヲ許サズ郡縣議會府縣議會會ノ裁決ヲ結局ノ裁決ハ行政裁判所ニ屬ス此公法上ノ收入ハ私法上ノ收入ト相混同ス可カラズ例ヘハ市町村有ノ地所チ一個人ニ貸渡シタルトキ其借地料ハ民法及訴訟法ニ準據シテ徵收ス可キヲ將來市町村ノ事業漸ク發達スルニ從ヒ經常ノ歲入ヲ以テ支辨スルコト能ハサル所ノ大事業ノ起ル可キハ勢ノ免レサル所ナリ然レトモ豫メ其費用ニ備ヘンカ爲メ資本ヲ蓄積セントスルコトモ亦種メテ難カレ可シ故ニ經常歲入ヲ以テ支ヘ能ハサル所ノ需要ニ應セント欲スレハ市町村長(町村制第六十八條第八)及市議會(市制第六十四條第八)ノ道ヲ閉クノ外ナカレ可シ即公債募集ノ方法ニテ抑公債募集ノ利益ハ收入時期ノ未タ到來セザルニ先テ豫メ歲入ヲ使用シテ以テ町村住民ノ爲メニ大事業ヲ起シ其經濟及納稅力ヲ獎勵シ且以テ納稅者ノ負擔ヲ輕減スルニ在ルナリ公債ノ事ハ利益ノ在ル所斯ノ如シト雖モ之ニ伴フ所ノ弊害モ亦自ラ免レサルモノアリ若シ市町村ニ於テ此方法ニ依リ豫メ將來ノ歲入ヲ使用スルトキハ則其元利償却ニ充ツル所ノ金額ハ將來ノ歲入中ヨリ減却スルモノナレハ負擔額ノ多寡ト償還期限ノ長短トニ從ヒ市町村ノ財政ニ影響スル所少カラズ又市町村會ニ於テハ資本ノ得易キカ爲メニ輕忽ニ其市町村ノ實力ニ相當セザル事業ヲ起スノ傾向ヲ爲シ又ハ今日ニ負擔ス可キノ義務ヲ漫リニ後年ニ傳ヘントスルノ弊害ナキコト能ハス是故モ行政官ノ注意ス可キ所ニシテ市制第六條、第二百二十二條第一及町村制第六條、第二百二十六條第一ノ規定アルハ以上ノ論旨ニ起因スルモノトス

本制ハ公債募集ノ事項ヲ逐一列舉セズ唯已ムテ得サルノ必要若クハ永久ノ利益ト云フヲ以テ之レカ制限ヲ立テタリ若シ此制限ニ適合スルノ證明ナキモノハ許可ヲ與フ可カラズ若シ償還期限三年以内ニシテ許可ヲ要セザルモノハ町村制第六十八條第一及市制第六十四條第一ニ依テ相當ノ處分ヲ爲ス可キナリ其必要已ムテ得サルノ支出トハ負擔額ヲ償還シ又ハ傳染病流行若クハ水害等不慮ノ災厄ニ遭遇シテ一時ノ窮乏救ヘントスルトキ又ハ學校ヲ開設シ道路ヲ修繕スル等法律上ノ義務ヲ盡サントスルカ如キ場合チ則チ永久ノ利益トナル可キ支出トハ市町村ノ力ニ堪フ可キ事業ヲ起シ以テ市町村有財產ノ生產力若クハ住民ノ經濟力ヲ増進シ假令一時ノ負擔ヲ増スモ永遠ノ利益ヲ生ス可キ場合チ則チ尤何レノ場合ニ於テモ一時ノ歲入ヲ以テ支辨シ能ハサル時ニ限ルモノトス但年々要スル所ノ常



費ハ必無常ノ歳入ヲ以テ支拂フ可キモノニシテ公債ヲ發シテ得ス公債發集ニ當テハ深ク注意ヲ加ヘ成ルヘク住民ノ負擔ヲ輕クシ利息ハ時ノ相場ニ準シ隨時償還ノ約ヲ立テ市町村ニ便利ヲ與ヘサル可カラズ到底償還方法ノ確定スルニ非サレハ發集ヲ許サズ又公債ノ成ル可ク市町村ノ財政ニ適宜ノ償還期限ハ其ノ過ク可カラズ故ニ本制ニ於テハ償還ハ三年以内ニ始マルモノトシ年々ノ償還割合ヲ定メ且發集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スルヲ以テ例規ト爲セリ若シ此例規ニ違フントスルトキハ必官ノ許可ヲ要ス(市制第百二十二條第一、町村制第百二十六條第一)元來許可ヲ要セサル公債ノ種類ト雖モ右ノ例規ニ違フトキハ亦官ノ許可ヲ請フ可シ

公債ヲ起スルニ起サレト及方法ノ如何ハ市町村會ノ議決ニ屬ス(市制第三十一條第八、町村制第三十三條第八)唯定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メニシテ一會計年度内ニ償還ス可キ公債ハ市ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セズ市參事會ノ意見ヲ以テ發集スルヲ得ト雖モ(市制第百六條第三項)町村ニ於テハ町村會ノ同意ヲ要スルコト勿論ナリ然レテ如キ公債ハ收入支出ノ多キ市ノ如キニ在テハ自然已△可カラサルモノニシテ其支出ノ時期ト收入期限ト相合ニセサルカ故ナリ

凡公債ヲ發集スルニ付許可ヲ受ケルハ右ニ陳述シタル場合及會テ發集シキニ新ニ公債ヲ起シ又ハ舊債ヲ増額スルトキニ在リ故ニ前記ノ如キ一時ノ借入金ヲ爲シ又ハ舊債償還ノ爲メニ公債ニシテ其規約償還ヨリ負擔ヲ輕クスルトキノ如キハ渾テ許可ヲ要セス其他ハ償還期限三年以内ノモノヲ除クノ外内務大臣ノ許可ヲ受ケ可シ

既ニ發集シタル公債ノ償還ノ目的外ニ使用セントスルトキハ市町村會ノ議決ヲ要シ且若シ其公債ニシテ官許ヲ要スルトキハ許可ヲ受ケ可キコト官ニ俟タス

市町村ノ財政ハ政府ノ財政ニ於テハ均ク三箇ノ要件アリ即チ

- 甲 定額豫算表ヲ編製スル事
- 乙 收支ヲ爲ス事
- 丙 決算報告ヲ爲ス事

以上ノ三要件ニシテ法律中ニ明白ニ規定セラルルモノハ本制第四條第二項ニ於テ之ヲ規定セリ

財政ヲ整理シ收支ノ平衡ヲ保ツニハ定額豫算表ヲ發ケサルヘカラス本制ハ(市制)町村制第百七條)市町村ヲシテ豫算表編製ノ義務ヲ負ハシム故ニ若シ市町村ニ於テ此義務ヲ盡サレトキハ法律上ノ權力ヲ以テ之ヲ強制スルヲ得ヘク若シ之ヲ議決セサルトキハ府縣參事

會郡參事會ノ議決ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得(市制)第百十九條、町村制第百二十三條)此義務ハ決シテ免ルヘカラスルモノナレハ孰小ノ町村ト雖モ猶之ヲ負擔セサルヲ得ズ其豫算表ハ一年ノ見積ヲ以テ之ヲ發ケ其會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同クセリ其他本制ハ豫算表編製ノ細目ヲ定メス要スルニ一切ノ收支及收入不足ノ場合ニ方リ支拂方法ヲ定ムルヲ以テ足レトス但財政整理上ニ於テ市町村ノ實力ヲ酌量ス可キ必要ノ細目ハ官令ヲ以テ之ヲ定ムルコトアルヘシ

定額豫算ノ案ヲ編製スルコトハ町村長及市參事會ノ擔任ニシテ之ヲ議決スルハ市町村會ノ職權ニ屬ス收支ヲ許可スルコトハ市町村會ノ全權ニ任セシメテ法律上ノ檢束ヲ除クモノアリ即當額支出スヘキモノヲ否決シタルトキハ監督官廳ニ於テ強制豫算命令スルノ權(市制)第百十八條、町村制第百二十二條)アリ又其議決ノ越權ニ涉リ又ハ公益ヲ害スルモノハ其議決ヲ停止スルノ權(市制)第百二十四條第一、町村制第六十八條第一)アリ事項ニ依リテハ官ノ許可ヲ要スルカ故ニ(市制)第百二十三條第五項、町村制第百二十六條)第百二十七條第五項)市町村住民ノ爲メニ過度ノ負擔ヲ制止スルノ方法ハ十分備ヘリト謂フヘシ故ニ豫算表ハ市町村會ノ議決スル所ニ依リ其全體ニ於テ許可ヲ受ケルヲ要セス唯右ニ記載シタル場合ニ限リテ許可ヲ受ケルヲ要スルノ事

凡定額豫算表ハ二種ノ効力アリ即一方ニ於テハ運事者ヲシテ豫定ノ收支ヲ爲スノ權利ヲ得セシメ一方ニ於テハ豫算スヘカラスルノ制限ヲ負ハシムルモノナリ殊ニ豫算外ノ支出豫算超過ノ支出若クハ費目ノ濫用ヲ爲スニ當テハ更ニ市町村會ノ議決ヲ經ヘキモノトス此場合ニ於テ市町村會ハ當初豫算ノ議定スルト同一ノ規定ニ從テ之ヲ議決スヘキナリ其追加豫算若クハ豫算ノ變更ヲ議決スルニ當リ其事項タル官ノ許可ヲ要スルトキハ均ク其許可ヲ受ケルヘキコトニ豫備費ヲ發ケヘキト否ト及其額ノ如何ハ市町村會ノ議定ニ在リト雖モ已ニ之ヲ發ケタルトキハ市町村制第百九條ノ制限ヲ除クノ外町村長及市參事會ノ之ヲ使用スルニ任ズ但其決算報告ヲ爲スヘキハ同リナリトス

市町村收支ノ事務ハ之ヲ官吏ニ委任セシメテ之ヲ市町村ノ吏員即收入役ヲ置テ之ニ委任ス是多ク各國ニ行ハル所ノ實例ニシテ其吏員ハ市町村ニ於テ之ヲ選任シ有給吏員ト爲セリ要スルニ本制ノ旨趣ハ收支命令者ト實地ノ出納者トチ分離獨立セシメント欲スルニ在リ故ニ收入役ノ事務ヲ町村長ニ委任スルハ本制ノ敢テ希望スル所ニ非スシテ此ノ如キ場合ハ極メテ罕ナルヘシ若シ町村ノ情況ニ依リ別ニ有給ノ收入役ヲ置クヲ要セサルトキハ官廳ノ之ヲ助役ニ委任スルヲ可トス又比隣ノ小町村ハ町村制第百十六條ニ從ヒ共同シテ收入役一名ヲ置クヲ又便宜ニ任ズ



收支命令權ハ町村長若クハ市議事會及監督官ニ屬ス收支命令ハ書面ヲ以テセサルヘカラス收支命令ヲ受ケスシテ爲シタル支拂ハ市町村ニ於テ之ヲ認定スルヲ要セス抑收支命令ト實地ノ出納トチ分離スルハ支拂前ニ於テ其豫算ニ違フ所ナキヤテ監査スルニ似ナルカ爲メナリ元來決算報告ヲ爲スハ即此目的ニ外ナラズト雖モ既ニ支拂後ニ歸ルチ以テ其監査ハ往々時機ニ後ルトノ際アリ故ニ本制ハ市町村制百十條) 收入役ニ貢ハシムルニ其命令ノ正否ヲ査スルノ義務ヲ以テシ其命令若シ定額豫算又ハ追加豫算若クハ豫算變更ノ決議ニ適合セス又豫備費ヨリ支拂フヘキトキ該費目ノ支出ニ關スル規定ヲ遵守セサルニ於テ之ヲ支出スルヲ得サルモノトス此義務ハ收入役ノ賠償責任ト懲戒處分ノ制裁ヲ以テ十分ニ之ヲ確保サシムルヲ得ヘシ

若シ町村長ニ收入役ノ事務ヲ擔任セシムルトキハ收支命令ト支拂トノ別ハ白ラ消滅シ隨テ上ニ記載シタル監査ノ法モ亦之レナキニ至ルヘシ

收入役ヲシテ右ノ義務ヲ行ヒヨカラシメンカ爲メ定額豫算表ハ勿論追加豫算若クハ豫算變更ノ議決ハ必之ヲ收入役ニ通報セサルヘカラス其豫算表及臨時ノ議決ハ併セテ豫算ノ標準ト爲ルモノナリ本制ハ豫算ノ事ニ就テハ規定ヲ立ツルコトナシト雖モ豫算及一般出納事務ニ就テハ追加命令ヲ以テ原則ヲ示スコトアルヘシ又本制ハ出納ヲ檢査スルチ以テ市町村ノ義務ト爲セリ(市制町村制百十一條) 若シ理事者ニ於テ此義務ヲ行ハヌ又ハ檢査ヲ行フテ監サレル所アルカ爲メ市町村ニ損害ヲ隨シタルトキハ市町村ニ對シテ賠償義務ヲ負シムル可キナリ此賠償義務ノ外懲戒ヲ加ヘ得ヘキハ旨ヲ俟タヌ

決算報告ノ目的ハ二アリ左ノ如シ

一 計算ノ當否及計算ト收支命令ト適合スルヤ否ヲ檢査スル事(會計審査)

二 出納ト定額豫算表又ハ追加豫算若クハ豫算變更ノ議決又ハ法律命令ト適合スルヤ否ヲ査定スル事(行政審査)

町村長若クハ市議事會ニ對シテ行フモノナリ其會計審査ハ先ツ町村長(但町村長ニ於テ會計ヲ兼掌スルトキハ此限ニ在ラス)及市議事會ニ於テ之ヲ行ヒ次チ市町村會ニ於テ右二種ノ目的ヲ以テ會計ヲ審査ス(市制町村制百十二條)是故ニ收支命令者(町村長、助役、市議事會員)ニシテ市町村會ノ議員ヲ兼スルトキハ其議決ニ加ハルコトヲ得ス(市制第四十三條、町村制第四十五條)若シ又議長タルトキハ其議事會議長ニ居ルコトヲ得サルモノトス(市制百十二條、町村制百十三條)是則チ審査ノ五ニ指稱スルチ以テナリ

決算報告ノ時會計ニ不足アルトキハ市制百二十五條若クハ町村制百二十九條ヲ適用ス可シ

市制町村制第五章 市町村内特別ノ財産ヲ有スル市區又ハ各部ノ行政

行政ノ便利ノ爲メニ並シタル區ト一市町村内ニ於テ獨立ノ法人タル權利ヲ有スル各部トノ區別アルハ固ヨリ旨ヲ俟タヌ本制ハ一市町村ノ統一ヲ備フモノニシテ一市町村内ニ獨立スル小組織ヲ存置シ又ハ造成スルコトヲ欲スルニアラズ然レトモ強テ此原則ヲ斷行セントスルトキハ一地方ニ於テ正當ニ享有スル利益ヲ侵害スルノ恐レアリ故ニ概シテ此旨趣ニ依テ論ズ可カラサルモノアリ大市町村ニ於テハ現令既ニ特別ノ財産ヲ有スル部落アリ現今ノ小町村ヲ合併スルトキハ更ニ又此ノ如キ部落ヲ現出スヘシ其部落ハ即獨立ノ權利ヲ有スルモノト開フヘシ又他ノ一方ヨリ論ズルトキハ市制町村制第九十九條ノ原則ニ依リ其部落ハ義務ヲ負擔スルコトアリト雖モ之レカ爲メ直ニ別段ノ組織ヲ要スルコトナカルヘシ其特別財産又ハ營造物ノ管理ハ之ヲ全市町村ノ理事者タル町村長又ハ市議事會ニ委任スルコトヲ得(市制百十四條、町村制百十五條) 若シ議長ヲ置クトキハ町村長又ハ市議事會ニ於テ區長ニ指稱シテ其管理ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得ヘシ其一部ノ權利ヲ侵害スヘカラス然レバ百廿四條ニ於テ其一部ノ出納及會計ノ事務ヲ分別スヘキモノトスルハ即是カ爲メナリ議會ノ職掌ヲ論ズルハ(市制百第三十條至第三十五條、町村制百第三十二條至第三十七條) 特別事務ト雖モ總テ之ヲ市町村會ニ委任スルコトヲ得ナキ而バナラズ却テ審査スヘキ所ナリ然レトモ地方ニ依リテハ全市町村ト其各部落トノ利害ハ互ニ相抵觸スルコト往々之レアリ其甚キニ至テハ多數ノ爲メニ壓抑ヲ蒙ルコトアリ依テ其一部限リノ選舉ヲ以テ特別ノ議會ヲ起シ以テ其理事ヲ委任スルコトヲ得ヘシ其之ヲ起スノ利害ニ就テハ一般ノ原則ヲ設ケ難キカ故ニ姑ク條例ノ規定ニ任セサルヘカラス但此條例ハ固ヨリ普通ノ規定ニ依ルヘクシテ特別ノモノニ非スト雖モ其之ヲ設ケ且其事項ヲ定ムルハ市町村會ノ議決ニ任セシメテ之ヲ都若クハ府縣議會ニ委任セリ何トナレハ利害ノ相抵觸スルカ爲メ個個ノ處置アラントテ恐レレハナリ唯市町村會ノ意見ヲ徵スヘキハ勿論ナリ要スルニ區會ハ市町村會又ハ區内人民ノ情願ニ依リテ之ヲ設ケルヲ當然トス

區會ノ構成ハ本制ニ規定シタル市町村會ノ組織ニ依テシテ條例中ニ之ヲ定ムヘキモノトス區會ノ職掌ハ市町村會ノ職掌ニ同シ唯其特別事件ニ限ル

町村制第六章 町村組合

本制ノ希望スル如ク有力ノ町村ヲ造成シ又郡ヲ以テ自治体ト爲ストキハ其他別ニ區畫ヲ設ケルノ必要ナカルヘキナリ殊ニ一事件アル毎ニ特別ノ聯合ヲ設ケルヲ要セサルヘシ若シ淺ニ聯合ヲ設ケルトキハ行政事務簡明ナラス其組織糾紛ヲ極メ費用モ亦隨テ増加スルヲ



現レサルハ英國ノ實例ヲ以テ設スルニ足ルヘシ獨リ水利土功ノ聯合又ハ小町村ニ於テ學校ノ聯合ヲ設クルカ如キハ萬巳ムテ得サルモ  
 ノニシテ皆別法ヲ以テ規定セサルヘカラス然レトモ其別法ノ發布セサル間ハ本制ニ於テ豫メ之カ方法ヲ設ケサルヘカラス又此必要ア  
 ルノ外往々町村組合ヲ設クルノ諸路ヲ示スヘキモノアリ即本制ニ於テハ關係町村ノ協議ヲ以テ其組合ヲ爲スノ目的、組合會理ノ組織、  
 事務管理ノ方法及費用ノ支辨方法等ヲ定ムルトキハ(町村制第六十六條第一項、第七十七條第一項) 監督官廳即郡長ノ許可ヲ得テ組合  
 ヲ成スコトヲ許セリ町村ニ於テ相當ノ實力ヲ有セザルトキ組合ヲ爲サシムルヲ必要ト爲スカ如キ是ナリ此ノ如キ場合アルトキハ町村  
 制第四條ニ於テ合併スヘキコトヲ規定スト雖モ事情ニ依リテハ合併ヲ施スヘカラス又ハ之ヲ不便ト爲スコトナシトモ例ヘハ該町村  
 ノ五ニ相違隔スルカ如キ又ハ古來ノ慣習ニ於テ調和ヲ得サルカ如キノ類アリ此ノ如キニ至テハ其町村ノ協議アルニモ拘ラス事務共同  
 ノ爲メ組合ヲ成サシムルノ權力ナカルヘカラス其組合ヲ成ストキハ第四條ノ場合ニ異ニシテ其各町村ノ獨立ヲ存シ又別ニ町村長及町  
 村會者クハ町村組合ヲ有スヘキ理ナリ然レトモ其組合ヲ成ス所ノ共同事務ノ多寡及種類ハ其組合ニ依テ五ニ異ナルモノトス  
 抑協議ニ依ラズシテ組合ヲ設クルハ町村ノ獨立權ヲ傷クルノ恐レアルニ依リ郡議會會ノ議決ニ任スルヲ妥當ナリトス(町村制第六十  
 六條第二項) 果シテ其共同事務ノ區域ヲ定メ強制ヲ以テ組合ヲ成サシメタルトキハ議會ノ組織、事務管理ノ方法、費用支辨ノ方法就中  
 分擔ノ方法ニ至テハ先ツ關係町村ニ於テ之ヲ協議スルヲ要ス若シ其協議調ハサルニ及テハ郡議會會ニ於テ之ヲ議決スルノ外ナシ  
 組合議會ノ組織、事務管理ノ方法、費用支辨ノ方法等ニ分擔ノ割合ハ本制ニ於テ豫メ之ヲ規定セズ實際ノ場合ニ於テ便宜其方法ヲ制ス  
 ヘシ故ニ組合ハ特別ノ議會ヲ設ケ或ハ各町村會ヲ合シテ會議ヲ開キ或ハ互選ノ委員ヲ以テ議會ヲ組織シ或ハ各町村會別箇ニ會議ヲ爲  
 シ其各議會ノ一致ヲ以テ全組合ノ議決ト爲スノ類各其宜キニ從フヘシ又町村長ノ如キノ組合ニ一ノ町村長ヲ置キ且之ヲ永久獨立トシ  
 或ハ各町村長ノ交替ト爲スヲ得ヘシ又組合ノ費用ハ或ハ特別ノ組合費トシテ之ヲ各個人ニ賦課シ或ハ之ヲ各町村ニ賦課シ以テ其賦課  
 徵收ノ法ヲ各町村ノ便宜ニ任スルヲ得ヘシ各町村分擔ノ割合ハ利害ノ輕重、土地ノ廣狹、人口ノ多寡及納稅力ノ厚薄ヲ以テ其賦課  
 可シ但し其納稅力ノ確定方ニ至テモ亦之ヲ一定スルコト能ハサル可シ以上ノ各事項ニ關シ本制ハ空ク實地宜キニ從フヲ許セリ故ニ各地  
 方ニ於テ其價ト爲ス所ヲ採擇ス可シ  
 組合町村ハ之ヲ解クノ議決ヲ爲スヲ得ト雖モ郡長ノ許可ヲ得ルヲ要ス(町村制第六十八條)  
 市制第六章町村制第七節 市町村行政ノ監督  
 監督ノ目的及方法ハ本說明中各處ニ之ヲ論セリ故ニ此處之ヲ詳セズ唯其要點ヲ概括セントス

(第一) 監督ノ目的ハ左ノ如シ

- 一 法律、有効ノ命令及官廳ロリ其權限内ニテ爲シタル處分ヲ違可スルヲ否テ監視スル事
  - 二 事務ノ紛亂混淆セサルヲ否テ監視シ時宜ニ依テ之ヲ強制シ處ス事(市制第七十七條、町村制第二百二十一條)
  - 三 公益ノ妨害ヲ防キ殊ニ市町村ノ實力ヲ保持スル事
- 以上ノ目的ヲ達スルカ爲メ左ノ方法ナリ

- 一 市町村ノ重要役ヲ選可シ又ハ臨時町村長助役ヲ選任スル事(市制第五十條、第五十二條、町村制第五十九條、第六十條、第六十一條、第六十二條)
- 二 議決ヲ許可スル事(市制第二百二十二條、第二百二十三條、町村制第二百二十六條、第二百二十七條)
- 三 行政事務ノ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ査閱シ事務ノ現況ヲ視察シ進出納ヲ檢閱スル事(市制第二百十七條、町村制第二百二十一條)
- 四 強制徵算ヲ命スル事(市制第二百十八條、町村制第二百二十二條)
- 五 上級ノ委員會ニ於テ代表ヲ議決ヲ爲ス事(市制第二百十九條、町村制第二百二十三條)
- 六 市町村會及市議會會ノ議決ヲ停止スル事(市制第六十四條第一、第六十五條、町村制第六十八條第一)
- 七 懲戒處分ヲ行フ事(市制第二百二十四條、第二百五條、町村制第二百二十八條、第二百二十九條)
- 八 市町村會ヲ解散スル事(市制第二百二十條、町村制第二百二十四條)

(第二) 監督官廳ハ左ノ如シ

- 町村ニ對シテハ
  - 一 郡長
  - 二 知事
  - 三 內務大臣
- 市ニ對シテハ
  - 一 知事
  - 二 內務大臣

法律ニ明文アル場合ニ於テハ郡長若クハ知事ハ郡議會會者クハ府縣議會會ノ同意ヲ求ムルヲ要ス但委員會ヲ開設スルマテハ郡長知事  
 ノ亦決ニ任ス(市制第二百二十七條、町村制第二百三十條)  
 市町村吏員ノ處分若クハ議決ニ對シテハ市町村ノ事務ト市制第七十四條、町村制第六十九條ニ記載シタル事務トノ間







- 市參事會之ヲ選任ス但書記ノ人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 東京市京都市大阪市ニ於テハ區長代理者ヲ置カス區長事故アルトキハ上席書記之ヲ代理ス
- 第六條 東京市京都市大阪市ニ於テハ府知事ハ區長ヲシテ其區内ニ關スル國ノ行政及府ノ行政並收入役ノ事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得
- 第七條 東京市京都市大阪市ニ於テ區ノ廢置分合ヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第八條 東京市京都市大阪市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員選舉區ト爲ス

○市町村會議員選舉罰則 明治二十三年五月二十九日

朕市町村會議員選舉罰則ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 市町村會議員選舉罰則
- 第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ
- 第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食

ヲ供給シ又ハ選舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス

其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲ニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ沐浴料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス

其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 選舉人ヲ脅逼シ若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 選舉ノ際選舉ニ關スル吏員若クハ選舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス



第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者或器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 選舉會場所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用キル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虛報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス  
第十九條 本法ニ規定シタルモノ、外刑法ニ正條アルモノハ各々其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス  
第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制並ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選舉ニモ適用ス

○行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件 明治二十三年四月二十日 勅令第七十一號

朕行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政事務又ハ司法事務ニ關シ郡區ヲ以テ其區域ヲ定メタルモノニシテ市制ヲ施行シタル場合ニ於テハ特ニ市ノ屬スヘキ區域ヲ定メタルモノヲ除クノ外左ノ區別ニ隨ヒ其所屬ヲ定ムルモノトス  
一 區ヲ市トナシタルモノニ付テハ市ノ區域ニ依ル但東京市京都市大阪市ニ在テハ仍區ノ區域ニ依ル  
二 郡内ノ町村ヲ市トナシタルモノニ付テハ仍其從前屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス  
三 二郡以上ニ涉ル町村ヲ合シテ市トナシタルモノニ付テハ其人口ノ最モ大ナル部分ノ屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス  
四 此勅令發布前ニ行ヒタル選舉ハ第三ノ規定ニ合ハサルモノアルモ其當選者ニ限リ改選ヲ要セス區域變動ノ爲メ關係ノ郡ヨリ選舉スヘキ縣會議員ノ數ニ増減ヲ爲スヘキ必要アルトキハ本年ノ通常縣會ノ議決ヲ取り明治二十二年法律第七號第二條第二項ニ依リ處分スヘシ

○市町村名及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル件

行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件 市町村名及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル件



明治二十三年八月二十九日  
法律第七十七號

朕市町村名及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村ノ名稱ヲ變更シ若ハ村ヲ町ト爲シ町ヲ村ト爲サントスルトキハ關係アル市町村會及郡  
參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ  
第二條 市役所町村役場ノ位置ヲ變更スル市町村會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

○市町村内地ノ字名改稱變更ニ關スル規程

明治廿六年一月十二日  
內務省訓第二二號

從來公稱スル市町村内地ノ字名ハ明治十四年第八十三號公達ノ旨趣ニ依リ容易ニ改稱變更スヘキモ  
ノニアラサルモ已ムヲ得サル事實アリテ改稱變更ヲ必要トスルモノニ限リ左ノ規程ニ依リ取扱フヘシ  
一 市町村内地大字名市制町村制施行ノ際分合シタル舊區町村名從前獨  
立町村内地ノ支郷又ハ某組ト唱フル郡落等ノ總稱及市內從來ノ町名ヲ改稱シ又ハ其區域ノ  
變更ヲ要スルトキハ市町村會之ヲ議決シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但町村ニ屬スルモノハ郡長  
ヲ經由シ郡長ハ意見ヲ副申スヘシ  
二 市町村内地ノ小字名市內從來ノ  
町名ヲ除クヲ改稱シ又ハ其區域ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル地主ノ意見ヲ聞  
キ市町村會之ヲ議決シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但町村ニ屬スルモノハ郡長ヲ經由シ郡長ハ意  
見ヲ副申スヘシ  
三 水面埋立地其他新開地等新ニ字名稱ヲ付スルトキハ第二項ノ例ニ依ルヘシ

- 四 市町村ノ境界ニ關スル爭論ノ裁決及民事訴訟ノ判決ニ依リ字名ノ訂正又ハ其區域ヲ變更スヘキ  
トキハ市參事會町村長町村制ヲ施行セサル地方ハ  
市長及之ニ準スヘキ吏員ヨリ市ハ府縣知事ニ町村ハ郡長ニ申報セシムヘシ
- 五 第一項第二項第三項ニ依リ處分シタルモノ及第四項ニ依リ申報ヲ受ケタルモノハ府縣知事ニ於  
テ每翌年三月三十一日限內務大臣ニ報告スヘシ
- 六 北海道沖繩縣其他町村制ヲ施行セサル島嶼ニ於テハ仍ホ從前ノ手續ニ依ル其小字名ニ關スルモ  
ノハ長官及知事ニ於テ處分スヘシ

○市町村歲入出豫算表式

明治二十二年三月一日  
內務省令第二號

明治二十一年法律第一號市制町村制ニ依リ市町村歲入出豫算表式左ノ通相定ム

市町村歲入出豫算表式  
某府(縣)某郡某町(村)(某町村組合)市 明治何年度歲入出總計豫算

一金	歲入	歲入豫算高
一金	歲出	經常費豫算高
一金		臨時費豫算高
合計金(臨時費ノ豫算ナキト)		
歲入出差引		
殘金		

市町村内地ノ字名改稱變更ニ關スル規程  
市町村歲入出豫算表式



歳入出差引残金及歳出ノ精算残金ハ翌年度繰越金ニ編入スルヲ通例ト爲スト雖モ若シ該残金又ハ歳入豫算ニ對スル實收額ノ増減金額等特ニ其處分ヲ要スルトキハ豫メ其方法ヲ議定シ本案ニ列揭スヘシ例ヘハ殘金ノ處分ニ付テハ其殘金總額ノ何歩ハ基本財産何歩ハ豫備費何歩ハ翌年度繰越金ニ編入スヘシト掲記シ又豫算ニ對スル實收ノ増減ニ付テハ何收入何税ノ増額ハ何收入何税ノ實收減額ニ補填シ猶殘金アルトキハ何々基本財産、豫備費、翌年度繰越金等ニ編入スヘシト掲記スルノ類

某府(縣) 某郡某町(村) 某町村組合 明治何年度歳入出豫算

歳入		歳出	
科	目	前年度豫算額	本年度豫算額
第一款	財産ヨリ生スル収入		
一			
二			
三			
第二款	使用料及手数料		
一			
二			
三			
第三款	雑収入		
一			
二			
三			
合計			

市町村歳入出豫算表式

歳出		歳入	
科	目	前年度豫算額	本年度豫算額
第一款	役所(役場)費		
一			
二			
三			
第二款	合議費		
一			
二			
三			
第四款	前年度繰越金		
三			
第五款	(市)町村税		
一	地價割		
二	營業割		
三	三月別割(家屋割)		
合計			











ト附記スヘシ

十二 豫備費ヲ置クトキハ雜支出ノ次ニ其一款ヲ設クヘシ若シ精算殘餘ヲ生スルトキハ順次之ヲ次年  
度ニ繰越スコトヲ得

十三 瓦斯燈水道等ノ類ニシテ別ニ豫算ヲ設クルヲ必要トスルトキハ適宜之ヲ調製スルコトヲ得

十四 町村組合ニ在テハ分擔法ニ依リ歲入科目第五款町村税ノ款ニ於テ左ノ如ク掲載スルモ妨ケナシ

第五款町村税

一	地價割
二	營業割
三	戸別割
菜村ノ瓦擔	
一	地價割
二	營業割
三	戸別割
戸別割	

○市制町村制中直接税間接税ノ類別 明治二十一年七月十三日  
本年法律第一號市制第三百三十一條町村制第三百三十六條直接税間接税ノ類別ハ左ノ諸税ヲ以テ直接税ト  
大藏省告示第九十五號

廿九年八月大  
藏省告示第三  
十九號ヲ以テ  
税目改正

廿九年七月大  
藏省告示第五  
十四號ヲ以テ  
「營業税」追加

シ其他ハ間接税トス但府縣區町村ニ於テ特ニ徵收スルモノハ府縣知事ノ稟申ヲ以テ之ヲ定メ其直接ト  
スヘキモノハ府縣知事ヲシテ管内ニ告示セシム

- 國稅
- 地租 所得稅 營業稅
- 府縣稅
- 地租割 戶數割 家屋稅 營業稅 雜種稅
- 市町村稅
- 直接國府縣稅附加稅 段別割

○區町村費ニ關スル細則 明治二十二年八月十六日  
內務省訓令第五九四號

市制町村制第九十一條中從前ノ區町村費ニ關スル細則ヲ規定スルハ從前ノ區町村費課目ニシテ國稅府  
縣稅ノ附加稅ニ屬スヘキモノハ其本稅則ニ準據シ更ニ細則ヲ設クルヲ要セサルヘシト雖モ從前區町村  
費ノ課目ニシテ市制町村制施行後ニ於テモ費用スヘキ反別割等ノ類ハ單獨ナル特別稅ナルヲ以テ之カ  
賦課方法ノ如キハ細則トシテ規定シ且罰則ヲ設タルヲ得ル儀ト心得ラルヘシ

○市制町村制中内閣ニ於テ行フヘキ行政裁判手續 明治二十二年六月四日  
法律第十六號

朕市制第二百二十七條及町村制第二百十條ニ據レル行政裁判手續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

廿三年六月法  
律第四十八號  
行政裁判法第  
一節

市制町村制中直接税間接税ノ類別 區町村費ニ關スル細則  
市制町村制中内閣ニ於テ行フヘキ行政裁判手續



明治二十一年四月法律第一號市制第二百二十七條及町村制第三百十條ニ依リ當分ノ内閣ニ於テ行フヘキ行政裁判ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ受理審問セシメ内閣ノ裁定ヲ經テ判決ヲ言渡サシム

同上

○市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱ノ件 明治二十三年二月十二日 法律第十號  
朕市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱ノ件ヲ茲可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村制實施以前區戶長ノ處分ニ關シ市町村長ニ對スル行政訴訟並同制實施後ニ係ル市町村長ニ對スル行政訴訟ハ從前郡區戶長ニ對スル事件ニ準シ始審裁判所ニ於テ取扱フヘシ但明治二十二年法律第十六號ヲ以テ指定シタル場合ハ此限ニアラス  
土地收用法第十五條第二項ニ該當スル訴訟事件ニシテ該法律施行前受理シタルモノハ從前ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

○市町村ノ人口官報告示ノ件 明治二十三年七月十四日 內務省令第三號

市町村ノ人口ハ毎年十二月末日調査ノ現在數ニ依リ翌年官報ヲ以テ告示シ之ヲ市制町村制ニ記載スル最終調査ノ人口トス但告示ノ後市町村ヲ廢置分合シ又ハ其境界ヲ變更スルトキハ次回ノ告示ヲ爲ス迄ノ間其處分ヲ爲シタル當時ノ調査ニ依ルモノトス

○町村制ヲ施行セサル島嶼ノ件 明治二十二年一月十六日 勅令第一號

朕町村制ヲ施行セサル島嶼指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

町村制第三百二十二條ニ依リ町村制ヲ施行セサル島嶼左ノ通指定ス

東京府管下

小笠原島

伊豆七島

長崎縣管下

對馬國

嶋根縣管下

隱岐國

鹿兒島縣管下

大隅國大島郡

大嶋 德ノ島

喜界島

沖永良部島

興論島

薩摩國川邊郡

硫黃島 黒島

竹島 口之島

臥蛇嶋 平嶋

中之嶋 惡石嶋

諏訪ノ瀬嶋 寶嶋

○町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戶長以下給料旅費並浦役場費ノ件

明治二十二年一月十六日 勅令第二號

朕町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戶長以下給料旅費並浦役場費ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

町村制ヲ施行セサル島嶼ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ムル迄本屬府縣ニ於テ町村制施行ノ後ニ要スル戶長以下給料旅費並浦役場費ハ其町村ノ負擔トス但東京府管轄小笠原嶋伊豆七島ハ從前ノ通國庫ヨリ支

市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱ノ件 市町村ノ人口官報告示ノ件  
町村制ヲ施行セサル島嶼ノ件 町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戶長以下給料旅費並浦役場費ノ件



○市町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼及諸費用取扱方

明治二十一年八月十八日  
内務省令第四號

- 第一條 市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼了ノ日ニ至ル迄ハ區長戸長區書記役場筆生等ニ於テ從前ノ通事務取扱ヲ爲スヘシ
- 第二條 前條事務取扱中地方稅支辨ニ係ル吏員ノ給料旅費並ニ區役所戸長役場ノ經費ハ總テ該年度ノ豫算ニ據リ地方稅又ハ町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第三條 市制及町村制施行ノ期日ヲ定メタルトキ前條ノ地方稅又ハ町村費ニ關シ未タ該年度ノ豫算ヲ議定セス又ハ議定シタル豫算ノ不足アルニ於テハ從前ノ通府縣知事戸長ニ於テ府縣會町村會ノ議決ヲ取リ前條費目必要ノ豫算ヲ定ムヘシ
- 第四條 市制及町村制施行ノ日ヨリ市町村稅徵收ニ至ルマテ市町村必要ノ費用ハ第二條ノ費用ヲ除クノ外區長戸長ニ於テ其豫算ヲ設ケ區町村會ノ議決ヲ經テ假徵收ヲナスヘシ但新市町村ト舊區町村會區域ト符合セサル場合ニ於テハ各區町村會ニ於テ區々豫算ヲ設ケサル爲メ府縣知事ニ於テ其標準ヲ示スコトヲ得
- 前項ノ費用ハ區町村會ノ議決ニ依リ現在セル區町村費又ハ共有金ヲ一時使用シ又ハ一時ノ借入金ヲ以テ其費用ニ充ツルコトヲ得
- 第五條 區長戸長ニ於テ取扱タル一切ノ金穀並ニ會計帳簿ハ其金穀ノ種類及ヒ所屬年度ヲ區別シタル明細書ヲ製シ之ヲ市町村長ニ引繼クヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ第四條ノ金額ハ事務引繼前ニ支拂タルモノヲ除クノ外人口段別ヲ標準トシテ適宜各部分ニ配付シ其他ハ人口段別ノ最多キ部分ノ分屬シタル市町村長ヲ以テ主擔トシ其市町村長ニ引繼キ主擔市町村長

- ハ第七條但書ノ精算ヲ了シタル上其所屬外ノ部分ノ分屬シタル各市町村ニ屬スヘキモノハ更ニ之ヲ其市町村長ニ引繼クヘシ
- 前項但書ノ場合ニ於テ帳簿ノ類ニシテ分割スヘカラサルモノアルトキハ更ニ引繼クコトヲ要セス但閱覽ノ便ヲ妨クヘカラス
- 第六條 第四條第一項ニ依リ假徵收ヲナシタルモノハ追テ市町村會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上市町村稅各納人ニ對シ差引徵收ヲ爲ス可シ
- 同條第二項ニ依リタルトキハ新ニ徵收シタル市町村稅ヲ以テ返償ヲ爲スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ最初配付ヲ受ケタル割合ニ應シ各市町村長ニ於テ之ヲ徵收シ主擔市町村長ニ於テ全額ヲ取纏メテ其返償處分ヲ爲スヘシ
- 第七條 區長戸長ニ於テ未タ精算ヲ了セサル區町村費ハ其引繼ヲ受ケタル市町村長ニ於テ之ヲ精算ヲ作リ市町村會ニ報告スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ主擔市町村長ニ於テ精算ヲ作リ主擔市町村長ハ其市町村會ニ報告シ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ニ於テハ主擔市町村長ヨリ之ヲ其各市町村長ニ送付シテ其市町村會ニ報告セシムヘシ
- 第八條 前條精算ノ場合ニ於テ殘餘金アルトキハ市町村長ニ於テ舊區町村ニ割戻ヲナス可シ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ主擔市町村長ニ於テ割戻ノ高ヲ定メ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ配付シ各其割戻ヲナスヘシ
- 第九條 第七條精算ノ場合ニ於テ不足金ヲ生シタルトキハ市町村會ノ議決ヲ經テ舊區町村ヨリ追徵補充スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ主擔市町村長ニ於テ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ其補充豫算ヲ作リ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ送付シ各市町村會ノ議決ヲ經テ其舊區町村ノ部分ヨリ追徵補充スヘシ
- 第十條 不納ニ屬シタル區町村費ニシテ精算報告後ニ於テ追徵シタルモノハ各市町村ノ臨時收入トナ

市町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼及諸費用取扱方



スヘシ

第十一條 従前郡部ト經濟ヲ異ニセサル區若クハ郡部内ノ市街地ニ市制ヲ施行スルトキハ該市ハ地方稅費目申郡區廳舎建築修繕費並郡吏員給料旅費及廳中諸費ノ負擔ニ任スヘカラサルヲ以テ該費ハ市制施行ノ後ハ市ニ賦課セサルモノトス但第二條ノ諸費ニ係ルモノハ此限ニアラス

○町村制第四條ニ依リ新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於ケル事務取扱其他ニ關スル件 明治三十年三月十六日 內務省令第三號

- 第一條 町村制第四條ニ依リ新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於テ町村長就職スルニ至ルマテ監督官廳ハ前町村吏員ニ命シ又ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ若クハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ其ノ事務取扱ヲ爲サシムヘシ
- 前項ニ依リ事務取扱ヲ命シタル前町村ノ吏員及臨時代理者ノ給料(報酬)旅費(實費辨償額)等ハ監督官廳ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第二條 新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於テ町村會成立スルニ至ルマテ始メテ議員ヲ選舉スルニ付町村會ノ議決スヘキ事件ハ郡參事會代ツテ之ヲ議決スヘシ
- 第三條 新ニ町村ヲ置キタル日ヨリ町村稅徵收ニ至ルマテ其ノ町村必要ノ費用ハ其ノ事務取扱者ニ於テ豫算ヲ設ケ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 前項ノ費用ハ假ニ町村稅ヲ徵收シテ之ニ充テ又ハ前町村ノ引繼金若クハ一時ノ借入金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 第四條 前條第二項ニ依リ假徵收ヲ爲シタル町村稅ハ追テ町村會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上町村稅各納人ニ對シ差引徵收ヲ爲スヘシ
- 第五條 町村制第四條ノ處分ヲ爲シタル爲メ町村ノ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ財務ハ實施ノ期日ヲ限リ打切り決算スヘシ

限リ打切り決算スヘシ

- 前項ノ決算ハ其ノ事務ヲ繼承シタル町村長ヨリ其ノ町村會ニ報告スヘシ
- 第六條 町村制第四條ノ處分ヲ爲シタル爲メ町村ノ消滅シタル場合ニ於テ前町村ニ對スル町村稅其ノ他ノ收入ノ未納金アルトキハ其ノ部分ノ屬スル町村ノ町村長ニ於テ之ヲ徵收スヘシ
- 第七條 町村ノ一部ヲ分割シテ新ニ町村ヲ置キ又ハ町村ノ區域ヲ變更シタル場合ニ於テ前町村ニ對スル町村稅其ノ他ノ收入ノ未納金アルトキハ其ノ部分ノ屬スル町村ノ町村長ハ前町村長ノ囑托ニ依リ之ヲ徵收スヘシ
- 第八條 町村民ノ資格要件中其ノ年限ニ關スルモノハ町村ノ廢置分合若クハ境界變更處分ノ爲ニ中斷セラレサルモノトス
- 第九條 新町村ノ役場位置ハ府縣知事ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第十條 町村ヲ變シテ市ト爲シ又ハ市ヲ變シテ町村ト爲シ又ハ市制第四條ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ法令中別段ノ規程アルモノヲ除ク外總テ此ノ省令ノ規程ヲ準用ス

○市町村ニ於テ維持スル公園地内使用及使用料等ノ件

明治二十四年五月二十二日 內務省訓令第四六四號

市町村ニ於テ維持保存スル公園地内使用及其使用料徵收等ハ舊來ノ慣行ニ依リ特ニ使用スル者ノ外ハ渾テ市町村營造物規則并使用料細則ノ規定ニ依リ取扱ハシム可シ

○市町村行政事務監督 明治二十五年五月九日 內務省訓令第三四八號

市町村行政事務監督ノ儀ニ付テハ是迄示達シタル儀モ有之各地方共漸次監督ノ方法ヲ設ケ實施シ來候

町村制第四條ニ依リ新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於ケル事務取扱其他ニ關スル件 市町村ニ於テ維持スル公園地内使用及使用料等ノ件 市町村行政事務監督



處客年來已ニ郡制府縣制ヲ實施シタル地方モ不少又其他ノ府縣ニ在テモ不遠施行セラルヘキニ付從テ其下級團體タル市町村行政事務ノ監督ハ此際一層之ヲ嚴密ニシ以テ其事務ノ整理ヲ計リ新制度ノ實効ヲ舉クルコトニ注意セラル可シ今其監督ヲ行フヘキ事項ノ要領ヲ左ニ列擧ス其方法順序ノ詳細ニ至テハ各地方適宜酌量スルコトアル可シ

- 一 市町村ノ事務ハ國及府縣郡ノ行政ニ係ルモノハ勿論市町村ノ共同事務ニ屬スルモノト雖モ其事務報告ヲ徵シ之ニ依テ其事務ノ整理ヲ檢察シ其違法若クハ不當ナルモノアルトキハ夫々相當ノ處分ヲ施シ又將來ニ向テ訓戒ヲ加フルコトアルヘシ依テ各府縣ニ於テ市町村事務報告例ヲ定メ確實ノ報告ヲ徵スルヲ要ス尤モ定例報告ノ外ト雖モ必要ノ時ハ隨時報告ヲ徵スルコトアルヘシ又天災時變其他重要ノ事件アルトキハ監督官廳ノ命令ヲ俟タスシテ臨時報告スヘキハ當然ノ事ナリトス
- 二 市町村ノ行政事務ヲ監督スル爲メニ監督官廳ハ各市町村ノ巡視ヲ行フヘシ其巡視規程ハ各府縣ニ於テ適宜規定スルヲ要ス
- 三 市役所町村役場事務ノ整理ヲ計ルニハ其處務ノ順序一定ノ例式ニ依ルヲ要ス各府縣ニ於テハ其處務規程ノ準則ヲ示達シ各市町村ヲシテ此準則ニ依リ適宜之ヲ設定シ第一次監督官廳ノ認可ヲ受ケシム可シ
- 四 市町村會計ノ整理ヲ計ル爲メニ出納帳簿ノ例式ヲ一定スルヲ要ス依テ各府縣ニ於テ可成精密明白ノ簿式ヲ制定シ且出納檢閱例規ヲ設ケ漸次精密ノ檢査ヲ施行ス可シ
- 五 市町村長及收入役等交代ノ節事務引繼ノ事ハ最慎重ヲ要スルニ付特ニ視察ヲ加ヘ時宜ニ依リ主任官ヲシテ臨檢セシムルコトアルヘシ其事務引繼ノ順序ハ豫メ各府縣ニ於テ一定ノ例ヲ設ルヲ要ス
- 六 市町村ノ事務ヲ整理スルニハ簿冊ノ種類員數樣式ヲ一定スルヲ要ス依テ各府縣ニ於テ適宜其準則ヲ定メ漸次施行スヘシ
- 七 市町村ノ事務ハ最簡易誠實ヲ主トシ虛飾ニ流レヌ繁細ニ涉ラサルヲ要ス其經濟ハ勤儉ヲ守リ勉テ資力ヲ充實スルノ法ヲ講シ冗費濫出ノ弊ヲ防制スヘシ

八 市町村基本財産ハ之ヲ維持保存シ之ヲ増殖スルヲ務ムヘキハ勿論市町村經濟ノ許ス限リハカメテ之ヲ蓄積セシメンコトヲ誘導スルヲ要ス然レトモ其方法宜キヲ得サルトキハ却テ負擔ヲ加重シ經濟上ノ不利タルヲ免レヌ宜ク特ニ注意ヲ加フ可シ

九 市町村行政事務ノ舉否ハ主トシテ市町村長ノ責任ニ在リ故ニ其選任ニ付テハ最慎重ヲ加フヘク特ニ市長ハ其任重ク裁可ヲモ仰クヘキニ付其推薦ヲ誤ラサル様厚ク注意スヘキハ勿論町村長ハ知事ニ於テ之ヲ認可スルノ職權ヲ有スルニ付其選任ノ當否ニ詳ニ之ヲ監査シ犯罪不正ノ行爲アル者若クハ懲戒處分ヲ受ケタル者ノ如キハ言フヲ待タス(但懲戒處分ノ輕キモノハ別段ナリ)其經歷上其任ニ適セスト認ムルモノハ之ヲ認可セス又就職後ト雖モ職務ノ内外ニ拘ラス不都合ノ行爲アルモノハ嚴正ニ訓諭ヲ加ヘ再三ニ及テ猶之ヲ遵奉セサル者ノ如キニ至テハ假借スル所ナク處分ヲ行ヒ且以テ紀律ヲ嚴肅ニスルノ良習慣ヲ養成スルヲ要ス

十 市町村吏員タル者ハ政論ノ外ニ立テ一ニ市町村ノ公益ヲ計リ黨派ニ偏セス公平ヲ持スルヲ以テ最專要トス故ニ假令其人各政黨ニ列スルコトアルモ市町村行政ノ職務ヲ行フニ方テハ自治ノ本旨ヲ恪守シ黨派ノ關係ヲ及ホスコトアルヘカラス監督官廳ハ厚ク之ヲ監査シ其行爲公平ヲ失スト認ムル者ハ前項ト同ク嚴ニ訓諭ヲ加ヘ事實ニ依テハ相當ノ處分ヲ行フヘシ

十一 市町村吏員ノ任期アル者ハ其任期中ハ自己ノ意思ニ依リ法律ノ規定ニ從テ退職スルノ外他ヨリ容易ニ進退セシムルヲ得ス然ルニ其任期中ニ在テ市長ノ俸給ヲ減額シ町村長助役ヲ有給吏員ト爲シ若クハ其有給ノ例ヲ廢シ以テ容易ニ吏員ノ交代ヲ促スカ如キコトナシトセス又法律ノ規定外特ニ議員ノ定數ヲ増減スルコト往々アリ是或ハ黨派ノ私ニ起因シ其實吏員議員ヲ進退スルノ意ニ出ツルコトアラシモ知ル可カラス若シ右等ノ事アルニ於テハ獨リ法律ノ旨趣ニ反ルノミナラス其弊少カラサルニ付嚴ニ其事實ヲ審明シ事宜ニ依リ一面ハ訓諭ヲ加ヘ一面ハ事狀ヲ具申スヘシ

十二 各府縣ニ於テ本訓令ニ依リ事務報告例巡視規程處務規定準則出納帳簿式出納檢閱例規市町村吏



○市町村巡視規程概則

明治二十五年五月九日  
内務省訓第三四九號

市町村巡視規程ハ左ノ概則ニ準シ適宜制定セラレヘシ  
郡長ハ少クモ毎年一度部内各町村ヲ巡視ス可シ其他郡書記府縣官ノ巡視スルハ便宜知事郡長ノ指揮スル所ニ依ル

- 一 巡視ス可キ事項ハ各府縣適宜之ヲ定ム可シト雖モ今左ノ概例ヲ舉ケテ其標準ヲ示ス
- 二 市町村内全體ノ狀況(平穩無異ナリヤ否ヤ黨派軋轢ノ弊アリヤ否ノ類)
- 三 吏員ノ勤惰能否及事務ノ成績(土木事業教育勸業ノ舉否若クハ兵事戶籍等ノ盛否ノ類)
- 四 市役所町村役場事務分課及執務ノ體裁
- 五 市町村事務ノ狀況(事務ノ繁簡便否ノ類)
- 六 市町村吏員ノ處置法律命令ノ規定ニ違背スル所ナキヤ否
- 七 吏員ノ部民ニ對スル接遇
- 八 市町村會議ノ景況
- 九 市町村會議員選舉ノ景況
- 十 豫算決算ノ整理
- 十一 營造物及財産ノ管理
- 十二 簿書ノ整頓並保存
- 十三 出納ノ正否及現金ノ保管
- 十四 市町村經濟ノ狀況(負擔ノ輕重課税ノ適否財産及負債多寡等ノ類)
- 十五 以上ノ巡視スヘキ事件ノ綱領ヲ舉クルノミ其細節目ハ各府縣ニ於テ便宜之ヲ規定スヘシ

巡視ノ時検査スヘキ簿冊及事業ノ成績ヲ觀察スルニ付注意スヘキ事項ハ各府縣ニ於テ之ヲ規定スルコトアルヘシ

巡視復命書ノ様式ハ豫メ各府縣ニ於テ之ヲ一定シ置クヘシ  
郡長郡吏員ヲ派遣シテ巡視セシメ其復命ヲ受ケタルハ郡長ニ於テ之ヲ勘査シ將來ノ處分ニ付意見アル者ハ之ヲ付シ共ニ府縣知事ニ報告スヘシ府縣知事ハ其重要ト認ムル事項ヲ内務大臣ニ報告スヘシ府縣及郡ニ於テ屬員ヲ派遣シテ巡視セシムルトキハ管内ヲ數區ニ分テ豫メ巡視ノ擔當區ヲ定ムルコトヲ得ヘシ

巡視員巡視シタル事項ニ付テハ知事郡長ニ復命スルノ外秘密ニ取扱ヒ漏泄スルコト無之様注意ヘシ  
府縣知事郡長ニ於テ職權ヲ以テ指揮スルハ格別其他巡視員ニ於テ巡視事項ヲ觀察スルノ外知事郡長ノ命令ヲ待タスシテ直ニ指揮スルコトヲ得ス但法律命令ニ違ヒ又錯誤アルコトヲ發見シ事輕微ニシテ直ニ更正シ得ヘキモノハ市町村長ニ注意ヲ與フルコトヲ得若シ錯誤違法ノ廉輕微ナラスシテ差置キ難キモノハ即時知事郡長ニ報告セシムヘシ

○市町村事務報告例概則

明治二十五年五月九日  
内務省訓令第三五〇號

市町村事務報告例ハ左ノ概則ニ準シ適宜制定セラレヘシ  
市町村事務報告例ハ特別ニ規定スルモノ、外即報トシ其事件ノ生シタル即日報告スルモノトス但必要ト認ムルトキハ豫報ヲ爲サシムルコトアルヘシ  
市ノ報告ハ府縣知事ニ町村ノ報告ハ郡長ニ提出スルヲ例トス但別段ノ規定アルモノハ其規定ニ依ル町村ノ報告ヲ郡長ヨリ更ニ府縣知事ニ報告シ市町村及郡長ヨリ提出シタル報告ヲ府縣知事ヨリ更ニ内務大臣ニ報告スルハ別段ノ規定アル事項ニ限ル但天災時變等異常ノ事項ハ隨時必要ノ報告ヲ爲スヘシ市町村事務報告ノ項目ハ各府縣ニ於テ適宜規定スヘシト雖モ今左ニ概例ヲ舉ケテ其標準ヲ示ス



- 一 市町村會議員選舉ノ結果及其選舉錄謄本
  - 二 市町村會議員ノ退任辭職
  - 三 市町村會開閉及其議事ノ事項並其議事錄謄本
  - 四 市町村會ノ決議諸件
  - 五 市町村會議決ノ執行停止及再議ニ付シタル事件
  - 六 市町村會議員選舉ノ效力ニ關スル處分
  - 七 市町村公民權ノ特免停止及市町村費増課處分
  - 八 市町村內ニ區ヲ設置シ區長及代理者ヲ置クコト及之ヲ廢スル事
  - 九 常設及臨時ノ委員ヲ設置シ及廢止スル事
  - 十 市町村吏員ノ選舉ノ結果
  - 十一 市町村長助役及收入役ノ就任及退任
  - 十二 市町村助役及市參事會員分掌事項
  - 十三 市町村會議事細則及役場內諸規定
  - 十四 市町村吏員事務引繼ノ顛末
  - 十五 市町村吏員ノ懲戒處分
  - 十六 市町村歲入歲出豫算及決算
  - 十七 市町村事務報告書寫及市町村財產明細表
  - 十八 一時借入金及三年以内ノ公債募集
  - 十九 學藝美術ニ關スル物品ノ異動
  - 二十 市町村稅滯納處分ニ係ル人員及金額
- 前項類目ノ外法律命令ニ規定アルモノ並國及府縣郡ノ行政事務(戶籍兵事學事勸業等)ニシテ法律命令ヲ以テ報告ヲ徵スルモノハ各其規定ニ依ルヘシ

○國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル件

明治三十年三月二十日  
法律第三十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 府縣都市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國庫ヨリ其ノ費用ヲ補助スルモノニ關シ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ事業ノ設計施行管理並經費收支ノ方法等ニ付期間ヲ指定シテ之カ變更ヲ命シ若シ命ニ從ハサルトキハ直ニ之ヲ變更スルコトヲ得
- 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業ノ全部若クハ一部ヲ直接施行スルコトヲ得
- 第二條 前條ノ事業ニ關シ經費ノ負擔ヲ爲シ又ハ經費ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テ主務大臣ノ指定シタル期間內ニ之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ直ニ豫算ヲ定メ又ハ豫算ヲ追加シ若クハ更正シ必要ナル費用ヲ支辨セシムルコトヲ得
- 第三條 此ノ法律ニ規定シタル主務大臣ノ職權ハ其ノ委任ヲ受ケタル地方長官ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得
- 第四條 府縣都市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國ノ事業ト關聯スル場合ニ於テハ此ノ法律ノ規程ヲ準用スルコトヲ得
- 第五條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○區町村會法

明治十七年五月七日太政官布告  
第十四號

明治十三年四月第十八號布告區町村會法左ノ通改正ス

國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル件 區町村會法



區町村會法

- 第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス
- 第二條 區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改選及其他ノ規則ハ府縣知事「縣令」之ヲ定ム
- 第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス
- 第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事「縣令」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第五條 區長ニ於テ區會、郡區長戶長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事「縣令」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第六條 府知事「縣令」ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得
- 第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戶長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事「縣令」ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得
- 第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル
- 第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル、者及海陸軍軍人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス
- 第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

- 第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ區長戶長若シ事故アルトキハ區長戶長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得
  - 第十二條 府知事「縣令」其管轄內ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラザル狀況アルヲ認ムルトキハ「內務卿」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
  - 第十三條 府知事「縣令」ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得
  - 第十四條 府知事「縣令」ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得
  - 第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戶長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事「縣令」便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戶長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ
- 區町村費及土木費怠納者處分 明治十七年五月七日太政官布告 第十五號
- 區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ總テ明治十年十一月一號布告ニ據リ處分ス可シ若シ財產公賣ノ際買受人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戶長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取り府知事「縣令」ノ認可ヲ得テ處分スヘシ
- 但明治十四年四月第二十四號布告ハ廢止ス



○市町村制施行後水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件

明治二十二年三月二十一日

法律第十一號

朕水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

從來開設シタル水利土功會又ハ水利土功若クハ學事ニ關スル町村聯合會ハ明治十七年五月第十四號布告區町村會法ニ依リ又學區會ハ同法第十四條第十五條ニ準據シ市制町村制施行後ト雖モ別ニ規定ヲ設クルマテ之ヲ存續スルコトヲ得

○各府縣下ニ存在スル公共財產等ニ關スル件

明治二十二年一月二十四日

內務省令第一號

第一條 從來各府縣下ニ存在スル公共ノ財產ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ議定ニ付セサルモノハ其管理方法又ハ名義ノ如何ニ拘ラス府縣知事ニ於テ其管理者又ハ關係者ノ意見ヲ聞キ其所屬ヲ定メ自今府縣會若クハ區町村會ノ議定ヲ經テ府縣知事若クハ郡區長戸長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第二條 前條ノ財產ニシテ地方稅又ハ區町村費ト經濟ヲ異ニスルノ必要アルモノハ議會ノ決議ニヨリ別ニ經濟ヲ立ツルコトヲ得

第三條 公益ニ供スル爲メ有志人民ノ協力ヲ以テ設立シタル學校病院ノ類ハ府縣立ノ名義ヲ附シ府縣知事ニ於テ之ヲ管理スルモ本令第一條ニ據ルノ限ニ在ラス

○水道條例

二十三年二月十二日

法律第九號

朕水道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水道條例

第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應ジ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源

地、貯水池、濾水場、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス

第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一 水道事務所ノ所在地

第二 水源ノ位置河川池湖又ハ堰井及其水量ノ概算但圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ

第三 水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水池、濾水場、唧水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ

第四 給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込

第六 水壓ノ概算

第七 工事方法

第八 起工並竣工期限

第九 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算

市町村制施行後水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件 各府縣下ニ存在スル公共財產等ニ關スル件 中卷一二七

水道條例



第十 水料ノ等級、價格、水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算

第四條 內務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審查シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀ヲ與フヘシ

第五條 水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス

第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ

第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ検査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ改良ヲ市町村ニ命スヘシ

第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ

第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得

第十一條 家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス

第十二條 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ検査スルコトヲ得但水道掛ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ修繕ヲ爲サシムヘシ

第十四條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出ツヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ

第十五條 市町村ハ一家専用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノ、爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ

第十六條 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徵收スヘカラス

○水利組合條例

明治二十三年六月廿日  
法律第四十六號

朕水利組合條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水利組合條例

第一章 總則

第一條 府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖ニ市町村以上ニ涉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若ハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス

- 一 普通水利組合
  - 二 水害豫防組合
- 第三條 普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス
- 第四條 水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲ニスル堤防浚深砂防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノ、爲設置スルモノトス



第五條 水利組合ハ組合規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ  
第六條 二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設クルノ必要アルトキハ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ内務大臣ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第二章 組合ノ設置及廢止

第七條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員トス但舊慣アルモノハ其舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第八條 普通水利組合ハ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

- 一 組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ情願アリタルトキ
- 二 組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀アリタルトキ

第九條 前條ノ情願ニハ市町村長ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經、市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十條 第八條ノ情願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條 創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及フトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシメ其集會ヲ以テ總會議ニ充ルコトヲ得

前項ノ總會議ハ關係者若ハ總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半数ニ依ル

第十二條 創立委員ハ關係者ノ總會議ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ認可ヲ爲ストキハ同時ニ組合設置ノ旨並其管理者タルヘキ郡長若ハ市町村長ヲ告示スヘシ

第十三條 普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受クヘキ地ニ就キ區域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但舊慣アルモノハ舊慣ニ依リ其區域ヲ畫スルコトヲ得

前項ノ區域内ニ土地家屋ヲ所有スル者ハ總テ其組合員トス

第十五條 水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受クヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ受クルモノハ之ヲ組合區域内ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テハ其部分ニ限り土地所有者ノミ組合員タルモノトス

第十六條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ聞き之ヲ定ムヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ之ヲ組合員ノ總會議ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ヲ適用ス第十八條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ意見ヲ聞き之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ第十三條但書ノ例ニ依ル



第三章 水利組合ノ會議

第十九條 水利組合ニ組合會ヲ置ク

第二十條 組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選舉スヘシ議員ノ數、資格、任期及選舉ノ方法ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

二 組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事

三 組合費及夫役現品ノ賦課徴收方法ヲ定ムル事

四 組合ニ屬スル財産ノ賣買、交換、讓渡、讓受並賃入、書入ヲ爲ス事

五 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

第二十二條 組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルコトヲ得

第二十三條 議員選舉ノ効力若ハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之ヲ議決スヘシ組合會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域、郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ組合會ノ議決ニ不服アル者及郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ其關係參事會ニ於テ協議ノ上主管ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十四條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トシ管理者故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條 組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

組合會ハ管理者之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スヘシ  
招集狀ハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外遅クモ會議ノ三日前ニ之ヲ發スヘシ

第二十六條 組合會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス

第二十七條 組合會ノ議決ハ過半數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十八條 組合員少數ノ組合ニ於テハ組合會ヲ設ケス組合規約ノ規定ニ依リ組合員總會ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第四章 組合ノ管理

第二十九條 水利組合ハ其組合ノ區域一市町村內ニ止ルトキハ其市町村長之ヲ管理シ數市町村又ハ郡市若ハ數郡ニ涉ルトキハ府縣知事ニ於テ便宜郡長又ハ市町村長ノ內一名ヲ指定シ之ヲ管理セシムヘシ

第三十條 水利組合ノ收入及會計ノ事務ハ郡長ニ於テ管理者タル場合ハ郡ノ會計吏ヲシテ兼掌セシメ市町村長ニ於テ管理者タル場合ハ其市町村收入役ヲシテ兼掌セシムヘシ

組合區域數市町村ニ涉ルトキハ各市町村收入役ハ管理者ノ求ニ依リ組合費ノ徵收ヲ爲スヘシ  
第三十一條 管理者タル郡長又ハ市町村長ニ於テ行フ職務ニ關シ組合ノ爲特ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス組合ノ收入及會計事務ヲ兼掌スル郡會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ行フ職務ニ關スル費用亦同シ



第三十二條 管理者職務ノ概目左ノ如シ

- 一 組合一切ノ事務ヲ管理スル事
- 二 組合會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ組合會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フヘシ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 三 組合ノ權利ヲ保護シ收入金其他ノ財産ヲ管理シ歲入出豫算其他組合會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 諸證書及其他書類ヲ保管スル事
- 五 外部ニ對シテ組合ヲ代表スル事
- 第三十三條 管理者ハ特ニ組合會ノ委任ヲ受ケ又ハ其議決ヲ經タル事件ニ非サレハ組合ノ爲契約ヲ結ビ又ハ義務ヲ負擔スヘキ證書若ハ委任狀ヲ發スルコトヲ得ス
- 第三十四條 組合ハ必要ナル委員又ハ附屬ノ僱員ヲ置クコトヲ得委員ハ組合會之ヲ選任シ僱員ハ管理者之ヲ任用ス

委員又ハ僱員ノ爲ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス

第五章 組合ノ會計

- 第三十五條 普通水利組合費ハ土地ニ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋ニ賦課スルモノトス但舊慣アルモノハ專ラ土地ニ賦課スルコトヲ得又第十五條ノ組合員ニ對シテハ土地ニ限り之ヲ賦課スヘシ
- 第三十六條 組合費ハ組合規約中ニ豫メ連年据置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 第三十七條 組合費豫算額ノ剩餘ハ之ヲ積金ト爲スノ方法ヲ設クルコトヲ得其積立並支出ノ方法ハ組合會ノ議決スル所ニ依ル
- 第三十八條 組合ハ其事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得但水害豫防組合ニ在テハ夫役ニ限リ其區域内ニ住居スル一般ノ人民ニ賦課スルコトヲ得
- 夫役現品ニ關スル規定ハ組合規約中ニ之ヲ定ムヘシ
- 第三十九條 普通水利組合費ノ賦課額ハ組合會ノ議決ニ依リ水害豫防組合費ノ賦課額ハ府縣知事ニ於テ其關係郡市參事會ノ意見ヲ聞キ其事業ヨリ受クル利益ノ厚薄ニ依リ區域ヲ限リ其割合ニ差等ヲ設クルコトヲ得
- 第四十條 組合費ノ徵收及滯納處分ハ市町村稅ノ例ニ依ル
- 第四十一條 組合ハ天災事變ノ爲止ムヲ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限り負債ヲ起スコトヲ得
- 組合ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決スルトキハ其借入及償還ノ方法及期限並利足ノ定率ヲ定ムヘシ
- 年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ルノ限ニアラス但組合會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス



第四十二條 管理者ハ毎會計年度ノ歲入出豫算ヲ調製シ會計年度前ノ通常組合會ノ議決ニ付スヘシ  
 第四十三條 歲入出豫算ハ組合會ノ議決ヲ經タル後之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ  
 第四十四條 決算ハ第三十條ノ會計吏又ハ收入役ニ於テ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併テ之ヲ管理者ニ提出シ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ次回ノ通常組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並之ニ關スル議決ハ管理者ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六章 水利組合ノ監督

第四十五條 水利組合ハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス其郡長又ハ市長ニ於テ管理スル場合ニ於テハ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣之ヲ監督ス

第四十六條 此法律中別段ノ規定アルモノ、外管理者ノ處分ニ不服アル者ハ組合所在地ノ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ

涉ル場合ニ於テ管理者ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前條ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
 組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ第二十三條第三項ノ例ニ依ル

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十七條 賦課金納付ノ義務ニ關スル訴願ハ其徵收令書ヲ交付シタル日ヨリ三箇月以内ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ屬セサル事件ニ關シ訴願セントスル者ハ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内

ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

第四十八條 水利組合會ハ内務大臣ニ於テ之ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命スルトキハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ選舉スヘキコトヲ命スヘシ

第四十九條 監督官廳ハ組合事務ノ法律命令ニ背反セサルヤ其事業ノ公益ヲ害セサルヤ否ヤヲ監視シ兼テ其會計事務ヲシテ錯雜セサラシムルコトヲ務ムヘシ監督官廳ハ之カ爲組合事務ノ報告ヲ爲サシメ並實地ニ就テ現況ヲ觀察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

組合ニ於テ公益ヲ害スヘキ工事ヲ執行スルカ又ハ正當爲スヘキ工事ヲ執行セサルカ爲公益ヲ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ其工事ノ變更又ハ執行ヲ命スルコトヲ得若シ其命令ニ服從セサルトキハ府縣知事ニ於テ之ヲ執行シ其實費ヲ追徵スルコトヲ得

第五十條 組合會ニ於テ組合規約ノ改正追加及普通水利組合區域變更ノ議決ヲ爲シ又ハ不動産ノ賣却、交換、讓渡又ハ質入、書入ノ議決ヲ爲シ又ハ第三十九條ニ依リ普通水利組合費ノ賦課額ニ差等ヲ設クルノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

組合會ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決シタルトキハ借入及償還ノ方法及期限並利息ノ定率ヲモ併テ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

其他組合規約中ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項ヲ增加スルコトヲ得

第五十一條 水害豫防組合關係者總會議又ハ水害豫防組合會ニ於テ其議決スヘキ事項ヲ議決セサルカ爲公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會若ハ郡參事會ニ付シテ決定セシムルコトヲ得關係者總會議ニ出席セス又ハ議員ヲ選舉セス若ハ議員ノ當選ヲ承諾セサル爲總會議又ハ組合會成立ニ至ラサルトキ亦同シ



水害豫防組合ニ於テ組合事業ノ爲必要ナル費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ  
管理者ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト  
認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第五十二條 水利組合關係者總會議ニ於テ議決シタル組合規約法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認  
ムルトキハ府縣知事ハ其理由ヲ示シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請  
フヘシ

第五十三條 監督官廳ハ出水ノ爲危險アルトキ水利組合ニ對シ防禦ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ郡長市町村長又ハ警察官ハ組合區域內ニ住居スル一般ノ人民ヲ指揮シテ防禦ニ從  
事セシメ及必要ナル現品ヲ收用スルコトヲ得但現品ハ追テ組合ノ費用ヲ以テ相當ノ賠償ヲ爲サシム  
ヘシ

第五十四條 水利組合管理者及其事務ニ服從スル者ニ對シ懲戒處分ヲ要スルトキハ町村制第二百十八  
條ヲ適用シ其職務ヲ盡サヌ又ハ權限ヲ越エタル爲組合ニ賠償スヘキコトアルトキハ町村制第二百十  
九條ヲ適用ス

第七章 附則

第五十五條 府縣參事會、郡參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長府縣參事會  
ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ從來ノ慣行ニ依リ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十六條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其成立ニ至ル迄  
ノ間管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十七條 此法律ニ依リ設置スル水利組合ニ於テ舊町村會又ハ水利土功會ノ事業ヲ繼續スルトキハ

其既成ノ工事及所屬ノ財産ハ總テ其組合ニ引繼クヘキモノトス  
第五十八條 此法律ハ市制町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之  
ヲ施行ス

○河川法 明治二十九年四月七日  
法律第七十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル河川法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法

第一章 總則

第二章 河川ノ管理

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第五章 監督及強制手續

第六章 訴願及訴訟

第七章 附則

河川法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河



川ヲ謂フ

一四〇

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テ、永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條 此法律ニ規程シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲メ必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行

スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ら其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼テ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併テ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス



第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲メ特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第十六條 舟筏ノ通航及流水ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固着シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セントスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事、營業

其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ

既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ

テ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノ、外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲メ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直

ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若

ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公

共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指

揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ

得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得



第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 通航料徴收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徴收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限りニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額竝不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者

ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲メ寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得



第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキ

ハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限り舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ



川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル  
工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續  
第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定  
ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命  
令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ  
以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附  
屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシム  
ルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ  
履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣  
若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣

若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ  
千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證  
金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此  
ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收  
スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法  
律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金  
額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ  
得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ  
依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ  
職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ  
得



第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十條 此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス  
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若クハ第二十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ

場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及ヒ時期ハ主務大臣之ヲ定ム  
此ノ法律ヲ施行スル爲メニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ  
第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及ヒ外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

○河川法施行規程 明治二十九年六月二日 勅令第二百三十六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ



内務大臣ニ於テ河川法ノ全部若クハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川竝ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條 河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ建築物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル施行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リテ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條 内務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條



第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

○河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件 明治三十年十月十八日  
朕河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 此ノ勅令ニ於テ河川トナルヘキ區域ト稱スルハ河川ニ關スル工事ニ依リ新ニ河川トナルヘキ區域ヲ謂フ

第二條 河川トナルヘキ區域竝ニ其ノ附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事ニ於テ內務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條 河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ横過シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 工事、營業其ノ他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第五條 此ノ勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力 停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 河川法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲必要ナルトキ

第六條 此ノ勅令ニ依リ與ヘタル許可ニ關シテハ河川法第二十一條ヲ準用ス

第七條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ府縣知事ハ河川トナルヘキ區域ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

河川トナルヘキ區域ニ沿ヒタル土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ關シテハ河川法第三十九條第三項及第六十二條ヲ準用ス

第八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ明治二十九年勅令第二百三十六號第七條ヲ準用ス

第九條 河川法第四十五條及第四十七條ニ基キ河川附近ノ土地ニ關シ發スル命令ニ規定シタル事項ハ府縣知事ニ於テ府縣令ヲ以テ河川トナルヘキ區域附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第十條 河川法第八條ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ



施行セシムル場合ニ於テハ内務大臣ハ此ノ勅令ニ依リテ府縣知事ノ有スル職權ヲ自ラ施行スルコトヲ得

第十一條 左ノ場合ニ於テ府縣知事ハ此ノ勅令ニ依リ有スル職權ノ施行ニ關シ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 第七條ニ依リ建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却セムトスルトキ
- 二 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムルトキ

○河川ニ關スル行政監督ノ件 明治二十九年六月二日 勅令第二百三十五號  
朕河川ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス
- 第二條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但河川ニ影響スルコト小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス
- 一 河川ノ支川、派川ノ認定
- 二 河川ニ關スル新築、改築若ハ除却工事ノ施行並ニ其ノ計畫及其ノ工費豫算

- 三 河川法第十七條、第十八條及第四十三條ニ依リ與フル許可
  - 四 内務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關シ河川法第二十條ニ依ル府縣知事ノ處分
  - 五 河川法第二十九條乃至第三十二條ニ依ル費用ノ負擔方法
  - 六 河川法第三十七條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課
  - 七 河川法第三十九條ニ依ル建設物其ノ他ノ障害物ノ除却
  - 第三條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
  - 一 河川法第二十二條及第四十六條第一項ニ依ル下級行政廳ノ處分
  - 二 河川法第三十七條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課
- 此ノ勅令ニ依リ府縣知事ノ第一次ニ監督スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事ハ府縣令ヲ以テ其ノ認可ヲ受クヘキモノヲ定ムルコトヲ得
- 第四條 河川法第三十五條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
  - 一 河川ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト
  - 二 寄付ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラズシテ寄付ヲナシ得ヘキコト
- 第五條 河川法第三十六條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 河川ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキ者ニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト



二 補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因シテ補助ヲナシ得ヘキコト

○河川臺帳ニ關スル件 明治二十九年十月十四日  
勅令第三百三十一號  
朕河川臺帳ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 河川臺帳ハ帳簿及實測圖ヲ以テ組成ス
- 第二條 河川臺帳ニハ市町村毎ニ區別シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ但河川ノ狀況ニ依リ内務大臣ハ其ノ記載事項ヲ省略セシムルコトヲ得
  - 一 河川ノ敷地及堤外地ノ區域
  - 二 河川ノ附屬物及河川ニ影響ヲ及ホスヘキ工作物ノ種類、數量、構造及位置形狀
  - 三 河川ニ影響ヲ及ホスヘキ水流及水面ノ種類、數量及位置形狀
- 第三條 府縣知事ハ其調製ニ係ル河川臺帳ニ付地元市參事會及町村長ノ意見ヲ徵シ且之ヲ其ノ市役所及町村役場ニ於テ七日以上ノ期限ヲ定メテ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ利害關係者ハ縦覽期限經過後十五日以内ニ河川臺帳ニ對シ意見ヲ申立ルコトヲ得
- 第四條 府縣知事ハ河川臺帳ノ認可ヲ請フニ際シ前條意見書類ヲ内務大臣ニ提出スヘシ
- 第五條 府縣知事ハ河川臺帳ノ更正ヲナサントスルトキモ亦前二條ノ手續ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

- 第六條 内務大臣ハ其ノ認可シタル河川臺帳ノ原本ヲ保管スヘシ
- 第七條 内務大臣ハ河川臺帳ノ原本ニ就テ正本ヲ調製シ府縣知事ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ  
府縣知事ハ公衆ノ請求ニ依リ河川臺帳ノ正本ヲ縦覽ニ供スルノ方法ヲ設クヘシ
- 第八條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ其ノ正本ニ就テ副本ヲ調製シ之ヲ所轄土木監督署長ニ交付スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ
- 第九條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ地元市參事會及町村長ニ通知スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ
- 第十條 市參事會及町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ正本ニ就テ其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正スヘシ  
市參事會及町村長ハ公衆ノ請求アルトキハ河川臺帳ノ副本ヲ其ノ縦覽ニ供スヘシ
- 第十一條 土木監督署長、市參事會及町村長ハ各其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ保管スヘシ
- 第十二條 第十條ノ爲ニ要スル費用ハ當該市町村ノ負擔トス

○河川臺帳ニ關スル細則 明治二十九年十二月八日  
内務省令第十三號

- 河川臺帳ニ關スル細則左ノ通り定ム
- 河川臺帳ニ關スル細則
- 第一條 河川臺帳ニ記載スヘキ事項ハ凡ソ左ノ區域内ニ係ルモノトス
    - 一 有堤部ニ於テハ堤外地及ヒ堤防附近



一 無堤部ニ於テハ凡ソ洪水位ノ達スル區域但汎濫スヘキ土地ニ於テハ相當ト認定シタル區域

第二條 河川臺帳ノ河川平面圖ハ縮尺千二百分ノ一トス

河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造ヲ明瞭ナラシムルニ足ルヘキ縮尺ヲ用ユヘシ

第三條 河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノ、外總テ眞北ヲ上トセル切圖トシ其ノ輪廓ハ縱一尺二寸横一尺八寸トス

前項平面圖ニハ一葉毎ニ全川ヲ通シタル番號ヲ附シ重要ナル地物ノ外左ノ件々ヲ記載スヘシ

一 磁北

一 地名及境界

一 鄰接平面圖ノ番號

第四條 地方行政廳ハ河川ノ兩岸市町村ノ大字毎ニ少クトモ一箇所位置及高低ノ基標ヲ設置若クハ撰定シ之ヲ保存スヘシ

第五條 川敷竝ニ堤敷ノ境界ハ總テ折線ヲ以テ區畫スヘシ

折線ノ交叉點ハ二箇ノ基標ヲ連結スル直線若クハ之ニ準據スル直線ニ基キ支距法ニ依リ之ヲ測定スヘシ

川敷ノ區域ハ青色實線、堤敷ノ區域ハ褐色實線、測標連結線ハ朱色實線、支距線ハ朱色點線ヲ以テ河川平面圖ニ記入スヘシ

第六條 堤防ハ凡ソ二町毎ニ横斷面ヲ測リ其ノ位置及ヒ番號若クハ符號ヲ河川平面圖ニ記載シ別ニ各横斷面圖ヲ調製シ一定基線上ノ高、馬踏幅、敷幅等ヲ記入スヘシ

斷面ニ劇變アル場所ハ前項ノ制限ニ依ラズ實測スヘシ

第七條 左ニ掲クル河川ノ附屬物、其ノ他ノ工作物、水流及水面ハ其ノ位置形狀ヲ河川平面圖ニ載セ其ノ長、幅、高等構造ヲ明瞭ナラシムル事項ヲ河川臺帳ノ帳簿ニ記入シ且ツ必要アル場合ニハ明細圖ヲ添付スヘシ

各種ノ水制、護岸、堰堤

第一號書式ニ依ル

樋管、閘門

第二號書式ニ依ル

乘船場、荷揚場

第三號書式ニ依ル

道路、鐵道

第四號書式ニ依ル

橋梁

第五號書式ニ依ル

水流

第六號書式ニ依ル

船渠、船溜

第七號書式ニ依ル

右ノ外河川ニ影響ヲ及ホスヘキ各種ノ工作物若クハ水面ノ記載法ハ本條ニ準ス

第八條 基標若クハ之ニ準スル測標ハ其ノ位置、一定基線上ノ高、近接基標若クハ測標トノ角度、距離等ヲ第八號書式ニ依リ帳簿ニ記入シ河川平面圖ニ記載シ得ルモノハ之ヲ記載スヘシ

第九條 河川臺帳ノ帳簿ニ記載セル事項ノ内延長、箇所數等市町村毎ニ合計シ得ルモノハ府縣郡毎ノ合計ヲ調製スヘシ

第十條 特別ノ理由アル場合ニ於テハ地方行政廳ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ第二條乃至第八條ノ規定ヲ一時省略若クハ變更スルコトヲ得

(書式略ス)



○河川堤塘道路橋梁及港灣ニ關スル事項處分方 明治三十年十月二十六日 內務省訓第九七六號

第一條 河川、堤塘、道路、橋梁及港灣ニ關スル事項ニシテ左ニ掲クルモノハ本大臣ニ稟伺ノ上處分スヘシ

- 一、本省直轄又ハ流域ニ府縣以上ニ跨ル河川(支派川ヲ包含ス)ノ河身ニ關スル工事ノ新設、變更及除却
  - 二、本省直轄又ハ流域ニ府縣以上ニ跨ル河川(支派川ヲ包含ス)ノ堤塘ニ關スル工事ノ新設、變更及除却但當置腹付ハ此限ニアラス
  - 三、本省直轄又ハ流域ニ府縣以上ニ跨ル河川(支派川ヲ包含ス)ヨリ引水シ若クハ之ニ注下スヘキ水路ニ關スル工事ノ新設、變更及除却但其引入口及吐口ノ同一河川ニ屬シ且同一府縣内ニ在ルモノハ此限ニアラス
  - 四、國道及假定縣道ノ新設、變更、組替、廢止並ニ路錢ノ徵收及其期限ノ變更但路幅取擴ハ此限ニアラス
  - 五、國道及假定縣道ニ架スヘキ橋梁ノ新設、變更及從來ノ構造ニ顯著ナル變更ヲ加フヘキ架換並ニ路錢ノ徵收及其期限ノ變更
  - 六、樞要港灣ニ關スル工事ノ新設、變更及除却
- 第二條 第一條第二號但書ノ場合ニ於テ其堤塘ノ對岸他府縣ニ屬スルトキ若クハ其堤塘ノ他府縣ノ管内ニ連續スルトキニ於ケル當置又ハ堤外ノ方ヘ施行セントスル腹付ハ土木監督署ヘ協議ノ上處分スヘシ

第三條 第一條第三號但書及第二條ノ場合ニ於テハ處分ノ後即時ニ第一條第四號但書ハ內務報告例ニ據リ本大臣ニ報告スヘシ

第四條 河川法ヲ施行シタル河川ニ就テ府縣ニ於テ同法第十七條乃至第十九條ニ記載シタル行爲ヲナサントスルトキハ本大臣ニ稟伺ノ上處分スヘシ

第五條 本訓令ニ依リ稟伺若クハ報告スヘキ事項及國道及假定縣道ノ竣功報告ハ凡テ土木監督署ヲ經由スヘシ

第六條 明治十七年本省訓示坤土第一〇八號ハ廢止ス

○三十年內務省訓第九七六號訓令ニ付心得 明治三十年十月二十六日 內務省訓第九七七號

今般別紙訓第九七六號ノ通各府縣ヘ訓令セシニ付左ノ通心得ヘシ 土 木 監 督 署

訓第九七六號第五條ニ依リ府縣知事ノ稟伺若クハ報告ヲ受領シタルトキハ審査ヲ遂ケタル後之ニ關スル意見ヲ付シ本大臣ニ進達スヘシ

但假定縣道並路錢橋梁ノ徵收期限ノ變更ニ關スル稟伺其他事體ノ輕易ニシテ利害ノ關係他府縣ニ著シク影響セスト認ムヘキモノニシテ異見ナキモノハ直ニ依命通牒ヲ以テ其施行ヲ許可スヘシ

○砂防法 明治三十年三月二十七日 法律第二十九號

河川堤塘道路橋梁及港灣ニ關スル事項處分方 三十年內務省訓第九七六號訓令ニ付心得 砂防法



朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル砂防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂防法

第一章 總則

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第四章 警察、監督及強制手續

第五章 訴願及訴訟

第六章 附則

砂防法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ

禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第七條 本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第八條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十一條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

砂防法



第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以内ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要

スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ鄰接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受



ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス



此ノ法律若ハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ本條及前條ヲ準用ス

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ニ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六章 附則

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

○砂防法施行規程 明治三十年十月二十三日 勅令第三百八十二號

朕砂防法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂防法施行規程



第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行為ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 砂防法第六條第一項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政應ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條 內務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシムトスルトキハ少クとも五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ內務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ鄰接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クとも五日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クとも十五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市

町村長ニ通知スヘシ

第八條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クとも七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲メ其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖內務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

○郡制 明治二十三年五月十七日 法律第三十六號

朕郡制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郡制

第一章 總則

第一條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ郡界モ亦自ラ變更スルモノトス

第二條 郡内ノ町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ郡内ノ町村ト爲スハ其市會町村會ノ申請ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第三條 第一條第二條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニアラス



第二章 郡會

第四條 郡會ハ郡内町村ニ於テ選舉シタル議員及大地主ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 町村ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ每町村各一名トス

郡會議員ノ數二十名以上ニ及フトキハ二十名ヲ以テ制限トス此場合ニ於テ議員配當法ハ首トシテ人

口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

郡會議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經其數ヲ増シテ十名ニ至ル

コトヲ得其配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

本條議員配當法ハ郡内ノ町村數ニ増減アリタル場合ノ外初回ハ三年間爾後ハ十二年以上ニ至リ町村

ノ人口ニ著シキ増減アルニ非サレハ改正セサルモノトス

議員配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改選スヘシ

第六條 一町村ニ於テ一名以上ノ議員ヲ選舉スルハ其町村會之ヲ行ヒ數町村ニ於テ一名若ハ一名以上

ノ議員ヲ選舉スルハ其各町村會同シテ之ヲ行フヘシ

第七條 町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ第四條乃至第六條ノ規

定ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視シ其組合會ニ於テ議員選舉ヲ行フヘシ

第八條 大地主ハ町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ外其定數ノ三分ノ一ヲ互選スルモノトス若端數ヲ

生スルトキハ之ヲ棄却スヘシ

選舉ヲ行フコトヲ得ヘキ大地主ニシテ其員數町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ三分ノ一以下ナルト

キハ其大地主ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期改選ノ期限内ニ於テハ大地主ノ員數

減シテ三分ノ一以下ニ至ルト雖解散ノ爲改選スル場合ヲ除クノ外ハ本項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第九條 大地主トハ郡内ニ於テ町村稅ノ賦課ヲ受クル所有地ニシテ地價總計一萬圓以上ヲ有スル地主

ヲ云フ

第十條 郡内町村公民ニシテ町村會ノ選舉ニ參與スルコトヲ得ヘキ者及大地主中自ら選舉ニ加ハルコ

トヲ得ヘキ者ハ總テ郡會ノ被選舉權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同郡内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍郡

會ノ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ選舉ニ係ルト否トヲ問ハス郡會議員タルコトヲ得ス

一 所屬府<sup>東京府ハ特</sup>縣並ニ其郡ノ官吏

二 其郡ノ有給吏員

三 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ常選ニ應シ又ハ第八條第二項ノ權利ヲ行ハントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ

受クヘシ

第十一條 大地主ニシテ選舉權ヲ有スルハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル男子ニ限ル

年齡二十歳未滿ノ者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ選舉權ヲ有セサルモノトス

大地主ノ選舉權ハ身代限處分中又ハ租稅滯納處分中又ハ公權ノ剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ

爲裁判上ノ訊問若ハ勾留中ハ之ヲ停止ス

本條ノ規定ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タル者ニモ適用ス

第十二條 選舉權ヲ有スル大地主ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ代人ヲ以テスルニ非サレハ選舉ヲ行フコトヲ得ス

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ町村制ニ定メタル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲

スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ以テ代理ノ證トスヘシ



本條ノ規定ハ第八條第二項ク權利ヲ行フ場合ニモ適用スルモノトス但其代人ハ郡會ニ被選權ヲ有スル者ニシテ郡會議員タラサル者ニ限ル

第十三條 郡會議員ハ名譽職トス

町村ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ毎三年其半數ヲ改選ス若其員數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ者ハ郡會議長郡會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム

大地主ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ三年トシ毎二年其全數ヲ改選ス解任ノ議員ハ再選セラルルコトヲ得

第十四條 議員中關員アルトキハ遅クとも六箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十五條 郡長ハ郡會議員改選前選舉權アル大地主ノ名簿ヲ製シ之ニ其資格ヲ記載シ其氏名ヲ告示スヘシ

關係者ニ於テ大地主名簿ノ正否ニ關シ異議アルトキハ告示後二十一日以内ニ郡長ニ申立テ其郡長ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

大地主名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與シ及第八條第二項ニ依リ郡會議員タルコトヲ得ス大地主名簿ハ次ノ定期改選前ニ行フヘキ補闕選舉ニモ亦適用スルモノトス但大地主ノ資格ヲ失ヒ又ハ選舉權ノ要件ヲ失ヒタル者ハ之ヲ削除シ其氏名ヲ告示スヘシ其處分ニ對シ異議アルトキハ本條第二項ノ例ニ依ル

定期改選ノ期限内新ニ選舉權ヲ得又ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルノ權利ヲ得タル者ハ解散ノ爲改選スル場合ヲ除ク外期限内ニ於テ其名簿ニ登錄セサルモノトス

第十六條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遅クとも選舉ノ日ヨリ七日前ニ之ヲ發スヘシ

第十七條 選舉ノ順序ハ先ツ町村之ヲ行ヒ次ニ大地主之ヲ行フヘシ

町村ニ於テ行フ選舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシ但數町村會同シテ行フ選舉ハ郡長又ハ郡長ノ指定スル町村長ヲ選舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

大地主ニ於テ行フ選舉ハ郡長ヲ選舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

第十八條 大地主ニ於テ選舉ヲ行フトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 郡長ハ遅クとも選舉ノ日ヨリ七日前選舉人ニ召集狀ヲ發シ選舉ノ場所日時ヲ告知スヘシ

二 選舉掛ハ選舉會長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ選任シタル立會人二名若ハ四名及選舉會長ヲ以テ之ヲ組織ス

選舉會長ハ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

三 選舉開會中ハ選舉人ノ外人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス

四 投票ハ選舉人自ラ選舉會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス

投票ハ匿名トス

五 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ



三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在ラス  
本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其効アリトス  
投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉會長之  
ヲ決ス

六 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り年齡相同キトキ  
ハ選舉會長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

七 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シテ署名スヘシ

八 投票ハ選舉ノ効力確定スル迄之ヲ保存スヘシ

第十九條 選舉ヲ終リ當選人定マリタルトキハ町村會ニ於テ行フ選舉ニ在テハ町村長數町村會同シ  
テ行フ選舉及大地主ニ於テ行フ選舉ニ在テハ選舉會長直ニ當選人ニ通知シ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告  
スヘシ

當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ届出ヘシ  
一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコト及選舉ニ依ラスシ  
テ郡會議員タルヘキ大地主ニシテ町村ノ選舉ニ當選シタルトキハ其選舉ニ應スルコト又ハ應セサル  
コトヲ同期限内ニ郡長ニ届出ヘシ

前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ルトキハ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

町村ノ選舉ニ應スル大地主ハ第八條第二項ノ權利ヲ有スル者ト雖二重ニ其權ヲ行フコトヲ得サルモ  
ノトス

第二十條 議員ノ當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ郡長ハ七日以内ニ更ニ選舉ヲ行  
ヒ又ハ町村長ニ命シテ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第二十一條 當選人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第二十二條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ  
申立ツルコトヲ得

第二十三條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スルトキハ其當選ハ無効トス  
當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第二十四條 郡會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之  
ヲ郡長ニ通知スヘシ

第二十五條 郡會議員被選權ノ有無及選舉ノ効力ハ郡參事會之ヲ裁決ス  
郡參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所  
ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 郡ノ歳入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ヲ認定スル事

三 郡有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ質入書入ノ事

四 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

五 郡有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事

其他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス



第二十七條 郡會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第二十八條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

第二十九條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委嘱ヲ受クヘカラサルモノトス

第三十條 郡會ハ郡長ヲ以テ議長トス

郡會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長代理者一名ヲ互選スヘシ

議長及議長代理者共ニ故障アルトキハ臨時議長代理ヲ互選スヘシ

第三十一條 郡長若ハ特ニ郡長ノ委任ヲ受ケタル郡吏員ハ郡會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ

第三十二條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其他必要アルトキハ其事件ニ限リ臨時會ヲ開クコトヲ得

郡會ハ郡長之ヲ招集ス若議員三分ノ一以上ニ於テ臨時ノ招集ヲ請求スルトキハ之ヲ招集スヘシ招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第三十三條 郡會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得但同一ノ議事ニ付開會再回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 郡會ノ議決ハ過半數ニ依ル可非同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非

サレハ郡會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第三十六條 郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第十八條四ヨリ六ニ至ル規定ニ依ルヘシ

第三十七條 郡會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 郡長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用キシテ其可否ヲ決スヘシ

第三十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ並ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第三十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第四十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ

又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又

ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第四十一條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ

之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第四十二條 郡長若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得



第四十三條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム

書記ハ議長之ヲ選任ス但郡吏員ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第四十四條 郡會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ  
議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前郡會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ  
其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第四十五條 郡會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ施行スヘシ

第三章 郡參事會、吏員及委員

第四十六條 郡ニ郡參事會ヲ置キ郡長及名譽職參事會員四名ヲ以テ之ヲ組織ス

名譽職參事會員中三名ハ郡會ニ於テ其議員中ヨリ互選シ一名ハ府縣知事ニ於テ郡會議員若ハ郡内町  
村ノ公民中ヨリ選任スヘシ

第四十七條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ會員ニ於テ臨時議長代理ヲ互選スヘ  
シ

第四十八條 郡會ハ毎通常會ニ於テ郡會ノ互選シタル名譽職參事會員ノ補充員三名ヲ互選シ其名譽職  
參事會員ノ闕員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充  
シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十九條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日迄在職ス  
ルモノトス

郡會ノ互選シタル名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二  
箇月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ

第五十條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ招集スルノ暇ナシト認ルトキ  
郡會ニ代テ議決ヲ爲ス事

三 郡會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ郡有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付  
議決ヲ爲ス事

四 郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

五 郡長其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事

六 郡長ヨリ發スル郡會議案ニ付郡長ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事

七 臨時必要アルトキ郡ノ出納ヲ検査スル事

其他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第五十一條 郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ

第五十二條 郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第五十三條 郡參事會ハ議長又ハ其代理者及會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲ス  
コトヲ得ス

郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第五十四條 郡參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付郡參事會ノ議事ニ參



與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第四十六條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第五十五條 町村制ノ規定ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其事件ヲ管理スヘキ郡參事會ヲ指定スヘシ二府縣以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第五十六條 郡長ハ郡會及郡參事會ノ議決ヲ施行シ及郡有ノ財産及營造物ヲ管理シ並ニ郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

郡ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ郡長ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中郡會又ハ參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タル者ハ其旨ヲ記入スヘシ

第五十七條 郡會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ召集ニ應セサルトキハ參事會成立シ又ハ召集ニ應スル迄郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

非常事變ニ際シ郡參事會ヲ召集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキハ郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ郡會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十八條 郡ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ外郡會ノ議決ニ依リ郡ノ費用ヲ以テ郡有財産又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給郡吏員ヲ置クコトヲ得但其郡吏員ハ他ノ郡吏員ニ準シ府縣

知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

前項郡吏員ノ給料手當退隱料等ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十九條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ郡事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ郡有財産及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得

委員ハ郡會ニ於テ之ヲ選舉ス其選舉ノ方法及任期ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル

委員ハ名譽職トス

第四章 郡ノ會計

第六十條 郡有財産及營造物管理ノ費用郡會郡參事會及委員ノ費用第五十八條ノ郡吏員ノ給料退隱料其他諸給與及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ其郡ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第六十一條 郡會議員名譽職參事會員及委員ニハ旅費及日常ヲ給スルコトヲ得但日常ハ一日五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十二條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財産ヨリ生スル收入其他雜收入ヲ以テ充ツルモノ、外ハ郡内各町村ニ分賦ス各町村分賦ノ割合ハ各町村前年度ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ據ル

各町村分賦ノ額ハ各町村ニ於テ之ヲ町村ノ豫算ニ編入シ町村稅トシテ徵收シ其總額ヲ郡金庫ニ納ムヘシ

第六十三條 郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ郡會ノ議決ニ依リ該部分ノ町村ニ對シ通常分賦額ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ増課スルコトヲ得

第六十四條 郡ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ其郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方



リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ郡内町村ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ郡會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

郡債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ償了スヘシ

歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但郡參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第六十五條 郡長ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘシ但郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ郡會ノ議決ニ付スルノ前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ

第六十六條 豫算ハ毎年郡會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其郡有財產表ヲ提出スヘシ

第六十七條 歳入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ郡長ニ於テ郡參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十八條 郡ノ收支命令ハ郡長之ヲ發スヘシ

第六十九條 會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條 郡ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クトモ一回臨時検査ヲ爲スヘシ検査ハ郡長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ニハ郡參事會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第七十一條 決算ハ會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ郡長ニ提出シ郡長ハ郡參事會ヲシテ之ヲ検査セシメ次回ノ通常郡會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書竝ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ決算ハ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第七十二條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第七十三條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郡ノ行政ニ關スル府縣知事又ハ府縣參事會ノ處分若ハ裁決ニ不服ナル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

郡ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第七十四條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監



督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第七十五條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ直ニ府縣知事ノ裁決ヲ請フヘシ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
第七十六條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ郡ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十七條 郡會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第七十八條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セサル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セサル議案歳入出豫算ニ係リ府縣知事ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十九條 府縣知事ハ郡ノ歳入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其郡ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十條 郡會ハ内務大臣之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ改選スヘシ前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス

郡委員ハ郡會ノ解散ニ依リ解職スルノ限ニ在ラス但改選郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ改選スルコトヲ得郡會解散ノ後改選了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長之ヲ專決處分スルコトヲ得前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十一條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ郡債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

第八十二條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 郡有不動産ノ賣却讓渡並ニ質入書入ノ事

二 第六十三條ニ依リ郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事

三 第六十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第八十三條 郡内總町村ノ共有ニ屬スル財産及營造物ハ郡内總町村ノ聯合又ハ組合ヲ以テ設立セル小學校ヲ除ク外此法律施行ノ日ヨリ郡ノ所有ニ歸シ其權利義務トモ同時ニ郡ニ移ルモノトス

第八十四條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ府縣參事會ニ屬スル職務ハ府縣知事、行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十五條 島司ヲ置ケル嶋嶼ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第八十六條 此法律ニ依リ始メテ議員ヲ選舉スルニ付郡會及郡參事會ノ職務ハ郡長ニ於テ之ヲ行フヘシ



第八十七條 町村制施行ノ爲ニ定ムル直接税ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦適用ス  
 第八十八條 此法律施行ノ後ハ町村制第二百二十六條第三ニ定ムル附加税徴收ノ許可ハ地租七分ノ一、  
 五(十四分ノ二)ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス  
 第八十九條 此法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申  
 ニ依リ内務大臣之ヲ定ム  
 第九十條 明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ地  
 ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス  
 第九十一條 内務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ

○郡歳入歳出豫算調製式並費目流用規定 二十四年四月十三日 内務省令第二號

郡制第六十五條第三項ニ依リ郡歳入歳出豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ノ規定ヲ設ク  
 第一條 郡歳入歳出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ  
 之ヲ調製スヘシ  
 第二條 歳入歳出豫算ニハ郡會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添  
 付スヘシ  
 第三條 數年繼續費郡制第六十  
六條第二項ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ  
 夫役現品ヲ増課スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ  
 第四條 歳入歳出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

第五條 各款ノ豫算金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス

各項目豫算金額ニシテ不得已流用ヲ要スルノ必要アルトキハ郡參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコ  
 トヲ得(廿四年八月省令第  
十三號ヲ以テ改正)  
 (書式ハ略ス)

○府縣制 明治二十三年五月十七日 法律第三十五號

朕府縣制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム  
 府縣境界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ府縣境界モ亦自ラ變更スルモノトス  
 本條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ内務大臣之ヲ定ム但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在  
 ラス

第二章 府縣會

第二條 府縣會ハ府縣内郡市ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス  
 郡市ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但各郡市ヲシテ少クトモ一人ノ議員  
 ヲ選舉セシムヘシ



第三條 府縣會議員ノ選舉ハ市ニ在テハ市會及市參事會同シ市長ヲ會長トシ郡ニ在テハ郡會及郡參事會同シ郡長ヲ會長トシ左ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但會長ハ投票ニ加ハラサルモノトス

一 投票ハ選舉人自ラ會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス  
投票ハ匿名トス

二 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在ラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其効アリトス

三 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り年齡相同キトキハ會長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

第四條 府縣内市町村ノ公民中選舉權ヲ有シ其府縣ニ於テ一年以來直接國稅十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會ノ被選權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同府縣内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍府縣會ノ被選權ヲ有ス

其府縣東京府ハ警視廳トモノ官吏及有給吏員神官諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ府縣會議員タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ本廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼スルコトヲ得ス

第五條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ毎二年其半數ヲ改選ス若其員數二分シ難キトキハ初會ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初會ニ於テ解任スヘキ者ハ府縣會議長府縣會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム

解任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第六條 議員中闕員アルトキハ遲クトモ六箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第七條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遲クトモ選舉ノ日ヨリ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

第八條 選舉ヲ終リ當選人ノ定マリタルトキハ郡長市長ハ直ニ當選人ニ通知シ及府縣知事ニ報告スヘシ

當選人其當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ府縣知事ニ届出ヘシ

前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ルトキハ總テ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

第九條 當選人其當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ府縣知事ハ其郡市ヲシテ十日以内ニ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第十條 選舉人確定シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第十一條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ルコトヲ得



第十二條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スルトキハ其當選ヲ無効トス  
當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第十三條 府縣會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之  
ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第十四條 府縣會議員被選權ノ有無及選舉ノ効力ハ府縣參事會之ヲ裁決ス  
府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 府縣ノ歳入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ヲ認定スル事

三 府縣稅ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四 府縣有不動産ノ賣買交換讓渡受並ニ質入書入ノ事

五 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

六 府縣有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事

其他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第十六條 府縣會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第十七條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

第十八條 府縣會ハ其府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付府縣知事又ハ内務大臣ニ建議スルコトヲ得

第十九條 府縣會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選スヘシ其任期ハ議員ノ任期ニ從之

議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時議長ヲ互選スヘシ

第二十條 府縣知事若ハ特ニ知事ノ委任ヲ受ケタル府縣ノ官吏若ハ吏員ハ府縣會ノ議事ニ參與スルコ  
トヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ

第二十一條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク通常會ノ會期ハ三十日以内トス其他必要アル  
トキハ其事件ニ限リ七日以内ヲ會期トシテ臨時會ヲ開クコトヲ得

府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ  
此限ニ在ラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第二十二條 府縣會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 府縣會ノ議決ハ過半数ニ依ル可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十四條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非  
サレハ府縣會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十五條 府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第三條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員五名以上ノ發議ニ由リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ

議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用キスシテ其可否ヲ決スヘシ

第二十七條 東京府京都府大坂府府會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京府京都市大坂市ニ關スルモ



ノト専ラ其他ノ部分ニ關スルモノト分別スルコトヲ要スルモノアルトキハ府會ノ議決ニ依リ之ヲ分  
別スルコトヲ得

前項ノ分別ニ依リ専ラ東京市京都市大坂市ニ關スルモノハ其郡部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ  
及議決ニ加ハルコトヲ得ス其他ノ部分ニ關スルモノハ市部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決  
ニ加ハルコトヲ得ス此場合ニ於テハ郡部議員市部議員ニ於テ各臨時議長ヲ互選スヘシ

此法律中東京府京都市大坂府會ノ市部議員トアルハ東京市京都市大坂市市會ニ於テ選舉シタル議  
員ヲ云ヒ郡部議員トアルハ東京市京都市大坂市ヲ除キ其他ノ部分ニ於テ選舉シタル議員ヲ云フ

市部會郡部會ヲ置キタル縣ニ於テ縣會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ専ラ市ニ關スルモノト專ラ其他ノ  
部分ニ關スルモノト分別スルコトヲ要スルモノアルキトハ縣會ノ議決ニ依リ之ヲ分別スルコトヲ得  
但分別シタル縣ニ於テハ此法律中特ニ東京府京都市大坂府ニ關シ定メタル各條項ハ之ヲ適用ス

第二十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ並ニ延會シ議場ノ  
秩序ヲ保持ス

第二十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第三十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ  
又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又  
ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退去セシムルコトヲ得  
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ルコトヲ得

第三十一條 議員中議場ノ秩序ヲ紊ルコト二回以上ニ及フ者アルトキハ議長又ハ議員ノ發議ニ依リ議  
會ノ議決ヲ以テ七日以内其出席ヲ停止スルコトヲ得

第三十二條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ  
之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退場セシムルコトヲ得  
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第三十三條 府縣知事若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ  
妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第三十四條 第三十條、第三十二條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲府縣知事東京府ハ警視總監ハ每會期警察官ニ  
議場掛專務ヲ命スヘシ

第三十五條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム  
書記ハ議長之ヲ選任ス

第三十六條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘ  
シ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前議會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中  
ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第三十七條 府縣會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ内務大臣ノ認可ヲ受テ之ヲ施行スヘシ

第三十八條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス  
府ノ名譽職參事會員ハ八名トス郡部議員ニ於テ其議員中ヨリ四名ヲ互選シ市部議員ニ於テ其議員中  
ヨリ四名ヲ互選スヘシ

第三十九條 府縣參事會員ハ四名トス縣會ニ於テ其議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ  
縣ノ名譽職參事會員ハ四名トス縣會ニ於テ其議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ



第四十條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ高等官會員之ヲ代理ス

第四十一條 府縣會ハ每通常會ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員府ハ八名縣ハ四名ヲ互選シ其名譽職參事會員ノ闕員アルトキハ府縣知事ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十二條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ

第四十三條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
  - 二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決ヲ爲ス事
  - 三 府縣會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ府縣有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
  - 四 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
  - 五 府縣知事及其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事
  - 六 府縣知事ヨリ發スル府縣會議案ニ付府縣知事ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事
  - 七 臨時必要アルトキ府縣ノ出納ヲ檢査スル事
- 其他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第四十四條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

第四十五條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 府縣參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但第四十三條第二ノ議決ヲ爲ストキハ高等官會員ハ其議決ニ加ハラサルモノトス

府縣參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十七條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第三十八條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第四十八條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二府縣以上ノ郡市町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其事件ヲ管轄スヘキ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第四十九條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京都市大阪市内ノ市町村若ハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決



ニ加ハルコトヲ得ス

此法律中東京府京都府大阪府府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ市部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云ヒ郡部名譽職參事會員トアルハ郡部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云フ

第五十條 府縣知事ハ府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ施行シ及府縣有財產及營造物ヲ管理シ竝ニ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

府縣ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ知事ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中府縣會又ハ參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ總テ其旨ヲ記入スヘシ

第五十一條 府縣會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ應セサルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル迄府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

非常事變ニ際シ府縣參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ府縣會會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十二條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ費用ヲ以テ府縣有財產又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得但府縣吏員ハ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

府縣吏員ノ給料手當退隱料等ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ府縣事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ府縣有財產及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得其選舉又ハ選任ノ方法及任期ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

委員ハ名譽職トス

#### 第四章 府縣ノ會計

第五十四條 府縣有財產及營造物管理ノ費用府縣會府縣參事會及委員ノ費用府縣吏員ノ給料退隱料其他諸給與及從來法律命令若ハ慣例ニ依リ竝ニ將來法律勅令ニ依リ府縣ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ府縣ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第五十五條 名譽職參事會員及委員ニハ旅費滞在手當及出務日當ヲ給スルコトヲ得府縣會議員ニハ旅費及滞在手當ニ限り之ヲ給スルコトヲ得但滞在手當出務日當ヲ併セ一日一圓五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十六條 府縣ノ支出ハ府縣稅其他府縣ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條 府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外從前地方稅ニ關スル規定ニ依ル

第五十八條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其府縣ノ全部若ハ市制施行ノ地ニ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

第五十九條 府縣内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲ス者ハ其土地家屋營業ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル者トス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス府縣内ニ一戸ヲ構ヘ三箇月以上ニ及フ者ハ其戶數ニ對シテ府縣稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ一戸



ヲ構ヘタル初ニ遡リ徵收スヘシ  
第六十條 府縣稅ノ賦課ニ付テハ納稅者其府縣外ニ於テ店舗ヲ定メタル營業ノ收入ヲ其標準ニ算入スルコトヲ得ス

第六十一條 府縣會ハ各市町村內ニ於テ徵收スル府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項市町村會ノ議決ハ法律命令又ハ府縣會ノ議決ニ牴觸スルコトヲ得ス  
市町村會ニ於テ府縣會ノ指定シタル期限內ニ其議決ヲ爲サ、ルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第六十二條 營業ノ狀況又ハ收入ヲ標準トシテ賦課スル府縣稅ニ付テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ賦課額調査ノ爲其府縣內郡市ニ調査委員ヲ置クコトヲ得

第六十三條 府縣稅ノ免除ハ市町村稅免除ノ規定ニ依ル  
第六十四條 府縣會ハ府縣內郡市町村ノ土木工事又ハ府縣內ノ教育衛生勸業及慈善ノ事業若ハ營造物ニ對シ補助金ヲ與フルコトヲ議決スルコトヲ得

第六十五條 府縣會ハ家屋稅又ハ戸數割ノ全部又ハ一部ノ代納トシテ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニ對シ夫役又ハ現品ヲ出スヲ許スコトヲ議決スルコトヲ得

第六十六條 府縣稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但日割ヲ以テ徵收スルモノハ此限ニ在ラス

納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ當該官廳ニ届出ヘシ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スヘシ  
物件ヲ目的トシ納期ヲ定メテ一定ノ額ヲ賦課スル府縣稅ハ其納期ニ於テ納稅義務ヲ負フ者其額ヲ納

ムヘシ

府縣稅ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル場合ト雖之ヲ還付セス但其義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其前納期限ノ終迄納稅セサルモノトス

第六十七條 府縣稅ハ法律命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除クノ外各市町村長ニ於テ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

第六十八條 府縣稅ノ賦課ニ對シ錯誤アルコトヲ發見シタル者ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ其傳令書ヲ發シタル廳ニ申立ルコトヲ得但申立ノ爲其納稅ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十九條 前條ノ申立ヲ爲シタル後二十一日以内ニ其更正ヲ得サルトキ又ハ其更正ヲ得ルモノ之ニ不服ナルトキハ十四日以内ニ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ其裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但市ニ在テハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十條 府縣稅ノ免稅若ハ納稅延期ハ特別ノ事情アルモノニ限り府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

府縣稅ノ滯納處分ハ國稅滯納處分法ニ依ル  
第七十一條 東京府京都府大坂府ニ在テハ府ノ支出ニ充ツヘキ府稅ヲ市部及郡部ニ分賦ス其分賦ノ割

合ハ府會ニ於テ之ヲ議決シ內務大臣ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ  
前項市部ノ分賦額ハ市ニ於テ之ヲ市ノ豫算ニ編入シ市稅トシテ徵收シ其總額ヲ府金庫ニ納ムヘシ郡

部ノ分賦額ハ此法律ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス但市部議員ハ其徵收ニ關スル議事ニ參與シ及議決ニ加ハラサルモノトス此場合ニ於テ若議長副議長市部議員ナルトキハ郡部議員ニ於テ臨時議長ヲ互選ス



ヘシ

第七十二條

市制施行ノ府縣ニ在テハ郡廳舎建築修繕費郡吏員給料旅費及廳費ハ市ヲ除キ其他ノ部分ノミヲシテ其負擔ニ任セシムヘシ  
前項ノ府縣ニ在テハ其府縣ノ支出費目中市ト其他ノ部分ト利害ノ厚薄ヲ異ニシ均一ノ負擔ニ任セシムルコトヲ得サルモノアルトキハ其費目ニ限リ其一方ノ負擔ヲ増加スルコトヲ得但負擔ノ割合ハ府縣會ニ於テ之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ確定ス

第一項ノ負擔ニ任セシメ及第二項ニ依リ一方ノ負擔ヲ増加スルハ賦課ノ稅率ヲ増加スルニ止メ其會計ヲ異ニスルコトヲ得ス但東京府京都府大坂府ニ在テハ前條ニ依ル

前項ニ依リ稅率ヲ増加スヘキ稅目ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

第七十三條

府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ府縣會ノ議決ニ依リ該部分ニ對シ通常府縣稅賦課ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ増課スルコトヲ得

第七十四條

府縣ハ其舊債元額ヲ償還スル爲又ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ府縣ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣會ノ議決ヲ以テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スコトヲ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

府縣債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

歲入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但府縣參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第七十五條

府縣知事ハ毎年其翌年度ニ係ル歲入出豫算ヲ調製スヘシ但府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ府縣會ノ議決ニ付スルノ前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ知事ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七十六條

豫算ハ毎年府縣會ノ議決ヲ取り之ヲ内務大臣ニ報告シ並ニ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ其府縣有財產表ヲ提出スヘシ

第七十七條

歲入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第七十八條

府縣ノ收支命令ハ府縣知事之ヲ發スヘシ

第七十九條

會計事務ヲ管理スル官吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第八十條

決算ハ會計事務ヲ管理スル官吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ府縣參事會ヲシテ之ヲ檢査セシメ次回ノ通常府縣會ノ認定ニ付スヘシ

府縣制



決算報告書竝ニ之ニ關スル府縣會ノ議決ハ府縣知事ヨリ之ヲ内務大臣ニ報告シ竝ニ決算ハ府縣ノ公  
告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第八十一條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第八十二條 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其理  
由ヲ具シテ内務大臣ニ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴  
セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第八十三條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ  
内務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ竝ニ實地ニ就テ  
事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第八十四條 府縣會又ハ府縣參事會ノ議決公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ議決ノ  
執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ直ニ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ  
府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ超エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ其議決ヲ  
取消スヘシ此場合ニ於テ府縣知事ノ處分ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ府縣ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公  
益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指  
揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但内務大臣ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於

テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十六條 府縣會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコ  
トヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十七條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ招集前正當  
ノ手續ヲ以テ告知セラレタル議案ヲ第二十一條第一項ニ定メタル期限内ニ議了セサル場合ニ於テ其  
事緊急ヲ要スルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決  
セス又ハ議了セサル議案歳入出豫算ニ係リ内務大臣ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金  
額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十八條 内務大臣ハ府縣ノ歳入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其府  
縣ノ資力ニ比シ不愈ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ  
收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十九條 府縣會ノ解散ハ勅令ヲ以テス此場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ改選スヘシ  
前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス

府縣會解散ノ後改選了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ專決處分スルコトヲ  
得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第九十條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス  
一 新ニ府縣債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事



- 二 地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ土地ニ賦課スル事
- 三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
- 第九十一條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
  - 一 府縣有不動産ノ賣却讓渡並ニ質入書入ノ事
  - 二 第七十二條第二項ニ依リ市若ハ其他ノ部分ノ負擔ヲ增加スル事
  - 三 第七十三條ニ依リ府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ增課スル事
  - 四 第七十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第九十二條 行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十三條 市制町村制施行ノ爲定ムル直接稅ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦之ヲ適用ス

市制町村制郡制及此法律施行ノ爲將來ノ諸稅ニ付直接稅ト爲スヘキモノハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示スヘシ

第九十四條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第九十五條 此法律施行ノ後ハ市制第二百二十二條第三ニ定ムル附加稅徵收ノ許可ハ東京市京都市大坂市ニ在テハ地租七分ノ三、二五(二十八分ノ十三)其他ノ市ニ在テハ其七分ノ一、五(十四分ノ二)ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス

第九十六條 府縣内ニ在ル島嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ク

郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム  
第九十七條 明治十三年四月第十五號布告府縣會規則明治十四年二月第八號布告區郡部會規則明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス  
第九十八條 內務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ

○郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル

件 明治三十年六月二十三日 勅令第二百二十七號

朕郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 郡制ヲ施行セサル島嶼ニ於テハ島嶼内各郡ヲ通シテ之ヲ一選舉區トシ其ノ選出ノ府縣會議員定數ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且滿二十五歲以上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ島嶼内ニ二年以來住居シ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且滿二十五歲以上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ島嶼内ニ二年以來住居シ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ府縣會議員ノ選舉權被選舉權ヲ有セス  
一 治産ノ禁ヲ受ケタル者  
一 公權停止中又ハ租稅滯納處分中ノ者



一家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復権ノ決定ヲ得サル者

一公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレ其ノ裁判ノ確定ニ至ラサル者

一陸海軍ノ現役ニ服スル者又ハ現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタル者

六條ノ外府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ府縣制第四條第三項乃至第五項ヲ適用ス

第三條 戶長ハ毎年九月一日ヲ期トシ其ノ現在資格ニ依リ其ノ役場管内ノ選舉人名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ十月一日マテニ島司ニ送付スヘシ

島司ハ戶長ヨリ送付シタル選舉人名簿ヲ合シ毎年十月二十日マテニ其ノ所管内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第四條 選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名住所生年月並ニ直接國稅年額及其ノ納稅地其ノ他選舉資格ノ要件ヲ記載スヘシ

第五條 選舉人其ノ住居スル戶長役場管外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ其ノ納稅地戶長又ハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ九月一日マテニ其ノ住居地ノ戶長ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅額ハ選舉資格ニ算入セス

第六條 島司ハ十月二十五日ヨリ十五日間島廳ニ於テ選舉人名簿ノ寫ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ選舉人名簿ニ關シ異議アルトキハ縦覽期限内ニ之ヲ島司ニ申立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ島司ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定シ申立人ニ通知スヘシ島司ニ於テ修正スヘシト決定シタルトキハ選舉人名簿ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定限期トシ確定名簿ハ次年ノ十二月二十日マテ之ヲ据置クモノトス

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ干與スルコトヲ得ス

本條島司ノ決定ニ不服アル者ハ決定ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其ノ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ行政裁判所ノ判決アリタルニ依リ選舉人名簿ノ修正スヘキモノアルトキハ島司ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ修正スヘシ

本條ニ依リ島司ニ於テ選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ要領ヲ公告シ且本人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第七條 選舉ノ效力ニ關スル訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ選舉人名簿ノ無効ト爲リタルトキハ前選舉人名簿ニ記載スヘキ選舉人資格ニ依リ府縣知事ノ指定シタル期日マテニ新ニ名簿ヲ調製スヘキモノトス其ノ縦覽修正ニ關スル期限等ハ總テ前條ノ例ヲ準用ス

第八條 府縣會議員ノ選舉ハ島司之ヲ管理スヘシ

第九條 府縣知事ハ投票ヲ行フヘキ日ヨリ少クトモ三十日前其ノ日時ヲ告示スヘシ

天災若ハ其ノ他ノ事故ニ依リ更ニ投票ヲ行フ場合ニ於テハ府縣知事ハ島司ヲシテ其ノ日時ヲ定メ之ヲ告示セシムヘシ

島嶼内交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ島司ヲシテ適宜投票ノ期日ヲ變更セシムルコトヲ得

第十條 戶長役場所轄區域ヲ以テ投票所區域ト爲ス  
投票所ハ戶長役場又ハ戶長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ戶長其ノ事務ヲ管理スヘシ  
島司ハ事情ニ依リ數戶長役場區域ヲ以テ一投票所區域ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ島司ハ投票所並投票所管理ノ戶長ヲモ指定スヘシ

第十一條 戶長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ選任スヘシ

郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル件



シ

第十二條 選舉人ノ外何人タリトモ投票所ニ入ルコトヲ得ス

選舉人ハ投票所ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ選舉人自ラ投票函ニ投入スヘシ

投票ニハ選舉人自ラ投票所ニ於テ被選舉人ノ氏名ヲ記シ次ニ自己ノ氏名及住所ヲ記シテ捺印スヘシ

第十四條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ戸長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之

ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票録ニ記録スヘシ

第十五條 戸長ハ投票録ヲ製シ投票ニ關スル顛末ヲ記録シ立會人ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第十六條 投票ヲ終リタルトキハ戸長ハ一名ノ立會人ト共ニ投票函及投票録ヲ選舉會場ニ護送スヘシ

第十七條 選舉會ハ島廳又ハ島司ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ク

第十八條 島司ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉掛三名以上七名以下ヲ定ム

ヘシ

第十九條 島司ハ選舉掛長ト爲リ投票函ノ總テ送達シタル翌日選舉掛立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總

數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若シ投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉

録ニ記載スヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ選舉掛長ハ選舉掛ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十條 選舉人ハ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 投票ニ記載シタル人員其ノ選舉スヘキ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其ノ投票ヲ無効トセス

其ノ定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却スヘシ  
左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 被選舉人ノ氏名讀ミ難キモノ

二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載スルモノ

以上三種ノ投票中他ニ列記ノ被選舉人ニ付テハ仍其ノ效アルモノトス

四 選舉人ハ被選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ

五 選舉人ノ氏名讀ミ難キモノ

六 選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

七 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票

八 第十三條第三項ニ規定シタル外他事ヲ記入スルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入

スルモノハ無効ト爲ス限ニアラス

九 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用キサルモノ

第二十二條 投票ノ效力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉掛長之ヲ決ス

第二十三條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキトキハ年長者

ヲ取り同年月ナルトキハ選舉掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ

數相同キトキハ選舉掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第二十四條 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記録シ之ニ署名捺印シ選舉人名簿投票録其ノ他關



係書類ト共ニ少クトモ四年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ之ヲ選舉録ニ附屬シ選舉ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十五條 二人以上投票同數ニシテ年長ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ依テ

當選セザリシ者ヲ以テ當選人トス但シ年少ニ依テ當選セザリシ者二人以上アルトキハ第二十三條第

一項ノ例ヲ適用ス

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セザリシ

者ヲ以テ當選人トス但シ抽籤ノ爲當選セザリシ者二人以上アルトキハ選舉掛長自ラ抽籤シテ其ノ當

選ヲ定ム

第二十六條 選舉ヲ終リ當選人ノ定マリタルトキハ島司ハ直ニ當選人ニ通知シ及府縣知事ニ報告スヘ

シ

當選人其ノ當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ二十日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘ

シ

一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ府縣知事ニ届出

ヘシ

前二項ノ届出ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ總テ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

第二十七條 當選人其ノ當選ヲ辭シタルトキハ府縣知事ハ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第二十八條 府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ衆議院議員ノ選舉ニ關スル罰則ヲ適用ス

第二十九條 此ノ勅令施行ノ爲必要ナル命令ハ内務大臣之ヲ定ムヘシ

○勅令第二百二十七號ニ依ル府縣會議員ノ選舉人名簿ノ件

明治三十年八月十七日  
内務省令第二十四號

本年勅令第二百二十七號ニ依ル府縣會議員ノ選舉人名簿ハ初メテ府縣制ヲ施行スル府縣ニ於テ第三條  
乃至第六條ノ期日ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ別ニ期日ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ得施行スル  
コトヲ得

○府縣歳入歳出豫算調製式 明治二十四年八月一日  
内務省令第十二號

府縣制第七十五條第三項ニ依リ府縣歳入歳出豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ノ規定ヲ設ク

第一條 府縣歳入歳出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依

リ之ヲ調製スヘシ

第二條 歳入歳出豫算ニハ府縣會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ

添付スヘシ

第三條 數年繼續費<sup>府縣制第七十一年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ</sup>夫役現品ヲ増課<sup>府縣制第七十三條</sup>スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ

第四條 歳入歳出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

第五條 各款ノ金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス

各項目ノ豫算金額ニシテ不得止流用ヲ要スルノ必要アルトキハ府縣參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用ス

ルコトヲ得

勅令第二百二十七號ニ依ル府縣會議員ノ選舉人名簿ノ件 府縣歳入歳出豫算調製式



第六條 市制施行ノ縣ニ在テ府縣制第七十二條第一項ノ負擔ニ任セシメ及同條第二項ニ依リ一方ノ負擔ノ増加スル場合ハ第一號書式中へ第四號ノ式ノ如ク之レヲ記載スヘシ

第七條 東京府京都府大坂府ニ在テハ府縣制第二十七條第一項ニ依リ專ラ東京市京都市大坂市ニ關スルモノト專ラ其他ノ部分ニ關スルモノトヲ分別スルトキ府縣制第七十一條ノ豫算ハ第一號書式ニ基キ第五號ノ式ノ如ク之レヲ調製シ其市部限リ郡部限リノ豫算ハ第一號書式ニ準シ第六號第七號ノ式ノ如ク之レヲ記載スヘシ

第八條 府縣ノ歳入歳出中會計ヲ異ニスルモノ、豫算モ總テ本令ノ式ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

附則

第九條 年度央ニ於テ府縣制ヲ施行シタル府縣ニ在テ明治二十三年法律第八十五號第三條ニ依リ從前府縣會ノ議決尙其効ヲ存シタル各款ニ於テ從前ノ小科目ニシテ本令書式ノ項ト名稱ノ異ナルモノ又ハ消滅ニ歸シタルモノハ其細目ニ就キ金員ヲ區別シ各相當ノ項ニ編入整理スヘシ

第十條 第九條ニ依リ組替ヲ爲シタルモノハ府縣會ニ報告スヘシ

(書式畧ス)

○府縣會議員定數規則 明治二十四年六月九日

朕府縣會議員定數規則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣會議員定數規則

第一條 府縣制第二條ニ依リ府縣會議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

管內ノ人口七十萬迄ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬迄ハ五萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス

第二條 前條定ムル所ノ議員ハ人口ニ應シテ每郡市ニ割當選舉スルモノトス

第三條 人口増減ノ爲メ議員ノ定數又ハ郡市ノ割當ニ異動ヲ生スルトキハ其改選期ヲ待テ之ヲ増減ス可シ

第四條 府縣制第二十七條ニ依リ府縣會ノ職權ニ屬スル事件ヲ市郡ニ分別シタル府縣ニ於テ本規則ニ依リ市若クハ郡ヨリ選出スヘキ議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ其定數ヲ十名ト爲スヘシ

廿五年九勅令  
第七十六號ヲ  
以テ本條追加

○府縣會議員定數規則ニ關スル人口計算方心得 明治二十四年六月十一日

本年六月勅令第五十九號ニ掲クル人口ハ毎年十二月末日ノ現住人口ヲ云フ但在營在艦ノ現役軍人ハ其營所又ハ定營港所在地ノ人口ニ算入セス其本籍地ノ人口ニ加フヘキ儀ト心得ラルヘシ

○府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選舉區域等ニ關スル件 明治二十三年九月十九日

朕府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選舉區域地方稅收支豫算地方稅財產備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣ノ急施事業ニ關スル諸件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣會議員定數規則 府縣會議員定數規則ニ關スル人口計算方心得  
府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選舉區域等ニ關スル件



- 第一條 郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ衆議院議員ノ選舉ハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル
- 第二條 郡制施行ニ際シ郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣會議員ハ次回ノ定期改選ニ至ルマテ之ヲ改選セヌ又其ノ定數ヲ増減セヌ其ノ補缺選舉ヲ行フヘキトキハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル
- 第三條 府縣制施行前府縣會ニ於テ議定シタル歲入出豫算中府縣制施行ニ至リ法律命令ノ結果ニ依リ異動ヲ生シ更正ヲ要スルモノアルトキハ新ニ組織スル府縣會ニ於テ之ヲ更正スヘシ其ノ他ハ總テ從前府縣會議決ノ効ヲ存ス
- 第四條 東京府京都府大坂府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來郡市地方稅ノ經濟ヲ異ニシ其ノ地方稅經濟ニ屬スル財產ヲ郡市ニ分屬セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ縣有財產トス
- 第五條 東京府京都府大坂府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來備荒儲蓄金ヲ郡市ニ分別セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ備荒儲蓄金トス
- 第六條 郡制施行ノ後郡費ヲ收入スルニ至ルノ間必要ナル郡ノ支出ハ郡長ニ於テ概算ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ得テ假ニ地方稅ヲ以テ支辨シ追テ郡費ヲ以テ償還スヘシ
- 第七條 府縣制郡制施行ノ後府縣參事會郡參事會就職ニ至ルマテノ間其ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノアルトキハ府縣參事會ノ職務ハ府縣知事郡參事會ノ職務ハ郡長代テ之ヲ執行スヘシ

○府縣會規則

明治十三年四月八日太政官布告第十五號

明治十一年七月第十八號布告府縣會規則左ノ追改正候條此旨布告候事

第一章 總則

- 第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス
- 第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ分ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス
- 第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事「縣令」ヨリ之ヲ發ス
- 第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス
- 第五條 府縣會ノ議決ハ府知事「縣令」認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事「縣令」其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ「內務卿」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ府知事「縣令」ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ「內務卿」ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ(十四年第四號布告ヲ以テ本項追加)
- 第六條 府縣會ハ每年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事「縣令」ニ説明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ「內務大藏兩卿」ニ上申スルコトヲ得
- 出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ説明ヲ求ムルトキハ府知事「縣令」若シクハ其代理人之ヲ説明スヘシ(十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)
- 第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議ヲナサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ「內務卿」ニ建議シ又ハ府知事「縣令」ニ建議スルヲ得(十五年第十號布告ヲ以テ本條改正但書追加)



但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限り建議スルヲ得  
第八條 府縣會ハ府知事「縣令」ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事「縣令」ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得  
府縣會ハ議員ノ内召集ニ應セヌ又ハ事故ヲ告ケヌシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

府知事「縣令」ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事「縣令」ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ得(十四年第四號布告)  
(ヲ以テ本項追加)

第二章 選舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ選フ  
每郡區議員定數ノ外補闕員トシテ十人以下ヲ増選スルヲ得(十五年第十號布告)

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事「縣令」ニ報告シ府知事「縣令」ハ之ヲ「內務卿」ニ報告スヘシ  
議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム第十二條 書記ハ議長之ヲ選ビ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ズ

十七年第十九號布告ヲ以テテ  
神佛數傳職ヲ以テ  
廢ス

第一款 瘋癲白痴ノ者

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者(十五年第十號布告)  
新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者(十五年第十號布告)

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏「教導職」及陸海軍諸卒現役ノ者(十五年第十號布告)  
第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者及陸海軍人員、被ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス(十五年第十號布告ヲ以テ)  
第十號布告ヲ以テ  
テ但書改正

第十五條 (十二年法律第六號)  
第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 (十二年法律第六號)  
第十八條 (十二年法律第六號)  
第十九條 (十二年法律第六號)

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ選ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ



第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス第一回二年期ノ改選ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ公選スヘシ  
第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍スルカ其他總テ議員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ選舉ス(十五年第十號布告ヲ以テ轉住ヲ轉籍ト改ム)  
但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續ニ據ル(十五年第十號布告ヲ以テ但查追加)

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事「縣令」若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ趣旨ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聴ヲ許ス但府知事「縣令」ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聴ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事「縣令」ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十

日以内トス但區部郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ改正月十一月ト改メ十八年十一月ヨリ施行ス)

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事「縣令」ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ「內務卿」ニ報告スヘシ(十五年第六十八號布告ヲ以テ改正)

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事「縣令」ハ會議ヲ中止セシメ「內務卿」ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ期會内ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事「縣令」ハ更ニ其議定ヲ要セス「內務卿」ニ具狀シテ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十四年第六十八號布告ヲ以テ改正)

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルトキハ府知事「縣令」ハ其事由ヲ「內務卿」ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ(十四年第四號布告ヲ以テ本項追加)

第一項ノ場合ニ於テ「內務卿」ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事「縣令」ニ於テ地方税ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ「內務卿」ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ「內務卿」ハ何レノ時ヲ問ハス議員解散ヲ命スルコトヲ得(十四年第四號布告ヲ以テ)

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ(十四年第四號布告ヲ以テ本項追加)

第三十五條 「內務卿」ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改



選スヘシ

第五章 常置委員(十三年第四十九號布告ヲ以テ本章追加)

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ

常置委員定數ノ外數名ヲ増選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得(十五年第十號布告ヲ以テ本項追加)

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ選任スヘシ(十五年第十號布告ヲ以テ本項追加)

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事

「縣令」ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ(十五年第六十八號布告ヲ以テ本項改正)

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收

方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會

ト臨時會トヲ論セス府知事「縣令」ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取り會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳內ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員ノ諮問會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス(十五年第十號布告ヲ以テ常置委員ノ下諮問ノ二字ヲ加フ)

第四十一條 諮問會ハ府知事「縣令」ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ(十五年第十號布告ヲ以テ改正)

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セザレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否

同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事「縣令」ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辯明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二ケ年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ改選ス但期限ニ至リ再選スルヲ得

(十五年第十號布告ヲ以テ二ケ年トシノ下議員ニテノ十三字ヲ加フ)

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事「縣令」之ヲ選任ス(十五年第十號布告ヲ以テ議長ヲ府知事縣令ト改ム)

第四十八條 常置委員ハ三拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

○府縣會ニテ議定スヘキ事件ノ細目ヲ區町村會等ノ

議決ニ付スルヲ得 明治十四年二月十四日 太政官布告第六號

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

府縣會ニテ議定スヘキ事件ノ細目ヲ區町村會等ノ議決ニ付スルヲ得



○開會中議員建議書携帶上京等ヲ許サス 明治十五年二月二日  
 太政官達第十一號  
 府縣會規則第七條ニ依リ内務卿ニ建議スルノ場合ニ於テ開會中議員自ラ其建議書ヲ携帶上京等ノ儀ハ  
 不相成筋ニ候條此旨相達候事  
 但本文ノ趣府縣會ヘ相達シ置クヘシ

○府縣會規則第十三條第十四條ノ地租納額計算方

明治二十三年一月二十三日  
 内務省訓第二七號

府縣會規則第十三條第十四條ノ地租納額ヲ計査スルニ數人共有地ノ地租ハ其共有人員ニ平分シ之ヲ各  
 自ノ納額ト見做シ算入スヘキモノトス尤モ土地臺帳又ハ其附屬連名簿ニ各自所有權ノ步合又ハ納租額  
 ノ割合アルモノハ其額ニ依ル可キ儀ト心得ラルヘシ  
 但市町村制ニ就テモ本文同様ト心得ラルヘシ

○府縣會議員選舉規則 明治二十二年二月二十六日

法律第六號  
 朕府縣會議員選舉規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣會議員選舉規則

- 第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡  
 長ニ差出スヘシ  
 選舉人名原簿ニハ選舉人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額并ニ其納稅地ヲ記載スヘシ  
 第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名簿ヲ  
 調製スヘシ  
 第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ選舉  
 人名簿ヲ調製スヘシ  
 選舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ  
 第四條 府縣會規則第十三條ノ年齡及ヒ年限ヲ算スルハ選舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地  
 租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依  
 リ財產ヲ相續シタル者ハ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ  
 第五條 選舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地區戶長ノ證狀ヲ添ヘ選舉人  
 名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戶長ニ届出ヘシ  
 前項ノ届出ヲ爲サ、ル納稅額ハ選舉及ヒ被選舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス  
 第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ選舉人名原簿及ヒ選舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役  
 所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示ス  
 ヘシ、

開會中議員建議書携帶上京等ヲ許サス 府縣會規則第十三條第十四條ノ地租納額計算方  
 府縣會議員選舉規則



第七條 選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラズ速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サス但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 選舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ選舉ヲ行フ前ニ於テ選舉權ヲ失ヒ若クハ選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

第十四條 選舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕選舉ノ場合ハ此限ニ在

第十四條 選舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕選舉ノ場合ハ此限ニ在

ラヌ

前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ選舉スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、選舉開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻、選舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補議員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

選舉開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ

選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ選舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セザルトキハ參會ノ選舉人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會場トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 選舉人ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時タリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得



- 第二十條 選舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ選舉錄並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ
- 投票函ハ投票ニ先チ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ
- 第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用キ投票ノ當日選舉會場ニ備ヘ置キ選舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ
- 用紙ハ正議員ノ外補員ノ増選ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ
- 第二十二條 選舉人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス
- 第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ
- 第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ
- 第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ竝ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ
- 第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス
- 第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラルヘキ裁判官渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス
- 第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧噪ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

- 第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルコトヲ得
- 選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得
- 第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會長ハ其投票ヲ取上クヘシ
- 第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セザリシ者ナキヤヲ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ
- 第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ
- 第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ被封印檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモノハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ
- 第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得
- 第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ
- 第三十六條 點數記入並ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會長竝ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ
- 第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用キ其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其



當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得  
分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムルモノトス

當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以テ當  
選ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ

當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依  
リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢済ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉會長立會人竝ニ書記之ニ捺印スヘシ

前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ選舉ニ關シ訴訟又ハ告訴告  
發アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ選舉錄中ニ記入スヘシ

- 一 選舉開會ノ月日並ニ時刻
- 二 選舉會長及ヒ書記ノ氏名
- 三 立會人ノ住所氏名
- 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其顛末
- 五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其顛末
- 六 投票函閉鎖ノ時刻
- 七 各被選舉人ノ得點數
- 八 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由
- 九 選舉閉會ノ時刻

十 右ノ外選舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項

當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ

第四十條 選舉錄ニハ選舉會長立會人竝ニ書記之ニ署名捺印スヘシ

第四十一條 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ  
照會シ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例  
ニ依ル

第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
- 三 選舉人又ハ被選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
- 四 選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
- 五 選舉人被選舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ  
餘事ト見做スノ限ニ在ラス
- 六 被選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テ  
ハ仍ホ其効アリトス
- 七 被選舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルト  
キハ前條第六第七ニ觸ル、モノアルト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ一人ノ氏名  
ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ



第四十四條 選舉人又ハ選被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ選舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會ヲ設クルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選舉人名簿中ニ各選舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續會場ノ取締選舉録ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ選舉會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選舉人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待チ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ

當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條 選舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補闕員ヲ増選スルトキハ其選舉ハ正議員選舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補闕員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補闕員當選ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ選舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ノ被選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當選ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 選舉全會ヲ取消シ更ニ選舉ヲ命スルハ其選舉ノ選舉規定ニ違フ場合ニ限ル但規定ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキモノハ取消ノ限ニ在ラス

選舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ



第五十九條 納稅額年齡其他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其被選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當選者トナリタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ

第六十一條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ選舉會場ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サハル者モ亦同シ

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉人ヲ恐嚇スル者又ハ選舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多衆ヲ囂集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知リ囂集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當選者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第六十六條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 選舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ抵觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ハラズ選舉人名原簿及ヒ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ

前項ノ名簿調製前議員ノ選舉ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他ハ總テ本規則ニ依ルヘシ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

○府縣會議員選舉ニ衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用スルノ件

明治二十三年五月二十九日  
法律第四十一號

朕府縣會議員選舉ニ衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則ニ依ル選舉ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員

府縣會議員選舉ニ衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用スルノ件



選舉法罰則補則ヲ適用ス但其ノ第二條第一項ニ衆議院議員選舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ  
府縣會議員選舉規則第六十二條其ノ第二條第二項ニ衆議院議員選舉法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於  
テハ府縣會議員選舉規則第六十三條ヲ適用スルモノトス  
府縣會議員選舉規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セズ

○市制施行地ニ係ル府縣會議員選舉及市公民資格 明治二十二年二月二  
十六日法律第七號  
朕市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 市制ヲ施行スルモ府縣會議員ハ之ヲ改選セズ
- 第二條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スルモ府縣會議員選舉ノ區域及區部會郡部會ニ係ル規  
定並區部議員ノ數ハ總テ從前ノ通タルヘシ但區部ハ改テ市部ト稱スヘシ  
區ノ區域ヲ變更シテ市ト爲スニ因リ議員ノ數ヲ増減スヘキトキハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ増減スル  
コトヲ得此場合ニ於テ其退職スヘキ議員ハ抽籤ヲ以テ定メ其增加スヘキ議員ハ新ニ選舉スヘシ
- 第三條 郡内ノ市街ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テモ府縣會議員選舉ノ區域ハ之ヲ變更セズ其選舉事務  
ハ郡長ニ於テ之ヲ管理シ選舉ニ關スル費用ハ郡役所經費ヲ以テ支辨スヘシ
- 第四條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ於テ從來地方稅ヲ以テ支辨シタル事業ニシテ市ノ事業ニ屬スヘキ  
モノハ府縣會ノ議決ヲ以テ市ニ引繼クヘシ
- 第五條 郡部ト經濟ヲ異ニセサル區ニ市制ヲ施行シ又ハ町村ニ市制ヲ施行シ若クハ町村ヲ區ニ合併シ

テ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ其區費又ハ町村費ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分  
任者ト看做スヘシ

郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ以テ區部地方稅中專ラ區ノ  
費用ニ支出シタルモノヲ區分シ其區分シタル稅金ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分  
任者ト看做スヘシ其區分シタル稅金ノ外區費ヲ納メタル者アルトキハ其金額ヲ併算スヘシ

○選舉法中議員タルヲ得サル官吏ノ件 明治二十二年六月四日  
閣令第十八號

府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議院議員選舉法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノ  
ミニ限ルモノトス  
非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

○區郡部會規則 明治十四年二月十四日  
太政官布告第八號

東京府京都府大坂府神奈川縣區郡部會規則左ノ通相定メ明治十三年五月第二十六號及第二十七號布告廢  
止候條此旨布告候事

但三府神奈川縣ノ外區制ヲ設ケタル諸縣ニ於テハ政府ノ裁可ヲ經テ此規則ヲ施行スルコトヲ得  
(十四年第二十號布告ヲ以テ但書追加)

第一條 三府及七神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ區部會郡部會トナシ區部郡部ニ分別シタル事件ヲ議

市制施行地ニ係ル府縣會議員選舉及市公民資格 選舉法中議員タルヲ得サル官吏ノ件 區郡部會規則 中卷 二三九



定セシム

第二條 區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件トハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條 府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ増加ヲ要スルトキハ府知事「縣令」ヨリ「內務卿」ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニスルコトヲ得

第四條 府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條 府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ但區部郡部常置委員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第六條 (十五年第十二號 布告ヲ以テ削除)

第七條 (十五年第十二號 布告ヲ以テ削除)

第八條 明治十三年度以前ニ係ル地方税ノ中區郡連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區部ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

第九條 區部ニ係ル戸數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府縣知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ家屋税ト爲スコトヲ得 (十五年第十二號 布告ヲ以テ追加)

○沖繩縣區制 明治二十九年三月五日 勅令第十九號 朕沖繩縣區制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣區制目次

第一章 總則

第一款 區及其ノ區域

第二款 區住民及其ノ權利義務

第三款 區條例及區規則

第二章 區行政

第一款 區吏員ノ組織及選任

第二款 區長區書記及區吏員ノ職務權限

第三款 給料及給與

第三章 區會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第四章 區ノ財務

第一款 區有財產及區稅

第二款 區ノ歲入出豫算及決算

第五章 區内一部ノ行政

第六章 區行政ノ監督

第七章 附則

沖繩縣區制

沖繩縣區制



第一章 總則

第一款 區及其ノ區域

第一條 此ノ勅令ハ沖繩縣ニ於テ區ト爲ス地ニ行フモノトス

第二條 區ハ郡ノ區域ニ屬セス別ニ行政區畫トス但シ法律命令ニ依リ特ニ區ノ區域ト符合セサル行政區畫ヲ設クルコトヲ妨ケス

區ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務竝從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又ハ將來法律命令ニ依リ區ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス

第三條 區ヲ變シテ郡内ノ間切ト爲シ又ハ郡内ノ間切ヲ變シテ區ト爲スコトヲ要スルトキハ内務大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ郡ノ境界モ亦自ラ變更スルモノトス

區ノ境界ヲ變更シ又ハ郡内ノ間切ヲ區ニ合併シ又ハ區ノ區域ヲ分割スルコトヲ要スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ郡ノ境界ニ涉ルモノアルトキハ郡ノ境界モ亦自ラ變更スルモノトス

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ關係アル會議ノ意見ヲ聞キ沖繩縣知事之ヲ定ム

區ノ境界明ナラサルコトアルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第二款 區住民及其ノ權利義務

第四條 區内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ區住民トス

區住民タル者ハ此ノ勅令ニ從ヒ區有財產並區ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及區ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ有スルモノトス但シ特ニ民法上ノ權利義務ヲ有スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)區ノ住民ト爲リ(二)區ノ負擔ヲ分任シ

及(三)區内ニ於テ土地ヲ所有シ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ區公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項二年ノ制限ハ場合ニ依リ區會ノ議決ヲ經テ沖繩縣知事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ特免スルコトヲ得

此ノ勅令ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノヲ云フ

區公民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ三年間擔當セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分ノ規則ハ内務大臣之ヲ定ム其ノ規則ニハ區會ノ議決ニ依リ六年以内區公民タル權ヲ停止シ場合ニ依リ同年期間他ノ住民ノ負擔スヘキ區稅ノ率ニ比シ四分ノ一以下ヲ増加スル規程ヲ設クルコトヲ得

第六條 區公民タル者前條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ公民タル權ヲ失フモノトス

區公民タル者公權停止中若クハ租稅滯納處分中ハ公民タル權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ區ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

第三款 區條例及區規則

第七條 區ハ區住民ノ權利義務及區ノ事務ニ關シ此ノ勅令中明文ナク又ハ條例ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ付テハ條例ヲ設クルコトヲ得

區ハ區有財產及區ノ營造物ニ關スル事項其ノ他此ノ勅令中規則ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ規則ヲ設クルコトヲ得



區條例及區規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス

區條例及區規則ヲ發行スルニハ地方所定ノ公告式ニ依ル其ノ公告式ハ區規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

## 第二章 區行政

### 第一款 區吏員ノ組織及選任

第八條 區ニ區長區書記ノ外必要ノ附屬員ヲ置ク

附屬員ハ有給吏員トシ區長之ヲ任免ス

第九條 區ニ收入役一名ヲ置キ區書記ノ中ニ就キ沖繩縣知事之ヲ命ス

收入役ハ身元保證ノ爲金圓若クハ物件ヲ差出スヘシ

第十條 區ハ處務便宜ノ爲區規則ヲ以テ區ノ區域ヲ數部ニ分テ每部部長及其ノ代理者各一名ヲ置クコトヲ得

部長及其ノ代理者ハ名譽職トス

部長及其ノ代理者ハ選舉權ヲ有スル區公民ノ中ニ就キ區長之ヲ任免ス

第十一條 區ハ區規則ヲ以テ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ハ區會議員若クハ區公民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ又ハ區會議員及區公民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テハ區長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル區書記ヲ以テ委員長トス

委員ハ區會ニ於テ之ヲ選舉ス

委員ノ組織任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

委員ニ關シテハ第四十五條ノ例ヲ適用ス

委員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲豫審ニ付セラレタルトキハ沖繩縣知事ハ其ノ職ヲ停止スルコトヲ得

### 第二款 區長區書記及區吏員ノ職務權限

第十二條 區長ハ區ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

區長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 區會ノ議事ヲ準備シ並其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事
- 二 區有財產及區ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
- 三 區ノ權利ヲ保護スル事
- 四 區ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算其ノ他區會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 五 區吏員ヲ監督シ委員ヲ除ク外其ノ他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス
- 六 區ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
- 七 外部ニ對シテ區ヲ代表シ及區ノ名義ヲ以テ他處若クハ一個人ト交渉スル事
- 八 法律命令若クハ區會ノ議決ニ依リ使用料加入金手数料區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
- 九 區條例及區規則ヲ設定スル事
- 十 區營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 十一 收入役及區吏員ノ身元保證ヲ徵シ並其ノ額ヲ定ムル事



十二 其ノ他法律命令若クハ上司ノ指令ニ依テ區長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事  
第十三條 區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ若クハ取消スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ區長ヨリ沖繩縣知事ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ又前項取消ニ不服アル區會ハ沖繩縣知事ニ訴願スルコトヲ得

前項沖繩縣知事ノ決定若クハ裁決ニ不服アル區會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ區長ヨリ沖繩縣知事ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ其ノ沖繩縣知事ノ決定ニ不服アル區會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
本條ノ決定若クハ裁決ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 區會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ沖繩縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ沖繩縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得  
前項沖繩縣知事ノ處分ニ不服アル區會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
本條ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 區會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ區長ハ沖繩縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

區會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル  
第一項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ區會ニ報告スヘシ

第十六條 第五十二條但書若クハ第五十四條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十七條 區書記ハ區長ノ命令ヲ承ケ區ノ行政ニ係ル庶務ニ從事ス

區長故障アルトキハ上席區書記區ノ行政ニ付其ノ職務ヲ代理ス

區長ハ區書記ヲシテ區ノ行政事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十八條 收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヲ爲シ其ノ他會計事務ヲ掌ル

第十九條 部長及其ノ代理者ハ區長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國ノ行政及區ノ行政ニ付區長ノ事務ヲ補助執行ス

第二十條 委員ハ區長ノ監督ニ屬シ區有財産若クハ區ノ營造物ヲ管理シ其ノ他區行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ區規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第二十一條 區役所ノ處務規程ハ沖繩縣知事ノ定メ其ノ他區吏員ノ處務規程ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ區長之ヲ定ム  
區吏員ノ服務紀律ハ沖繩縣知事之ヲ定ム



第三款 給料及給與

第二十二條 名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得  
部長及其ノ代理者並委員ニハ實費辨償ノ外區會ノ議決ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

實費辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ區會ノ議決ヲ經テ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ區規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ  
區條例ヲ以テ有給吏員ノ退隱料及遺族扶助料ヲ設クルコトヲ得

第二十四條 有給吏員ノ給料旅費退隱料遺族扶助料其ノ他第二十二條ノ給與ニ關シ異議アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ沖繩縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第二十五條 給料旅費退隱料遺族扶助料報酬辨償等ハ區ノ負擔トス但シ給料旅費ニ限リ當分國庫ヨリ支給ス

第三章 區會

第一款 組織及選舉

第二十六條 區會議員ハ區ノ選舉人其ノ被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其ノ定員ハ三十人以下トシ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第二十七條 區公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者及第六條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス  
直接區稅ヲ納ムル者其ノ額區公民ノ最多ク直接區稅ヲ納ムル三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ區住民

ニ非サル者又ハ二年以來ノ區住民ニ非サル者ト雖第五條ニ掲載スル其ノ他ノ要件ヲ具備スルトキハ選舉權ヲ有ス但シ第六條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 選舉人ハ分テ三級トス

選舉人中直接區稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス

一級選舉人ヲ除ク外直接區稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ區内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年長者ヲ以テシ年齢ニモ依リ難キトキハ區長自ラ抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人毎級各別ニ議員ノ三分ノ一ヲ選舉ス其ノ被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラサルモノトス

第二十九條 沖繩縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ選舉區ヲ設クルコトヲ得  
選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

選舉人ハ住居ヲ占ムル地ニ依テ所屬ノ選舉區ヲ定ム其ノ區内ニ住居ヲ占メサル者ハ直接區稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若數選舉區ニ亘リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ稅額ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接區稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ稅額ノ相同キトキ又ハ數選舉區ニ亘リ住居ヲ構ヘ若



クハ滞在スルトキハ本人ノ申出ニ依テ之ヲ定ムヘシ  
選舉區ヲ設クルトキハ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ  
被選舉人ハ其ノ選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第三十條 選舉權ヲ有スル區公民ハ總テ被選舉權ヲ有ス  
左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス

- 一 沖繩縣ノ官吏
- 二 區長區書記及有給ノ區吏員
- 三 檢事及警察官吏
- 四 神官僧侶其ノ他諸宗教師
- 五 小學校教員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ區會議員タルコトヲ得ス若同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

區長トノ間父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ區會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故アル者區長ノ任命ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第三十一條 區會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級ノ議員區分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシム初回ニ於テ退職セシムヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ任期ハ總選舉ヲ行ヒタル日選舉ノ數日ニ亙ル又ハ定期改選期日選舉ノ數日ニ亙ルヨリ起算シ曆

ニ從フ但シ總選舉ノ場合ニ於テ一部ノ議員後レテ選舉セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部若クハ全部ノ議員其ノ期日後ニ選舉セララルコトアルモ先ニ總選舉ヲ行ヒタル日又ハ定期改選期日ヨリ起算ス

退職ノ議員ハ再選セララルコトヲ得

議員ニ關シテハ第二十二條第一項第三項第二十四條第二十五條ノ例ヲ適用ス

第三十二條 區會議員中關員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ若定員三分ノ一以上關員アルトキ又ハ區長若クハ區會ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フヘシ

第三十三條 區長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其ノ選舉前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉原簿ヲ調製シ此ノ原簿ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ每選舉區各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ハ其ノ選舉前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間區役所ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期限内ニ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ區長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項區長ノ決定ニ不服アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ沖繩縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得



本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分、決定若クハ裁決ノ執行ヲ停止セス  
區長ハ第二項異議ノ決定又ハ第三項訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ  
選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登録セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ヲ行  
フコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ選舉ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス  
但シ名簿確定後訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正  
スヘキモノトス

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第三十四條 選舉ヲ行フトキハ區長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉ノ場所日時並毎選舉區及毎  
級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘ  
シ

第三十五條 選舉掛ハ名譽職トシ區長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ區長若クハ  
其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス但シ選舉區ヲ設クルトキハ毎選舉區各別  
ニ選舉掛ヲ設クヘシ

第三十六條 選舉開會中ハ選舉人ヲ除ク外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議若  
クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選  
舉人自ラ之ヲ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

區住民ニ非スシテ第二十七條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得  
代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代  
理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘシ  
選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封  
緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第三十八條 單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無効トス連名投票ニシテ第一號第五號第  
六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ  
無効トス

- 一 氏名ヲ記載セサルモノ
- 二 記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラ  
ス

六 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用キサルモノ

投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタルモノヲ順次ニ棄却スヘシ  
投票ノ受理並效力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十九條 區會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長



者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム  
 同時ニ補闕議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票  
 ノ數相同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム  
 第四十條 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ  
 他關係書類ヲ合綴シテ選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クトモ六年間之ヲ  
 保存スヘシ

投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少  
 クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第四十一條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當選ヲ辭セシ  
 トスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ區長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級若クハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以  
 内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ區長ニ申立ツヘシ其ノ期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選  
 ヲ辭シタル者ト看做スヘシ

定期改選ト補闕選舉トヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項  
 ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ終リ當選者定マリタルトキハ區長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選舉録ノ寫ヲ添ヘ之ヲ  
 沖繩縣知事ニ報告スヘシ

第四十二條 選舉人選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ沖繩縣知事ニ訴願シ其

ノ沖繩縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

沖繩縣知事ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨ  
 リ二十一日以内ニ選舉ヲ取消スヘシ

前項沖繩縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第四十三條 選舉ノ規程ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ  
 有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無効トスヘキモノトス但シ選舉ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事  
 ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 選舉若クハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第四十五條 區會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

區長若クハ區會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ沖繩縣知事ニ申立ツヘシ  
 第一項資格要件ノ有無ハ沖繩縣知事ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス  
 前項沖繩縣知事ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
 本條ノ場合ニ於テ資格要件ヲ有セストスル決定ハ其ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ判決アルマテ其ノ執行  
 ヲ停止ス

第二款 職務權限及處務規程

第四十六條 區會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手数料區稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル